

混合教育のモデルカリキュラム集



学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校

平成 29 年度 文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
混合教育の教育効果の実証と普及・啓発及び
発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業

はじめに

本校では健常な生徒と何らかの発達障がいを抱える生徒（その多くは自閉的傾向）がともに学校生活を送るなかで学びあい、刺激を与えあって成長していく過程を間近に見ることができます。健常児は自閉症児のひたむきさから努力する価値観を学んだり、ときには手を差し伸べることで自己の存在意義を再確認したりする一方、自閉症児は健常児からいろいろな生活のスキルを吸収する様子が窺われます。私たちはこれを「混合教育」と呼んでいますが、普段の学校生活や行事、あるいは校外での交流などをとおして3年間培われた友人関係は、私たち教員の想像をはるかに超えた深いものがあります。なかには卒業後も固いきずなで結ばれた友情が長く続いている例もあります。

そのような環境のなかで、より高い教育の成果を求めて繰り返し内容を練り直してきたものが、これ以降にご紹介する本校の混合教育の年間活動・指導カリキュラムです。本校の「財産」といっても過言ではありません。私たち武蔵野東高等専修学校の教員は普段の学校生活のなかでこのカリキュラムに沿いながら、時代の流れや生徒一人ひとりの個性に応じてさらに良い指導が展開できるよう、改良を加え続けています。そのような意味では、「完成品」ではなく「発展途上」のカリキュラムでもあります。

試行錯誤してきた本校も昨年、創立30周年を迎え、いささかながら世に役立つカリキュラムとして形になってきたと自負するところであります。この冊子を手にする、教職にある皆さまにとって少しでもお役に立つことができれば、私どもとしましてこれ以上の幸せはありません。

なお、補足事項として以下の点をご参考までに付け加えておきます。

● P.4 - P.6 混合教育 1～3学年

ホームルームにおける活動から混合教育に関わる要素を抽出したもの

● P.7 - P.54 専門教科

健常児と自閉症児混合の授業

※絵画コースと陶芸コースは以下の科目が共通

「美術史」Ⅰ～Ⅵおよび「美術概論」Ⅰ～Ⅵ

※本校は2学期制を採っており、学期ごとに所属する専門教科のコースを変更することが可能です。そのため、専門教科カリキュラムはいずれも学期ごとに完結する体裁となっております。

● P.55 - P.73 普通教科

健常児と自閉症児混合の授業

● P.74 - P.89 生活および普通教科

障がい程度 中度・重度の生徒を対象としたもの

● P.90 - P.95 進路指導

障がいのある生徒の就労支援を前提として作成されたもの

目次

はじめに	1
目次①	2
目次②	3
■混合教育カリキュラム	
混合教育	1 学年
混合教育	2 学年
混合教育	3 学年
■専門教科カリキュラム	
○絵画コース・陶芸コース	
絵画制作Ⅰ・Ⅱ	7
陶器制作Ⅰ・Ⅱ	8
美術史Ⅰ・Ⅱ	9
美術概論Ⅰ・Ⅱ	10
絵画制作Ⅲ・Ⅳ	11
陶器制作Ⅲ・Ⅳ	12
美術史Ⅲ・Ⅳ	13
美術概論Ⅲ・Ⅳ	14
絵画制作Ⅴ・Ⅵ	15
陶器制作Ⅴ・Ⅵ	16
美術史Ⅴ・Ⅵ	17
美術概論Ⅴ・Ⅵ	18
○体育コース	
スポーツ・体操Ⅰ・Ⅱ	19
体育理論Ⅰ・Ⅱ	20
スポーツマネジメントⅠ・Ⅱ	21
スポーツ・体操Ⅲ・Ⅳ	22
体育理論Ⅲ・Ⅳ	23
スポーツ科学論Ⅰ・Ⅱ	24
スポーツ・体操Ⅴ・Ⅵ	25
体育理論Ⅴ・Ⅵ	26
社会体育学Ⅰ・Ⅱ	27
○調理・製菓コース	
調理・製菓実習Ⅰ・Ⅱ	28
調理・製菓理論Ⅰ・Ⅱ	29
衛生学Ⅰ・Ⅱ	30
調理・製菓実習Ⅲ・Ⅳ	31
調理・製菓理論Ⅲ・Ⅳ	32
衛生学Ⅲ・Ⅳ	33
調理・製菓実習Ⅴ・Ⅵ	34
調理・製菓理論Ⅴ・Ⅵ	35
衛生学Ⅴ・Ⅵ	36
○ファッションコース	
ファッション実習Ⅰ・Ⅱ	37
ファッション理論Ⅰ・Ⅱ	38
服飾デザインⅠ・Ⅱ	39
ファッション実習Ⅲ・Ⅳ	40
ファッション理論Ⅲ・Ⅳ	41
服飾デザインⅢ・Ⅳ	42
ファッション実習Ⅴ・Ⅵ	43
ファッション理論Ⅴ・Ⅵ	44
服装史Ⅰ・Ⅱ	45

○情報ビジネスコース		
コンピュータ実技Ⅰ・Ⅱ	1 学年	46
コンピュータ理論Ⅰ・Ⅱ		47
ビジネス常識Ⅰ・Ⅱ		48
コンピュータ実技Ⅲ・Ⅳ	2 学年	49
コンピュータ理論Ⅲ・Ⅳ		50
ビジネス常識Ⅲ・Ⅳ		51
コンピュータ実技Ⅴ・Ⅵ	3 学年	52
コンピュータ理論Ⅴ・Ⅵ		53
ビジネス常識Ⅴ・Ⅵ		54
■普通教科カリキュラム		
数学Ⅰ	1 学年	55
数学Ⅰ	2 学年	56
数学Ⅱ	3 学年	57
地理	1 学年	58
日本史	2 学年	59
世界史	3 学年	60
国語総合	1 学年	61
国語総合	2 学年	62
国語表現	3 学年	63
英語	1 学年	64
オーラルコミュニケーション	2 学年	65
オーラルコミュニケーション	3 学年	66
ペン字	1・2 学年	67
一般体育	1 学年	68
一般体育	2 学年	69
一般体育	3 学年	70
保健体育	1 学年	71
保健体育	2 学年	72
保健体育	3 学年	73
■障がい程度 中度・重度の生徒を対象とした普通教科および生活カリキュラム		
生活	1 学年	74
生活	2 学年	75
生活	3 学年	76
数学Ⅰ	1 学年	77
数学Ⅰ	2 学年	78
数学Ⅱ	3 学年	79
地理	1 学年	80
日本史	2 学年	81
世界史	3 学年	82
国語総合	1 学年	83
国語総合	2 学年	84
国語表現	3 学年	85
英語	1 学年	86
英語	2 学年	87
英語	3 学年	88
音楽	1～3 学年	89
■進路指導カリキュラム		
進路指導（就労支援）	1 学年	90・91
進路指導（就労支援）	2 学年	92・93
進路指導（就労支援）	3 学年	94・95

《指導方針》 ○ 行事をととして学園の理解を深める。

○ 友人との交流をととし、相互理解を深めていく。

○ 健常児、自閉症児共にプラスの部分を刺激し合うことにより、お互いを高める。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ 1 年生研修	○同じベースで生活し相互に理解を深めていき、日々の生活のいろいろな面で協力し合う。 ○健常児、自閉症児共にお互いにとって初めての体験となり、さまざまな場面での驚きと戸惑いを相互理解の機会とする。また、困ったときはその場ですぐに担任に相談することを徹底する。	○学園の特徴を話す。 ○いじめなどがないようにする。 ○自閉症児のビデオを使用。 ○ネクタイやリボンの着用の仕方を自閉症児は健常児から学ぶ。 ○荷物整理時、自閉症児の几帳面さを健常児に見せて、模範とする。 ○行動面に関して、自閉症児の素直な対応や真剣に集団行動などに取り組む姿勢を健常児に見せ、模範とする。
5	○スポーツ大会練習	○学校行事への理解を深めると共に、一人ひとりの特徴を知り友愛の意味を知る。スポーツ大会の種目、応援合戦のすべてに健常児と自閉症児が関わりあえる活動となっている。(応援合戦、むかでリレー、三人四脚、台風の日、ワンフォーオール、綱引き、雑巾がけリレー、大王送り等) ○健常児がリーダーとなり、練習予定を組んだり、動きを教えたりし、自閉症児は真剣に練習に励むことによりお互いが切磋琢磨する。	○自主性を促す。(言葉がけ) ○交流給食を行う。 ○健常児に自閉症児の特徴をとらえ、理解できるように教員が競技への誘導の仕方や声がけの方法を伝えていく。例えば:手の握り方、呼び方 ○むらさき親子運動会：健常児のボランティア参加から学園に在籍する幅広い年齢の自閉症児の存在を知る。
6	○スポーツ大会	○チームのひとりであることを意識し協力し合っていく。	○チームリーダーのもとで活動していく。 ○スポーツ大会予行練習、当日共に生徒同士混合で食事を食べる。(自閉症児の家族分の注文した弁当を渡しに行くのを健常児が手伝う。その際に自閉症児の保護者がパディの健常児と顔を合わせ交流が始まる。)
7	○林間学習	○友だちとの輪を広げる。 ○班ごとの行動 (バスのなかでのレクリエーション、野外炊事、部屋内での活動、キャンプファイヤーなど) のなかで健常児、自閉症児のお互いの交友を深める。	○班ごとの交流給食を行う。 ○荷物整理時、自閉症児の几帳面さを健常児に見せて、模範とする。 ○行動面に関して、自閉症児の素直な対応や真剣に集団行動などに取り組む姿勢を健常児に見せ、模範とする。
9	○球技大会 (合同体育時)	○競技、応援をととして交流を深める。全員が参加意識を持つ。	○昼食、昼休みをととした交流を持つ。 ○学年の横割りでチームを作るので、お互いの得意分野で活躍する。
10	○校外交流	○綿密な計画を立て、無理のない交流をさせる。	○計画書の提出 ○前期と後期の境目の休日に小グループを作り、カラオケや映画鑑賞、テーマパークなどへ出かける交流活動を奨励する。健常児が主体となり、友だちの自閉症児が興味を持つ場所や行ったことのない場所へ行く活動計画を練り、それぞれの担任と相談しながら進める。
11	○紫峰祭	○自分の分担に責任を持ち、回りに気をくばり作業を進める。 ○社会性を培っていく。	○一日、パディで行動を共にする。活動が異なる時間帯はそれぞれの友だちとパディを組み行動する。同じ行動の時間帯になったら指定した場所に指定した時間に待ち合わせる。
12	○合唱コンクール	○学年・クラスの和を深めながら合唱練習を行う。	○Team C の練習風景などを合唱コンクールのPJリーダーなどが見学して自閉症児の友だちや先輩たちの頑張りを知る機会とする。
1	○スキー教室	○校外学習をととしてお互い友情関係を深めていく。 ○生活、身辺の自立を心がける。 ○班ごとの行動 (バスの中やレクリエーション、部屋内での活動、ビュッフェスタイルの食事等) の中で健常児、自閉症児のお互いの交友を深める。	○来年度の横割の生活班を意識して指導する。 ○所持品の自己管理 ○荷物整理時、自閉症児の几帳面さを健常児に見せて、模範とする。 ○行動面に関して、自閉症児の素直な対応や真剣に集団行動などに取り組む姿勢を健常児に見せ、模範とする。 ○ホテル内の売店にて自閉症児の買い物練習を行う。
2	○キャリアプランニングカリキュラム ○友愛会送別会練習	○健常児は講座選択、自閉症児はスキルアップトレーニングに参加する。 ○混合教育についてより深く理解する。	○自閉症児の友だちがスキルアップトレーニングを一生懸命に頑張っている姿を健常児に見せたり、トレーニングを体験させたりすることにより、自閉症児の友だちの頑張りを理解させる。 ○健常児、自閉症児のお互いの得意なことを披露させる。
3	○送別会・卒業式	○卒業していく先輩を、心を込めて送り出す。	○1年生は卒業式には参加しない。前日の送別会と卒業式最終練習のみ。

《活動目標》 ○ 正しい相互理解の上に立った交流をする。

○ 社会自立を意識した継続的な交流を目指す。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○新年度を迎えて ○新入生歓迎会	○クラスの一員として意識を持つ。 ○昼食を共にし、交流を深める。 ○自閉症児の問題行動の対処方法を確認すると共に、お互いの長所を認め合う。 ○歓迎会では学園の歴史、創立者の説明に本校の教育の特色である混合教育を交え説明させる。	○入学式・歓迎会会場セッティングでは、できる者だけが取り組むのではなく、パディや障がいのある友だちができることを考えさせ、共に行う。また教職員は、現状のパディというペアにとらわれることなく、生徒間の交流の距離感を見落とさないようにする。
5	○連休中の校外交流 ○スポーツ大会練習	○信頼関係のできている者同士で交流を深める。 ○練習における交流によりお互いの特性を知る。お互いの活躍の場を見出す。	○校外交流計画書を提出し、事前の段取り先読みの必要性を経験する。 ○むらさき親子運動会への健常児のボランティア参加。 ○健常児がリーダーとなり、練習予定を組んだり、動きを教えたりし、自閉症児は真剣に練習に励むことによりお互いが切磋琢磨する。
6	○スポーツ大会 ○林間学習に向けて	○各競技をととし、協力し励まし合う。競技以外でもパディを組む。 ○全力で臨ませる過程で個々の運動能力などに大きな差が存在する事を実感させながら、他者理解を深めていく。 ○林間学習に向けて班ごとに昼食をとる。	○スポーツ大会予行練習、当日共に生徒同士混合で食事を食べる。(自閉症児の家族分の注文した弁当を渡しに行くのを健常児が手伝う。その際に自閉症児の保護者がパディの健常児と顔を合わせ交流が始まる。)
7	○林間学習	○班員同士の交流を深める気配りをお互いにする。 ○班ごとの行動 (バスのなかでのレクリエーション、野外炊事、部屋内での活動、キャンプファイヤーなど) のなかで健常児、自閉症児のお互いの交友を深める。	○ひとりのパディの生徒に負担をかけない。また自閉症児は依存しすぎない。 ○荷物整理時、自閉症児の几帳面さを健常児に見せて、模範とする。 ○行動面に関して、自閉症児の素直な対応や真剣に集団行動などに取り組む姿勢を健常児に見せ、模範とする。
9	○校長面談・進路説明会 ○球技大会 (合同体育時)	○卒業後の進路の方向性を意識させると共に、自分自身の今後の具体的な活動について知る。 ○競技、応援をととして交流を深める。 ○全員が参加意識を持つ。	
10	○進路選択	○健常児、自閉症児ともに働くことの意味を知る。 ○自分自身の進路だけでなく、友だちの進路に対しての具体的な活動を知る。	○職場実習、進路についての理解を深めると共に励まし合う。
11	○紫峰祭 ○チャレンジショップインターンシップ	○準備段階から関わり合い、各催し物、営業を成功させる。 ○お互いの接し方について確認する。 ○自閉症児にとってチャレンジショップでのインターンシップは、初めて経験することとなるが、すでに経験している健常児が模範となりさまざまな業務の取り組みを教えさせる。また自閉症児にとって、実習で好結果を得るうえでもこの経験が大きなステップとなることを理解させる。	○一日、パディで行動を共にする。活動が異なる時間帯はそれぞれ別の友だちとパディを組み行動する。同じ行動の時間帯になったら指定した場所に指定した時間に待ち合わせる。
12	○合唱コンクール ○校外交流	○学年・クラスの和を深めながら合唱練習を行う。	○聴き手として他クラスの曲も楽しむ。 ○Team C の練習風景などを合唱コンクールのPJリーダーなどが見学して自閉症児の友だちや先輩たちの頑張りを知る機会とする。 ○校外交流計画書の提出
1	○スキー教室	○生活班、スキー講習班での交流を深め、助け合う。	○自閉症児の荷物整理などについてできるだけ自力で行わせる。 ○ホテル内の売店にて自閉症児の買い物練習を行う。
2	○キャリアプランニングカリキュラム ○送別会準備 ○卒業式出席に向けて	○健常児は講座選択、自閉症児はスキルアップトレーニングに参加する。 ○学年および全学年の団結力を深める。	○自閉症児がスキルアップトレーニングを一生懸命に頑張っている姿を健常児に見せたり、トレーニングを体験させたりすることにより、自閉症児の頑張りを理解させる。 ○健常児、自閉症児のお互いの得意なことを披露させる。
3	○送別会 ○卒業式	○卒業していく先輩を、心を込めて送り出す。 ○卒業生それぞれが充実した3年間を送ったからこそその晴れ舞台であったことを話し、すべての生徒が苦しみながらも努力し、卒業後の居場所にいる権利を得たことの話をする。	

《活動目標》 ○ 卒業後のことを考慮し、自閉症児、健常児共に相互理解しながら活動を深める。
○ 友愛の心をさらに育て、コミュニケーションの取り方を深めていく。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○新年度を迎えて ○学年・クラスの連帯感 ○ハワイ学習に向けて	○学年、クラスの一員としての役割、連帯感を持たせる。 ○自閉症児の問題行動の対処方法を確認すると共に、お互いの長所を認め合う。	○ハワイ学習の意義について社会性、団体行動、友だちとの関わり、学習としての活動への参加の仕方など具体的に考えさせる。
5	○ハワイ学習 （事前・事後指導含む） ○スポーツ大会練習	○事前学習の一環として給食交流および昼休みの班行動を行う。 ○荷物の整理は、独力で行う。 ○安全かつ楽しいハワイ学習になるようお互いが気を遣う。 ○競技・応援練習をととし、学年内の協力体制を築く。	○むらさき親子運動会 健常児のボランティア参加
6	○スポーツ大会 ○進路について Part1	○練習・打ち合わせおよび事後指導（協力体制、目標達成度等）。各種目応援合戦をとし協力し助け合うことで交流を深める。 ○職場実習、企業訪問を前に、友だち同士励まし合う。	○スポーツ大会では優勝を目標に、心をひとつに、一致団結する。また自閉症児の友だちとの協力の仕方も種目練習のなかで具体的に示唆し、順番や立ち位置など、自閉症児の友達の位置と共に把握させていく。
7	○校外交流計画	○計画を立て、高校生年齢に合った交流をする。	○校外交流計画書、報告書提出：校外交流に出掛けた際は電話や家庭での報告を徹底させ、年齢相応な活動、関わりを楽しめるように事前学習を行う。
9	○球技大会（合同体育時） ○紫峰祭の準備	○チームワークについて考えさせると共に、球技を通じてコミュニケーション・意思伝達の練習・実践を促す。 ○競技、応援をとおして友だちを助け合い、励まし合うことを学ぶ。 ○模擬店の準備（メニューの検討、タイムスケジュール計画、自閉症児との行動）を促す。	○夏休み中の校外交流の様子を発表する。 ○OS ボランティア参加、昼食、昼休みをとおした交流を持つ。 ○自閉症児の友だちとの会話の幅を広げるよう（実習の様子、球技大会など）促す。
10	○進路について Part2 ○紫峰祭の準備	○前期の職場実習、進路活動などを振り返り、その課題を明確にし、今後の活動に向けて、お互いに励まし合う。 ○紫峰祭時の自閉症児の友だちとの行動、健常児同士の連携の確認を行わせる。事前学習・事前準備をしっかり行う。	
11	○紫峰祭（事前・事後指導含む）	○給食交流、昼休み交流を行う（ベアの徹底）。 ○友だちと協力する心、責任について考えさせる。 ○各分担で協力し合い、催し物、営業を成功させる。	○紫峰祭時の貴重品、食券などの自己管理と自閉症児の友だちとの行動、タイムスケジュール確認。 ○接客対応・お客さまへの言葉遣いなどの練習、実践の機会を自閉症児の友だちと共に多く作る。
12	○合唱コンクール練習 ○校外交流 ○卒業文集制作開始	○合唱練習時間の確保、練習は生徒主体で行わせることで、学年のまとまりを作り上げていく。 ○スポーツ大会の反省をもとに、自閉症児の友だちとの協力の仕方を再度確認させる。 ○普段できないことを経験し、交流を深める。 ○文集制作の計画を立て、進めていく。生徒主体で準備運営させる。	○校外交流計画書、報告書提出：校外交流に出掛けた際は電話や家庭での報告を徹底させ、年齢相応な活動、関わりを楽しめるように事前学習を行う。 ○自閉症児の友だちの文集作成にも協力していく。
1	○スキー教室	○生活班、スキー班において協力し合い、交流を深める。 ○学年、生活班、スキー班内での協力を促し、交流を深める。また、荷物の整理整頓は独力で行わせる。	○冬季休暇中の校外交流報告書提出、発表させる。 ○スキー教室が学園生活最後の校外学習であることを意識させる。 ○部屋内・班内での余暇活動への積極的な参加・興味喚起を促し、自閉症児の友だちと楽しい時間を過ごさせる。
2	○卒業文集制作 ○卒業式練習	○文集制作過程のなかで個性を生かし、全員が協力し制作に当たる。 ○3年間の思い出と共に、友だちの存在・意義について考えさせる。	○給食時などの交流を自然な形で行えるよう、自主性に任せる。
3	○卒業式	○東学園の教育のまとめとして立派に式に参加する。	○自閉症児の友だちの存在、友だちとの関わりを意識させ、自然な交流のなかで互いに感謝の気持ちを持つようにする。 ○卒業後も友愛の和をさらに深めるようにする。

《指導方針》 ○ 素描から着彩まで、幅広い題材に触れ、描画、技術の基礎力を身につける

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	< 静物素描、および淡彩 > ○基本的なモチーフを組む （1 作品）	○十分なエスキース取り・正確な形態の把握 ○対象物の位置関係の明白化や鉛筆のトーン幅の充実および扱い方の工夫をさせる。	○えんぴつ 2B ～ 4H ○透明水彩絵の具 ○自閉症児に健常児の線の使い方や濃淡など、鉛筆の扱い方を観察、模倣をさせる。
5	○（2 作品）	○モチーフを組みかえ 2 制作を行い、対象物の形状に沿ったタッチの工夫 ○透明水彩の扱い、筆の扱い方、重ね塗りの工夫をさせる。	○講評を行い健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を持たせる。また、健常児には自閉症児（表現）の特性を作品から感得させる。
6	< 静物画 > 鉛筆淡彩 ○少し複雑なモチーフを組み 合わせレベルによりグルー プをわけろ（3 作品）	○静物画作品を参考に安定した構図や、空間を考えさせる。 ○形のくるいを注意し着彩を考え鉛筆による書き込みを重視させる。	○水分量や混色など、自閉症児に健常児の水彩絵具の扱い方を観察、模倣させる。
7	< 静物画 > 鉛筆淡彩	○光源を考え色による表現を行い、空間の充実を図り全体のバランスも考えさせバールールを見直させる。 ○構図を考えエスキースを行わせる。	○ポスター制作（紫峰祭用） ○紫峰祭準備 ○自閉症児に健常児の制作の進捗を意識させ、ペースを合わせることで時間への意識の向上や視野の拡大を図る。
9 ・ 10	< 静物画 > 鉛筆淡彩	○着彩の手順を覚え道具の扱いを、制作をとし指導する。 ○正確な形を意識する。	○前期試験 ○講評を行い健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を深めさせる。

《指導方針》 ○ 素描から着彩まで、幅広い題材に触れ、描画、技術の基礎力を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	< 静物画 > （アクリル）	○アクリルの基本知識を一齐指導で行い、着彩の手順を覚え、溶剤の指導を行うなど、制作をとおして道具の扱い方を指導する。 ○加筆を充分繰り返し密度を高め仕上げを行う。	○F15 号限定 ○アクリル絵の具用具一式 ○ポスター制作（紫峰祭用） ○紫峰祭準備 ○キャンバス張りにおいては授業内パディを組み、一緒に作業を行わせることで、工程や道具の扱い方を理解させる。
11	< 自画像 > （アクリル）	○各自の下絵をとし構図を学び、空間を意識し加筆を充分繰り返し密度を高める。 ○調子の幅を広げさせる。	○F20 号～ 30 号 < 紫峰祭展示 > ○紫峰祭展示をとおして、達成感や喜びを共有させる。 ○講評を行い健常児、自閉症児共に相互の作品への興味をより深めさせる。
12	< 自画像 > （アクリル） ○加筆制作	○制作をとし混色、色調、筆による表現などさまざまなことを身につける。	○自閉症児に筆やペインティングナイフ、絵具の量など、健常児の素材の扱い方を観察、模倣させることでアクリル絵具の特性を理解させる。
1	< 自画像 > （アクリル） ○加筆制作	○充分な加筆を繰り返し、作品の内容を充実させ密度を高めさせる。	○制作中の相互のコミュニケーションの充実を図り、切磋琢磨するなかで絵画や表現に対する興味を深めさせる。 ○後期試験
2 ・ 3	< 自画像 > （アクリル） ○加筆制作完成	○混色や全体を考え加筆を行う。技法的なことも学ぶ。 ○細部などについても考え完成度を高める。 ○全体の色調やバランスを見直し加筆を行い、完成を意識させる。	○F30 号 ○講評を行い健常児、自閉症児ともに相互の作品の長所を認めさせる。

《指導方針》 ○ やきものの制作工程を知り、板作り・ろくろ成形の基本的技術を理解、習得させる。
○ 土の特性を知り、個々の制作に役立たせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方	○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○制作に必要な土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。 ○授業のルールを理解させる。	○コース内でのバディを組ませ、授業終了前の清掃を一緒に行わせる。
5	○販売作品制作 「皿」（板作り成形） ○ろくろ成形 中心取り 土取り 成形 削り	○型おこしの制作工程を理解させ、技術習得を促す。 ○ろくろの一連の工程を覚えさせる。 ○削りの際に厚みを確認する習慣をつけさせる。	○バディの行動面・言語面の特徴を知るように促す。 ○電動ろくろの準備片づけを覚えた生徒が覚えていない生徒と一緒に行わせる。
6	○販売作品制作 「皿」（板作り成形） 「飯茶碗」 ○施釉	○制作に対する集中した取り組みを確立させる。 ○ろくろの回転を利用して土を伸ばしていく感覚をつかませる。 ○施釉の方法を覚えさせる。	
7	○販売作品制作 「皿」「飯茶碗」 ○紫峰祭展示作品「表札」	○装飾を工夫させる。 ○口縁を美しく仕上げる技術を学ばせる。 ○用途を意識させる。 ○自由な発想をさせる。	
9 ・ 10	○販売作品制作 「皿」「飯茶碗」 ○紫峰祭準備 ○前期のまとめ	○丁寧な制作をさせる。 ○用途を意識したデザインをさせる。 ○値つけを行わせる。 ○学習した内容を振り返り、後期へ向けての課題を再確認させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ やきものの制作工程を知り、手びねり・ろくろ成形の基本的技術を理解、習得させる。
○ 土の特性を知り、陶芸作品に触れ、個々の制作に役立たせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方 ○紫峰祭準備	○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○制作に必要な土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。 ○授業のルールを理解させる。 ○紫峰祭へ向けて展示の準備をさせる。	○前期からの生徒と後期からの生徒でバディを組ませ、陶芸の時間の基本的なルールを教えていく。
11	○紫峰祭準備及び販売練習 ○手びねり成形の基礎 ○ろくろ成形の基礎 中心取り・土取り 成形・削り ○販売作品制作 「飯茶碗」	○販売時の挨拶、梱包などの練習をさせ、習得を図る。 ○土ひもの太さや接着を意識させる。 ○ろくろの一連の工程を覚えさせる。 ○用途や収縮率を考えて制作させる。	○販売練習をバディで行い、紫峰祭当日をイメージさせていく。 ○紫峰祭 ○バディで成形を行い、流れを再確認させる。
12	○販売作品制作 「飯茶碗」「小鉢」「皿」（手びねり） ○施釉 ○窯詰め（素焼き）	○土を伸ばす感覚を覚えさせる。 ○削りの際に厚みを確認する習慣をつけさせる。 ○施釉の流れと後処理を覚えさせる。 ○窯の詰め方を知る。	○バディで釉薬を一緒に掛け、方法を覚えさせる。
1	○アートスケープ展示作品制作 ○販売作品制作 「飯茶碗」「小鉢」「皿」（手びねり）	○習得した技術を基に表現させる。 ○装飾に工夫を凝らす。	○後期試験
2 ・ 3	○販売作品制作「自由制作」 ○施釉 ○後期のまとめ	○自由な発想を器で表現させる。 ○施釉を工夫させる。 ○学習した内容を振り返り来年度へ向けての課題を再確認させる。	○アートスケープ

《指導方針》 ○ 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
○ 美術に対する豊かな心情を、身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○原始 旧石器時代 新石器時代	○美術の起源と当時の生活との関わり合いを理解させる。 ○さまざまな文化の起こりを理解させる。	○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。 ○重度自閉症児に関しては教卓の横に席を設け動向を見ながら授業を展開する。
5	○原始 新石器時代	○新石器時代の特徴を、住居や、土器の製作とおし人類の生活の変化を学ぶ。	○重度自閉症児に対してはバディの働き掛けによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。 ○ノートの取り方、書き方の基本を教えていく。
6	○古代 オリエント美術	○インダス河流域から小アジアの地中海沿岸までの地域について学ぶ。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組みさせ、理解の向上を図っていく。
7	○古代 オリエント美術 エジプト美術	○人類がもっとも早く都市を中心とする文明、エジプトの世界を美術をとおして学ぶ。	○重度自閉症児には板書書写の文字の大きさやノートの扱いなど、バディの協力のもとスキルの向上を図っていく。 ○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。
9 ・ 10	○古代 エジプト美術	○エジプトの美術品についての特徴を、作品をとおして学ぶ。	○前期試験

《指導方針》 ○ 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
○ 美術に対する豊かな心情を、身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○古代 ギリシャ美術	○ギリシャ、ローマを中心に古代美術の成り立ちとその特徴を理解させる。	○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。
11	○古代 ローマ美術 初期キリスト教美術	○美術とキリスト教の関わりとのなかにどのような文化が生まれてきたか考えさせる。	○重度自閉症児に対しては継続的ななぞり書きや書写課題を与え文字を書くスキルの向上を図っていく。
12	○中世 ビザンティン美術	○初期キリスト教美術からの変化を、建築をとおして学ぶ。 ○絵画の変化の特徴も学ぶ。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。
1	○中世 ロマネスク美術 ゴシック美術	○ロマネスク美術の独特な建築方法について学ぶ。 ○教会建築にまつわる芸術についても学ぶ。 ○ゴシック建築の特徴を、建築物をとおして学ぶ。 ○ゴシック美術とキリスト教との関わりを、作品をとおして学ぶ。	○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ レタリング、デザインを中心に専門美術に必要な知識や技法、センスを身につける。
○ 美術に対する豊かな心情を身につける。
○ レタリング検定に合格する技術を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	《レタリング》 ○レタリング検定ガイダンス ○字体の理解 ○用具、用材、用法の理解	○レタリング検定の内容を理解する。 ○常用漢字の骨格に習って字体の基礎を理解させる。 ○コンパス、ディバイダーを使用し用具の基礎知識を身につける。	○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。 ○重度自閉症児に対してはバディの働きかけによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
5	《レタリング》 ○書体の理解 ○用具、用材、用法の理解	○和文書体に関する基礎知識を身につける。 ○名称を覚えさせる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
6	《レタリング》 ○レタリング検定対策および反省 ○紫峰祭ポスター制作	○検定試験における、諸注意と禁止事項を再確認させる。 ○紫峰祭ポスターの下絵原画をレタリングの応用をとおして考える。	○レタリング検定 ○重度自閉症児に対してはバディの働き掛けによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
7	○レタリングの復習 ○紫峰祭ポスター制作	○イメージ、発想を豊かにさせる。 ○紫峰祭ポスターの下絵原画に、着採を行いレタリングを応用し考える。	
9・10	○レタリングの復習 ○フリーハンドによる字体視写 ○紫峰祭ポスター制作 ○溝引き練習	○与えられた見本どおりに字体を拡大させる。 ○紫峰祭ポスターの着採を行い完成させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ レタリング、デザインを中心に専門美術に必要な知識や技法、センスを身につける。
○ 美術に対する豊かな心情を身につける。
○ レタリング検定に合格する技術を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○紫峰祭ポスター制作 ○ポスターカラーの使い方（明暗の理解） ○溝引き	○グラデーション制作を行わせる。 ○溝引き技術をマスターさせる ○溝引きを使って、抽象形態を制作させる。	○紫峰祭ポスターの講評のなかで健常児、軽度自閉症児と共に制作意図や感想の発表を行わせることで相互の作品への興味を深めさせる。
11	《表現技法》	○美術（デザイン）における表現技法を学ぶ。	○紫峰祭
12	《構図、構成》 《マークデザイン》 《アート・スケープ》 シンボルデザイン レタリングの応用 ○ロゴタイプ（名前）	○混色を行いポスターカラーに慣れさせる。 ○デザインの基礎となる構図、構成の理解をさせる。 ○デザインの基礎としてマークデザインを行わせる。	○冬期課題 ○重度自閉症児には健常児と類似した塗りを中心とした課題を与え、状況に応じてバディに言葉掛けや補助を行わせる。 ○シンボルマークの講評を行い健常児、軽度自閉症児共に相互の作品の長所を認めさせる。
1	《版画》 《ロゴマーク》 オリジナルデザイン（名前）	○版画の種類について学びそれぞれの特徴についても学ぶ。 ○ロゴマークとシンボルマークの違いについて学ぶ。	○後期試験
2・3			※キャリアアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 構成力、色彩感覚、空間の捉え方を、制作をととして身につけさせる。
○ 制作、鑑賞をととして、感性を磨かせると共に各自のスタイルを確立させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○自由制作（F30 以上）	○数バターンのエスキースを描かせ、そのなかから良いものを選択させる。 ○下描きはせずに絵の具の特性を生かさせる。	○継続的に行ってきたキャンバス張りを自力で行わせることでスキルと自信の向上を図る。 ○健常児のエスキース内容を意識させ、自閉症児に自由制作の意味理解を促す。
5	○自由制作（F30 以上）	○エスキースのイメージを大切にしながら制作させる。 ○絵全体の明暗の構成を意識させる。	○自閉症児に健常児の制作の進度を意識させ、ペースを合わせることで時間への意識の向上や視野の拡大を図る。 ○制作中の相互のコミュニケーションの充実を図り、切磋琢磨するなかで絵画や表現に対する興味を深めさせる。
6	○自由制作（F30 以上）	○エスキースを充実させることにより完成に対する意識を高めさせる。	○講評を行い健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を持たせる。また、健常児には自閉症児（表現）の特性を作品から感得させる。 ○絵具などの購入を自らできるよう家庭と連携をとっていく。
7	○自由制作（F30 以上）	○暖色、寒色の使い方を、工夫させる。 ○完成のイメージを意識させる。	○学展希望者出品 ○夏期課題 「美術館見学」
9・10	○自由制作（F30 以上）	○マチエールを意識した制作を進めさせる。 ○仕上りの色彩のイメージを、常に意識させる	○前期試験 ○講評を行い健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を深めさせる。 ○継続的に行ってきたキャンバス張りを自力で行わせることでスキルと自信の向上を図る。

《指導方針》 ○ 構成力、色彩感覚、空間の捉え方を、制作をととして身につけさせる。
○ 制作、鑑賞をととして、感性を磨かせると共に各自のスタイルを確立させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○自由制作（F30 以上）	○紫峰祭に向け各自目標を定め、制作、準備を進めさせる。	○制作中の相互のコミュニケーションの充実を図り、切磋琢磨するなかで絵画や表現に対する興味を深めさせる。
11	○紫峰祭展示 ○自由制作	○エスキースを重ねて、構図を工夫させる。	○紫峰祭
12	○自由制作	○さまざまな技法を身につけ表現の幅を広げさせる。 ○自由な発想を大切に、各々のスタイルを確立させる	○継続的に行ってきたキャンバス張りを自力で行わせることでスキルと自信の向上を図る。
1	○自由制作	○実験的な学習も平行して行い制作へ生かさせる。 ○用材の生かし方も確認させ、作品に生かせるようにさせる。	○制作中の相互のコミュニケーションの充実を図り、切磋琢磨するなかで絵画や表現に対する興味を深めさせる。 ○後期試験
2・3	○自由制作	○材料・道具の特性を知り作品に生かしていく。 ○全体を把握して仕上がりも構想させる。	○講評を行い健常児、自閉症共に相互の作品の長所を認めさせる。

《指導方針》 ○ やきものの制作工程を知り、板作り・ろくろ成形の基本的技術を理解、習得させる。
○ 個々のレベルに応じ、幅広い成形技術を身につけさせ、陶器制作全般の技術を向上させる。
○ 土の特性を知り、個々の制作に役立たせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○前年度の復習 ○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方販売 ○作品制作 「フリーカップ」「飯茶碗」	○昨年の復習と共に成形法の基礎を確認させる。 ○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。 ○場合によっては亀板を使って成形させていく。	○前年度からの生徒と今年度からの生徒でバディを組ませ、土練りを一緒に練習させる。また、行動面・言語面の特徴を知るように促す。問題行動が起こった場合の対処法を説明する。
5	○ろくろ成形の基礎中心取り 土取り・成形・削り ○販売作品制作 「フリーカップ」「飯茶碗」「皿」(板作り成形)	○ろくろの一連の工程を覚えさせる。 ○用途を考え作品の大きさ厚みを意識させる。 ○大きい土を扱う時の感覚に慣れさせる。	
6	○紫峰祭展示作品「時計」 ○販売作品制作 「自由制作」「飯茶碗」「フリーカップ」 ○施釉 ○窯詰め（素焼き・本焼き）	○自主制作への意識を高めさせる。 ○成形の形や大きさを揃えられるように練習させる。 ○施釉を工夫させる。 ○素焼きと本焼きの詰め方の違いを理解させる。	○バディで釉薬と一緒に掛け、方法を覚えさせる。
7	○紫峰祭展示作品「時計」 ○販売作品制作 「自由制作」「飯茶碗」「長皿」	○紫峰祭を意識し、成形させる。 ○柄ゴテの扱い方を習得させる。	
9 ・ 10	○販売用作品制作 「自由制作」 ○紫峰祭準備 ○前期のまとめ	○装飾を工夫させ、個性を生かした制作をさせる。 ○値つけを行わせる。 ○学習した内容を振り返り後期へ向けての課題を再確認させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ やきものの制作工程を知り、手びねり・ろくろ成形の基本的技術を理解、習得させる。
○ 個々のレベルに応じ、幅広い成形技術を身につけ、陶器制作全般の技術を向上させる。
○ 土の特性を知り、様々な陶芸作品に触れ、作品に対する意識と感覚を伸ばす。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方 ○紫峰祭準備	○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○制作に必要な土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。 ○陶器販売の中心的役割を果たす学年であるという自覚を持たせ、接客の練習や、環境整備を行わせる。	○前期からの生徒と後期からの生徒でバディを組ませる。土練りを一緒に練習させる。また、バディで行動面・言語面の特徴を知るように促す。問題行動が起こった場合の対処法を説明する。
11	○紫峰祭準備及び販売練習 ○手びねり成形の基礎 ○ろくろ成形の基礎中心取り ○土取り・成形・削り	○紫峰祭では、個々の分担に責任を持たせ、活動させる。 ○土ひもの太さや接着を意識させる。 ○ろくろの一連の工程を覚えさせる。	○販売練習をバディで行い、紫峰祭当日をイメージさせていく。 ○紫峰祭 ○ろくろ成形をバディで一緒にに行い工程を覚えさせる。
12	○アートスケープ展示作品制作 ○窯詰め 素焼き 本焼き	○展示作品制作をさせる。 ○素焼き・本焼きの窯詰めのポイントを意識させる。	
1	○「自由制作」 販売または展示	○施釉の方法を工夫させ、本焼きの窯詰めを覚えさせる。	○後期試験
2 ・ 3	○「自由制作」	○学習した技術を使い自由な表現をさせる。 ○学習した内容を振り返り、来年度へ向けての課題を再確認させる。	○アートスケープ

《指導方針》 ○ 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
○ 美術に対する豊かな心情を、身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○原始から中世について	○西洋美術の源流となった古代美術を中心に現代との関わりを、再度理解する。	○レタリング検定までは美術概論が主体となるため、概要をつかむ程度に授業を進める。 ○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。
5	○イタリアルネッサンス	○ルネッサンスによって、文化の流れが大きく変動していく様子を理解させる。	○重度自閉症児に対してはバディの働き掛けによって日付など、毎回の授業導入の板書書きを自発的に行えるよう促していく。
6	○イタリアルネッサンス	○ルネッサンスによって、文化の流れが大きく変動していく様子を理解させる。	○レタリング検定 ○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組みさせる理解の向上を図っていく。
7	○イタリアルネッサンス ○作品鑑賞	○夏期課題として美術館見学を行わせる。	○重度自閉症児には板書書きの文字の大きさやノートの扱いなど、バディの協力のもとスキルの向上を図っていく。 ○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。
9 ・ 10	○イタリアルネッサンス	○ルネッサンスによって、文化の流れが大きく変動していく様子を理解させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
○ 美術に対する豊かな心情を、身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○イタリアルネッサンスおよび作品鑑賞	○ルネッサンス期の美術（絵画、彫刻、建築）についてスライドを使って視覚的に理解させる。	○重度自閉症児に対しては継続的ななぞり書きや書写課題を与え文字を書くスキルの向上を図っていく。 ○必要に応じて健常児に自閉症児への助言をするよう促す。
11	○北欧ルネッサンス	○北欧ルネッサンスの代表作家であるデューラ、ファンアイクについての知識を深めさせる。	○重度自閉症児に対しては継続的ななぞり書きや書写課題を与え文字を書くスキルの向上を図っていく。
12	○北欧ルネッサンス	○美術の流れが大きく変わる14世紀以降について再度考察を加えさせる。	○重度自閉症児に対しては継続的ななぞり書きや書写課題を与え文字を書くスキルの向上を図っていく。
1	○古典派 ○ロマン派 ○自然写実派 ○印象派	○それぞれの主張によって作品が生まれ始めたそのいきさつを理解させる。 ○現代美術の母体となった西洋美術の基本的な考え方を理解できたか確認する。	○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ レタリングを中心にデザイン的な知識、技術、感覚（応用力）を身につけさせる。
○ レタリング検定に合格する技術を身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○レタリング ○字体の理解 ○用具、用法について	○画数の多い漢字の練習を行うことによりバランス意識を身につけさせる。 ○過去の問題を行って、3級の難度を把握させる。	○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。
5	○レタリング ○部首エレメントの理解	○レタリングに必要な部首、エレメントについて理解を深めさせる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組みさせることにより意識とスキルの向上を図っていく。
6	○レタリング ○レタリング検定対策、反省 ○紫峰祭ポスター制作	○検定における諸注意と禁止事項を再確認させる。 ○photoshop を使用し、ポスターを制作させる。	○レタリング検定 ○重度自閉症児に対してはバディの働き掛けによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
7	○紫峰祭ポスター制作	○反省および前期の目標を明確にさせる。	○重度自閉症児には板書書写の文字の大きさやノートの扱いなど、バディの協力のもとスキルの向上を図っていく。 ○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。
9 ・ 10	○デザインの基礎技法	○マスキングシート、マスキングテープ、ぼかし、滲みなどの技術を身につけさせることにより表現や発想の幅を広げさせる。	○前期試験

《指導方針》 ○ レタリングを中心にデザイン的な知識、技術、感覚（応用力）を身につけさせる。
○ レタリング検定に合格する技術を身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○紫峰祭ポスター制作	○構図、構成などのバランス感覚を感覚的に、感得させる。	○紫峰祭ポスターの講評のなかで健常児、軽度自閉症児と共に制作意図や感想の発表を行わせることで相互の作品への興味を深めさせる。
11	○ペーパークラフト	○練習作品を重ねて基本的知識を身につけせると共に立体に対する意識を高めさせる。	○紫峰祭
12	○ペーパークラフトの応用	○構造を考え、自ら構想を練る。	○重度自閉症児には健常児と類似した課題を与え、状況に応じてバディに言葉かけや補助を行わせる。 (例：ハサミの扱い)
1	○レタリング ○まとめ	○各目標検定級に向け過去の試験問題を行い、そのなかからポイントを学ぶ。 ○自由制作を行い応用力を身につけさせる。 ○今年度の反省を明確にさせる。	○軽度自閉症児には健常児と同様に試験に対する意識の向上を図っていく。 ○重度自閉症児に対しては試験に向けて対策課題を与え取り組ませる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 個々の独創性を重んじ、個性的な画風の確立を図る。
○ 卒業制作および、各生徒の年間計画の充実。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○自由制作 前期最低1枚と自画像 自画像は各自の表現とする。	○十分なエスキースを行うことにより、完成のイメージをさらに確かなものとさせる。 ○自画像制作に入る前に、有名画家の自画像を数点紹介し、研究させる。	○アクリル、油彩 ○年間計画表 ○号数は各作品により変動 (F30を基準、最大F40)
5	○自由制作	○各自、技法を生かした表現を考えさせ、内容の充実を図らせる。 ○加筆により密度を高めさせる。	○講評を行ない健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を持たせる。また、健常児には自閉症児（表現）の特性を作品から感得させる。
6	○自由制作	○各生徒の年間計画表に基づき制作の確認をさせ、作品の方向性も同時に考えさせる。	○進路考査
7	○自由制作	○紫峰祭展示作品の準備、下描きを行わせる。 ○それぞれの作品に応じた素材選び、および研究を行わせる。	○学展希望者出品 ○夏期課題 「自画像」F10 ○自閉症児に健常児の制作の進度を意識させ、ペースを合わせることで時間への意識の向上や視野の拡大を図る。
9 ・ 10	○自由制作	○紫峰祭展示作品と平行して紫峰祭ポスターの下描きを行わせる。 ○作品に対する方向性を明確にさせる。 ○紫峰祭展示のディスプレイについて考えさせる。	○紫峰祭ポスターの制作 ○講評を行ない健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を深めさせる。

《指導方針》 ○ ファッションショーをとおして自己表現をする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○自由制作（F30以上）	○紫峰祭展示のディスプレイについて考えさせる。 ○紫峰祭に向け各自目標を定め、制作、準備を進めさせる。	
11	○紫峰祭展示 ○卒業制作、自画像	○十分な加筆を行い、丁寧な仕上げを意識させる。 ○準備、資料収集を行わせる。	○紫峰祭展示 ○講評を行ない健常児、自閉症児共に相互の作品への興味を深めさせる。
12	○卒業制作、自画像	○いろいろな角度からエスキースを行わせ、構成を充実させる。 ○バランスを考えた画面や立体表現をさせる。 ○計画的な着色を常に心掛けさせ、下準備をしっかりと行わせる。	
1	○卒業制作、自画像 ○重ね塗りと形の見直しを同時に行わせる。 ○十分な加筆、および全体を意識した制作をさせる。また、同時に完成度についても意識を持たせる。	○重ね塗りと形の見直しを同時に行わせる。 ○十分な加筆、および全体を意識した制作をさせる。また、同時に完成度についても意識を持たせる。 ○完成度を高めさせる。 ○展示状況に対する配慮を持たせる	○講評を行ない健常児、自閉症児共に相互の作品の長所を認めさせる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

教科名

陶器制作Ⅴ

学年： 3 学年

- 《指導方針》
- やきものの制作工程を知り、板作り・手びねり・ろくろ成形の基本的技術を習得させる。
 - 個々のレベルに応じ、幅広い成形技術を身につけさせ、陶器制作全般の技術を向上させる。
 - 土を自己の表現のための素材として捉えさせ、身につけた技術を個々の表現に役立てる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○前年度の復習 ○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方	○昨年度の復習として成形の感覚を取り戻させる。 ○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。	○前年度からの生徒と今年度からの生徒でバディを組ませ土練りを一緒に練習させる。また、行動面・言語面の特徴を知るように促す。問題行動が起こった場合の対処法を説明する。
5	○ろくろ成形の基礎 ○中心取り・土取り・成形・割り ○販売作品制作「自由制作」 ○ランプシェード制作 ○施釉	○ろくろの一連の工程を覚えさせる。 ○個人に応じた制作をさせていく。 ○身につけた技術を使い表現させる。 ○さまざまな施釉法を知る。	○必要に応じ、ろくろ成形をバディで一緒に行い、工程を覚えさせる。 ○制作工程においてひとりでの作業が難しい場合はバディで対応させる。
6	○窯詰め（素焼き・本焼き） ○販売用作品制作「自由制作」	○素焼きと本焼きの詰め方の違いを覚える。 ○販売作品としての実用性を意識させる。 ○ガス窯による還元焼成を体験させる。	○進路考査 ○バディで釉薬と一緒に掛け、方法を覚えさせる。 ○本焼き宿泊体験学習① 宿泊体験学習をとおしてバディの理解を深めせる。
7	○販売作品制作「自由制作」	○全体像を常に頭に描きながら制作を進めさせる。 ○使いやすい形を意識させる。	○本焼き宿泊体験学習② 宿泊体験学習をとおしてバディの理解を深めさせる。
9・10	○販売作品制作「自由制作」 ○紫峰祭準備 ○前期のまとめ	○種類を多く作る。 ○値つけを行わせる。 ○学習した内容を振り返り後期へ向けての課題を再確認させる。	○本焼き宿泊体験学習③ 宿泊体験学習をとおしてバディの理解を深めさせる。

教科名

陶器制作Ⅵ

学年： 3 学年

- 《指導方針》
- やきものの制作工程を知り、板作り・手びねり・ろくろ成形の基本的技術を習得させる。
 - 個々のレベルに応じ、幅広い成形技術を身につけさせ、陶器制作全般の技術を向上させる。
 - 土を自己の表現のための素材として捉えさせ、身につけた技術を個々の表現に役立てる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○やきものの制作工程の学習 ○土練りの基本練習 荒練り 菊練り ○用具、設備の使い方 ○紫峰祭準備	○陶芸作品ができるまでの工程を理解させる。 ○制作に必要な土練りの技術を習得させる。 ○用具の名称と扱い方を理解させる。 ○展示準備を行わせる。	○前期からの生徒と後期からの生徒でバディを組ませる。また、行動面・言語面の特徴を知るように促す。問題行動が起こった場合の対処法を説明する。 ○本焼き宿泊体験学習④ 宿泊体験学習をとおしてバディの理解を深めさせる。
11	○紫峰祭準備 ○手びねり成形の基礎 ○アートスケープに向けて計画表作成 サンプル作成	○教室の装飾を行わせる。 ○土ひもの太さや接着を意識させる。 ○制作を円滑に進めるための予定表であることを認識させ、計画させる。 ○サンプルの必要性を理解させる。	○販売練習をバディで行い、紫峰祭当日をイメージさせていく。 ○紫峰祭
12	○アートスケープに向けて成形 施釉	○個々の制作の中で各工程のポイントを再確認させる。 ○自主的な制作を促す。 ○施釉を工夫させる。	
1	○アートスケープに向けて成形 焼成準備 焼成（素焼き・本焼き）仕上げ ○後期のまとめ	○予定どおりに制作を進めるために意識をさせる。 ○生徒中心の焼成、準備を促す。 ○展示会を自分達の手で作り上げる意識を持たせる。 ○学習した内容をまとめ、陶器制作を振り返らせる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

教科名

美術史Ⅴ

学年： 3 学年

- 《指導方針》
- 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
 - 美術に対する豊かな感受性を養わせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○印象主義	○写実主義から印象主義への流れについて理解を深めさせる。 ○印象主義の作品を鑑賞させる。	○レタリング検定までは美術概論が主体となるため、概要をつかむ程度に授業を進める。 ○重度自閉症児に対しては、授業内バディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。 ○重度自閉症児に対してはバディの働きかけによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
5	○象徴主義	○表現の目的意図を明確化し、象徴主義の画家について理解を深める。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
6	○後期印象主義	○美術の考え方、表現方法の変遷を中心に再度復習させる。	○レタリング検定 ○進路考査
7	○フォービズムと表現主義	○表現の目的意図を明確化し、活動の意味について理解を深めさせる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
9・10	○キュビズムと未来派	○ピカソの「ゲルニカ」など一つの作品を考察し、時代背景から深く学び取らせる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。

教科名

美術史Ⅵ

学年： 3 学年

- 《指導方針》
- 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
 - 美術に対する豊かな感受性を養わせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○素朴派 ○エコール・ド・パリ	○素朴派の特徴を理解させエコール・ド・パリの代表的作家や当時の芸術家の交流と生活について知る。	○重度自閉症児に対してはバディの働きかけによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
11	○エコール・ド・パリ ○シュルレアリズム	○それぞれの表現の目的意図を明確にさせる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
12	○シュルレアリズム	○シュルレアリズムの成り立ち（心理学、精神、文学的背景）について把握させ表現の形態および考え方について理解させる。	○バディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
1	○現代の美術 アンフォルメル ネオグダ ポップアート アクションペインティング ○19世紀から20世紀にかけて ○現代美術のまとめ	○1960年代の新しい動向を理解させると同時にこれに影響を受けた日本美術の展開を理解させる。 ○アメリカの現代美術を中心に作品、作家について学ぶ。 ○学んだ作品や画家について再度研究し、考察させる。	○参考文献ビデオ 「バスビア」「ガウディ」 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ レタリングを中心にデザイン的な知識、技術、感覚（応用力など）を身につけさせる。
○ レタリング検定に合格する技術を身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○レタリング 和文書体の理解	○和文書体について各書体の特徴を理解させる。 ○和文書体に関する基礎知識を知らせる。	○重度自閉症児に対しては、授業内パディを組み切磋琢磨のなかから相互の成長を図る。 ○重度自閉症児に対してはパディの働きかけによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
5	○レタリング 欧文書体の理解 専門用語の理解	○欧文書体について各書体の特徴を理解させる。 ○デザイン用語以外に印刷用語についての理解も深めさせる。	○パディにも内容を理解させた上で、重度自閉症児には個々の習熟度に合わせたなぞり書きや書写課題を与える。 ○軽度自閉症児には健常児と同じ課題に取り組ませることにより意識とスキルの向上を図っていく。
6	○レタリング レタリング検定対策、反省 ○鑑賞 ○デザイン（色彩について）	○検定における諸注意と禁止事項を再確認させる。 ○20世紀初頭の絵画から色の組み合わせ、色彩効果について学ばせる。	○レタリング検定 ○進路考査 ○重度自閉症児に対してはパディの働きかけによって日付など、毎回の授業導入の板書書写を自発的に行えるよう促していく。
7	○レタリングと鑑賞の復習 ○photoshop による制作	○レタリング、鑑賞における基礎的な知識内容を中心に全体の復習を行う。	
9 ・ 10	○シルクスクリーン ○版画について ○photoshop による制作	○版画における後半の一つの種類として理解させ下絵から印刷までの工程を理解し身につける。	

《指導方針》 ○ 西洋美術の歴史の流れを、系統的に理解させる。
○ 美術に対する豊かな感受性を養わせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○紫峰祭ポスター制作 ○レタリング 定書体による文章表現1 指定書体による文章表現2	○ポスターの基本として何をどう伝えるのが大切なかを学ばせる。 ○欧文活字書体を用いて表現させる。	○紫峰祭ポスターの講評のなかで健常児、軽度自閉症児共に制作意図や感想の発表を行わせることで相互の作品への興味を深めさせる。
11	○レタリング 書体造形および構成	○創作力、構成力を含めた文字表現ができるようにさせる。 ○コラージュによる制作から構成力を学ばせる。	
12	○シンボルマークデザイン デザイン用語について	○レタリングとデザイン用語について内容の確認と復習を行わせる。 ○独自の表現でシンボルマークを考えさせる。	○冬期課題 ○重度自閉症児には健常児と類似した塗りを中心とした課題を与え、状況に応じてパディに言葉掛けや補助を行わせる。 ○シンボルマークの講評を行い健常児、軽度自閉症児共に相互の作品の長所を認めさせる。
1	○レタリング 文字の色彩表現 ○鑑賞 デザイン ○美術概論まとめ	○色彩とトレースを組み合わせ、個性豊かな文字の表現を行わせる。 ○有名なデザイナーの作品を扱い、鑑賞する。 ○今までに身につけた一つひとつの内容を小テストにより確認させる。	○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 集団行動をとおして、周囲への意識、集団への意識を高める。
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。
○ 準備体操を含めた、ウォーミングアップ・クールダウンを習得する。
○ 通常の授業、体育行事、色々な場面でパディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 体力・身体測定 ○集団行動 ○スポーツ大会合同体操練習	○体力・身体測定方法の習得 ○基本姿勢を覚える。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。 全体の大きな流れを覚える。	○新入生の体力、柔軟性と運動能力をしっかり把握しておく。 ○コース内でのパディ作りを行う。パディは種目によってフレキシブルなものとする。 ○周囲・集団への意識を高める。 ○C組は体育コースの生徒数名が前、横につき、模倣をすることで動作の順番を覚えさせる。
5	○バドミントン ○マット運動 ○卓球 ○バスケットボール ○トレーニング フリーウェイト ○スポーツ大会合同体操練習	○使用する用具の説明、基本動作の習得 ○フォーム確認・MAXの測定 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。 曲に合わせスムーズな動作ができるよう繰り返し練習を行う。	○正確な動作を行わせ、各種目で必要な基本動作を身につけさせる。 ○トレーニングルーム機器の使用基礎を学ぶ。 ○健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。 ○合同体育の際に体育コースの生徒を中心に全体指導を行えるように仕上げておく。
6	○バドミントン ○マット運動 ○卓球 ○バスケットボール ○トレーニング フリーウェイト ○スポーツ大会合同体操練習	○サーブ、フォア打ち ○基本動作のメカニズムについて考えさせる。 ○サーブ、フォア打ち ○ドリブル、パス、ドリブルシュート ○フォーム確認・MAXの測定 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。本番に向け、細かい部分の仕上げを行う。	○正しいフォームで効率的に行う。 ○自閉症児の動作の遅れの部分を健常児が早めの言葉掛けをし、遅れの修正を行う。
7	○バドミントン ○マット運動 ○卓球 ○バスケットボール ○トレーニング フリーウェイト	○シングルス・ダブルスのルールの習得、ゲーム ○前転技、後転技の発展 ○シングルス・ダブルスのルールの習得、ゲーム ○ルールの習得、ゲーム ○10RMでのトレーニング	○各種目ともウォーミングアップを確実に行わせる。 ○健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。
9 ・ 10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング フリーウェイト ○体力・身体測定	○内容の立案 ○学年練習 ○パート練習 ○全体練習 ○サーキットトレーニング	○使用する曲の確認。 ○徒手体操を得意とする自閉症児を模範とし、健常児にメリハリのある動作を学ばせる。 ○有酸素系トレーニングの実施。 ○前期試験

《指導方針》 ○ 集団行動をとおして、周囲への意識、集団への意識を高める。
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。
○ 準備体操を含めた、ウォーミングアップ・クールダウンを習得する。
○ 通常の授業、体育行事、色々な場面でパディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング フリーウェイト ○後期キャンプ実習	○内容の再構成 ○学年練習 ○全体練習 ○サーキットトレーニング ○自然体験のなかで集団行動を学ぶ。	○合同練習を行うにあたり各教科への促し。練習時間の確保。 ○個人練習とグループ練習を行う。 ○24時間の生活をととし、パディで普段の学校生活外の部分をお互いが知る機会とする。また、自閉症児の単独行動が無いよう留意する。
11	○紫峰祭ステージショー練習 ○バレーボール ○ミニトランポリン ○跳び箱 ○柔道 ○トレーニング フリーウェイト	○全体練習 ○使用する用具の説明、基本動作の習得	○本番に向けての合同練習。 ○生徒リーダーが全体の動きをチェックし、自閉症児の動作の遅れ、先取りの動き、オーバーモーションの修正を行う。 ○重大事故防止のため、準備運動の徹底をする。 ○正確な動作を行わせ、各種目で必要な基本動作を身につけさせる。
12	○バレーボール ○ミニトランポリン ○跳び箱 ○柔道 ○トレーニング フリーウェイト	○パス、サーブ、ラリー ○ストレート姿勢 ○開脚跳び・台上前転基本姿勢 ○前、横、後ろ受身、投げ技の体得 ○各自の課題に応じたトレーニングメニューの作成・実践	○自身の体をコントロールできるように心掛ける。 ○重大事故の防止のため、準備運動の徹底をする。
1	○バレーボール ○ミニトランポリン ○跳び箱 ○柔道 ○トレーニング フリーウェイト	○ゲーム ○空中でのさまざまな動き ○踏切、跳ね上げ姿勢の向上 ○投げ技・寝技 ○各自の課題に応じたトレーニングメニューの作成・実践	○受け身練習の際、特に自閉症児は健常児の正しいフォームを見て、模倣で学ばせる。 ○事故の防止のため、準備運動の徹底をする。 ○審判、ルールの確認。 ○生徒が交代で審判を行う。 ○ルールを緩和することにより球技を不得手とする自閉症児にゲームの参加意欲を向上させる。 ○後期試験
2 ・ 3	○1年間のまとめ ○持久走 ○ソフトボール ○体力・身体測定	○本年度学んだ内容を復習し、まとめを行う。 ○グリーンパークの利用 ○測定結果を振り返り、4月・10月の結果と比較させる。	○審判、ルールの確認。 ○次年度の目標を立てる。 ○試験種目への対応など、パディを組み種目および必要に応じて自閉症児の補助を行う。 ○パディで測定させる。

《指導方針》 ○ さまざまなスポーツの特徴やルールを学び、スポーツの特性を習得する。
○ トレーニングを理論的に分析し体育実技に生かせる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○スポーツの魅力について考えよう 競技スポーツの魅力	○挑戦による卓越の喜びを知ると共に、記録の達成を学ぶ。また試行錯誤を繰り返し、困難を克服したときの身体的な喜びを知る。	○座り方の姿勢を確認する。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
5	○スポーツの魅力について考えよう 生涯スポーツの魅力	○スポーツを通じた他者との出会い、コミュニケーションや生涯スポーツをとおして知る。また挑戦し続けることで生きがいを見つける。	○QOLの向上につなげる。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
6	○スポーツの魅力について考えよう スポーツの楽しみ方	○卓越や達成だけでなく、プレーする楽しみを知る。また実践だけでなく「見る」「支える」「語る」「調べる」楽しさを学ぶ。	○スポーツの楽しみ方を知る。 ○持ち物の確認をする。 ○ノートの板書書き確認
7	○スポーツのこれからとこれまでを考えよう スポーツの起源	○スポーツの起源、始まりを知る。古代のスポーツと人がどのように関わってきたかを学ぶ。	○古代オリンピックの起源について意見を交わす。 ○ディスカッションのグループ工夫 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
9・10	○スポーツのこれからとこれまでを考えよう スポーツの変容と発展	○中世のスポーツ、近代のスポーツの誕生と国際スポーツの発展を知る。	○近代オリンピックについて知る。 ○創設者の理念について意見を交わす。 ○前期試験

《指導方針》 ○ さまざまなスポーツの特徴やルールを学び、スポーツの特性を習得する。
○ トレーニングを理論的に分析し体育実技に生かせる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○現代スポーツの問題点を考えよう ○メディアと競技スポーツの商品化 ○紫峰祭ステージショー練習	○競技者としてスポーツを捉えるのではなく「見る」「支える」側の視点があることも学ぶ。	○スポーツの見方を変える。 ○メディアとスポーツの関わりについて意見を持つ。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
11	○勝利至上主義とドーピング ○紫峰祭ステージショー本番	○アマチュアイズムの崩壊と勝利至上主義を考える。また、オリンピックでのドーピングの例を挙げて考えてみる。	○ドーピングの種類を学ぶ。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
12	○生涯スポーツ スポーツをする権利について	○社会的階級や障がいの有無、男女の違いを越えてスポーツを楽しむことの大切さを学ぶ。	○老若男女問わず誰にでもスポーツをする権利があることを学ぶ。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
1	○スポーツと環境問題	○競技スポーツと環境問題また、スポーツの大衆化と環境問題について学ぶ。	○自然環境とスポーツの関わりについて意見を交わす。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 周囲を取り巻く環境と運動との関係を学び、ライフマネジメントについて考える。
○ 食生活と運動との関係が競技力の向上につながることを知る。

教科書 135P ～ 148P

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	導入 スポーツとライフマネジメント ○ライフマネジメントとは	○運動を取り巻く諸事情を分析することにより生活と運動の関係を学ぶ。	○自分たちの運動以外の生活をかえりみる。 ○オリエンテーリングにて入部を考えている部活動を聞く。 また簡単なプロフィールを作成させ、生徒の個性を見極める。 ○座席の配置に気を配る。
5	栄養とパフォーマンスの向上 ◎スポーツ栄養の基礎 ・糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル	○スポーツをする上で食生活とトレーニングが密接に関係し合うことを知り、その詳細を学ぶ。	○生徒間で食生活について話し合いをさせる。 ○食事の内容を知ること、自閉症児の特有のこだわりを知る。 なかには決められた時間に食事をとらないと情緒を乱してしまう生徒や、同じ食品でもメーカーにこだわる生徒がいる。
6	◎目的に応じた栄養摂取 ・糖質（炭水化物）の摂取タイミング	○競技種目の特性やトレーニングに合致した食物の摂取について正しい知識を得る。	○食品成分表の準備をする。食事のカロリーについて考える。
7	◎目的に応じた栄養摂取 ・糖質（炭水化物）の摂取タイミング ・たんぱく質の摂取タイミング	○競技種目の特性やトレーニングに合致した食物の摂取について正しい知識を得る。 たんぱく質の摂取タイミングを知る	○トレーニング直後のたんぱく質摂取（プロテインを飲む）を体験させる。 ○ペアトレーニングの楽しさをしる。体を共に動かす楽しさを知りながら、栄養摂取のタイミングについても話し合いをさせる。お互いで気づいたことを話せる環境をつくる。
9・10	◎危険予知トレーニングについて知ろう ・危険感受性と安全教育 ・KYTの進め方	○自分の命は自分で守るという原則を知る。	○バディシステムについて ○命を守るために必要なバディ ○バディシステムの成り立ちについて説明する。「バディ」の由来について知る。 ○前期試験

《指導方針》 ○ 周囲を取り巻く環境と運動との関係を学び、ライフマネジメントについて考える。
○ 食生活と運動との関係が競技力の向上につながることを知る。

教科書 120P ～ 134P

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	◎スポーツと水分補給 ・積極的水分補給 ○紫峰祭ステージショー練習	○水分補給を行うタイミングと成分についての知識を学ぶ。補給する水分中の成分を調べ、スポーツドリンクなどの種類からその意味合いを調べる。 ○ステージショーの構成を考える。	○通常の部活動での実施記録をとってみる。 ○スポーツドリンクのラベルを見比べてみる。 ○紫峰祭ステージのなかで学年の連携を図る。学年課題としてひとつの演目完成を目標とする。
11	○ウォーミングアップの必要性和その種類 ○クールダウンの必要性和その種類 ○紫峰祭ステージショー本番	○運動前の準備運動から、効率的に障がいを引き起こさないストレッチまで、その方法と種類を学ぶ。 ○運動後の身体に有用な整理体操や体ほぐしによって二次的な障がいの予防が可能なることを知る。	○ウォーミングアップの実施 ○クールダウンの実施 ○紫峰祭ステージのなかで学年の連携を図る。学年課題としてひとつの演目完成を目標とする。
12	○スポーツ外傷とその予防	○運動によって引き起こされる外傷を知り、その予防方法に関しての知識を得る。	○自らのスポーツ外傷を考える。
1	○スポーツ事故での応急処置 ◎後期のまとめ 後期で学んだものの総復習する	○学んだ内容のすべてから、自身の1年間の成長をまとめる。	発表を行う。 ○1年間のまとめとして成長した点の例をいくつか挙げてみる。 自分だけではなく、他者の成長した点を挙げることによってお互いの親密感を把握する。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

教科 科 名		ス ポー ツ ・ 体 操 Ⅲ		学 年： 2 学 年	
《 指 導 方 針 》					
○ 集団行動をととして、周囲への意識・集団への意識を高め、お互いを気遣える精神を向上させる。					
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。					
○ さまざまな種目を通じ、技術向上を図ると共にスポーツマンシップについて深く理解させる。					
○ 通常の授業、体育行事、いろいろな場面でパディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。					
※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す					
月	指 導 内 容		留 意 事 項		そ の 他
4	○導入 体力測定・身体測定 ○集団行動 ○スポーツ大会合同体操練習		○体力測定方法の習得 ○身体測定法の習得 ○基本姿勢・集団行動を再確認する。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。全体の大まかな流れを覚える。		○4月時点の体力、柔軟性と運動能力を把握しておく。 ○体育コース内でのパディ作りを行う。パディは種目によってフレキシブルなものとする。 ○周囲・集団への意識を高める。 ○一般体育時は、体育コース生徒が先導する。 ○C組は体育コースの生徒数名が前、横につき、模倣をすることで動作の順番を覚えさせる。
5	○集団行動 ○マット運動 ○卓球 ○ラグビー ○柔道 ○トレーニング ○スポーツ大会合同体操練習		○基本動作、隊列変形など去年の復習を行う。 ○各種目の導入（基本動作の確認、ルールの確認など） ○フォーム確認・MAXの測定。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。曲に合わせスムーズな動作ができるよう繰り返し練習を行う。		○健常児の模倣を中心に行う。 ○特に安全面、正しい体の使い方について確認する。 ○健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。 ○合同体育の際に体育コースの生徒を中心に全体指導を行えるように仕上げておく。
6	○マット運動 ○卓球 ○ラグビー ○柔道 ○トレーニング ○スポーツ大会合同体操練習		○基本動作のメカニズムについて考えさせる。 ○サーブ、レシーブの基本 ○パス、タッチフットの基本 ○受身・基本的な投げ技の確認 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。本番に向け、細かい部分の仕上げを行う。		○球技において、パディがペアになり、パスやラリーなどの基礎練習を行う。 ○マットや柔道などでは、パディ同士で正しい動作の確認を行う。 ○自閉症児の動作の遅れの部分を健常児が早めの言葉掛けをし、遅れの修正を行う。
7	○マット運動 ○卓球 ○ラグビー ○柔道 ○トレーニング		○倒立系技術の練習 ○ラリー、縦回転技術習得 ○タッチフットゲーム ○投げ技・寝技 ○各部位のトレーニング		○各種目ともウォーミングアップを確実に行わせる。 ○特に自閉症児は健常児の正しいフォームを見て模倣させる。 ○健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。
9・10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング ○体力・身体測定		○内容の立案 ○学年練習 ○パート練習 ○全体練習 ○サーキットトレーニング		○使用する曲の確認。 ○徒手体操を得意とする自閉症児を模範とし、健常児にメリハリのある動作を学ばせる。 ○有酸素系トレーニングの実施。 ○パディで測定させる。 ○前期試験

教科 科 名		ス ポー ツ ・ 体 操Ⅳ		学 年： 2 学 年	
《 指 導 方 針 》					
○ 集団行動をととして、周囲への意識・集団への意識を高め、お互いを気遣える精神を向上させる。					
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。					
○ さまざまな種目を通じ、技術向上を図るとともにスポーツマンシップについて深く理解させる。					
○ 通常の授業、体育行事、色々な場面でパディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。					
※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す					
月	指 導 内 容		留 意 事 項		そ の 他
10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング ○後期キャンプ実習		○内容の再構成 ○学年練習 ○全体練習 ○さまざまなティーチング技術を使い、トレーニング効率を上げる。 ○自然体験の中で集団行動を学ぶ		○合同練習を行うにあたり各教科への促し。練習時間の確保。 ○個人練習とグループ練習を行う。 ○24時間の生活をととし、パディの普段の学校生活外の部分をお互いが知る機会とする。また、自閉症児の単独行動が無いよう留意する。
11	○紫峰祭ステージショー本番 ○ミニトランポリン ○跳び箱 ○バレーボール ○バスケットボール ○トレーニング		○全体練習 ○ストレート・タックル姿勢 ○開脚跳び・台上前転基本姿勢 ○レシーブ・トス・アタック ○ドリブル・パス・シュートの基本動作 ○効率の良い補助法の確認		○本番に向けての合同練習。 ○生徒リーダーが全体の動きをチェックし、自閉症児の動作の遅れ、先取りの動き、オーバーモーションの修正を行う。 ○重大事故防止のため、準備運動の徹底をする。 ○ウォーミングアップを入念に行う。 ○パディだけでなく、全員が全体を意識して必要な補助につく。
12	○ミニトランポリン ○跳び箱 ○バレーボール ○バスケットボール ○トレーニング		○空中でのさまざまな動き ○踏切、跳ね上げ姿勢の向上 ○サーブからの3段階攻撃 ○3オン3の実践、シュート練習 ○各自の課題に応じたトレーニングメニューの作成・実践		○重大事故の防止のため、準備運動の徹底をする。 ○より高度な技の習得ができるよう、空中や台上下での動きを増やす。 ○より実戦に近い状況でのパーツ練習を取り入れる。 ○パディの課題やメニューについてお互いに紹介させ、共通点を探してみる。
1	○ミニトランポリン ○跳び箱 ○バレーボール ○バスケットボール ○トレーニング		○前宙・ひねり技の導入 ○台上前方転回 ○生徒の企画した試合形式での試合を行う。理論学習のまとめを含め、審判も生徒が行う。 ○各自の課題に応じたトレーニングメニューの作成・実践		○事故防止のため、準備運動の徹底をする。 ○審判、ルールの確認。 ○生徒が交代で審判を行う。 ○ルールを緩和することにより球技を不得手とする自閉症児にゲームの参加意欲を向上させる。 ○後期試験
2・3	○1年間のまとめ ○持久走 ○ソフトボール ○創作体操 ○体力・身体測定		○本年度学んだ内容を復習し、まとめを行う。 ○グリーンパークの利用 ○次年度のスポーツ大会の合同体操作成 ○測定結果を振り返り、4月・11月の結果と比較させる。		○次年度の目標を立てる。 ○試験種目への対応など、パディを組み種目および必要に応じて自閉症児の補助を行う。 ○立案・構成・実際の動作において自閉症児、健常児それぞれが得意な部分で全員が貢献できるように進めさせる。 ○パディで測定させる。

教科名

体育理論Ⅲ

学年： 2 学年

《指導方針》

○ 体力トレーニングの方法を知り、基礎体力の向上を図っていく。

○ 競技力を構成する諸要素を知り、自身の活動に生かせる授業展開を目指す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○体力トレーニングの方法を知ろう 筋力トレーニング	○レジスタンストレーニングの意味を確認する。瞬発力や持久力を養うトレーニングについて必要な知識を身につける。 ○トレーニング方法について説明する。	○昨年度の振り返りをする。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認 ○パディへの適切な助言ができるよう働きかける。
5	○体力トレーニングの方法を知ろう 短縮性動作と伸張性動作 トレーニングのプログラム	○トレーニングにおいて重要となる負荷の掛け方について学ぶ。トレーニングの方法と期待できる効果の結びつきを図る。	○自身のトレーニング経験談を語る。 ○質問を簡単にして導き出す
6	○体力トレーニングの方法を知ろう トレーニング方法	○アイソメトリックトレーニング ○アイソトニックトレーニング ○それぞれのトレーニングの基本原理、プログラム、トレーニング方法を知る。	○器具を使わないトレーニングについて意見を交わす。 ○具体例をあげて理解を深める。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
7	○体力トレーニングの方法を知ろう トレーニング方法	○フリーウエイトトレーニングとマシントレーニング ○アイソキネティックトレーニング ○プライオメトリックトレーニング ○それぞれのトレーニングの基本原理、プログラム、トレーニング方法を知る。	○器具を使ったトレーニングの充実を図る。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
9・10	○体力トレーニングの方法を知ろう トレーニングの方法 ○前期のまとめ	○体幹トレーニング ○筋持久力トレーニング ○それぞれのトレーニング方法、運動強度について知る。 ○実用できるものは実用し、体力向上につなげる。	○トレーニングプログラムをしっかり立てられるようにする。 ○前期試験

教科名

体育理論Ⅳ

学年： 2 学年

《指導方針》

○ 体力トレーニングの方法を知り、基礎体力の向上を図っていく。

○ 競技力を構成する諸要素を知り、自身の活動に生かせる授業展開を目指す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○競技力向上に必要な基礎知識を知ろう 競技力を構成する諸要素の関係 ○紫峰祭ステージショー練習	○「技術」、「戦術」、「技能」、「戦術能」、「体力」から『競技力の向上』につながる知識を身につける。	○競技力とは何か考えさせる。 ○模範解答を書写させる ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
11	○競技力向上に必要な基礎知識を知ろう エネルギー的体力とサイバネティックス的体力 ○紫峰祭ステージショー本番	○エネルギー的体力に含まれる筋力、スピード、パワーについて学ぶ。 ○瞬発力と呼ばれる力の法則には（筋力×スピード）があることを伝える。	○発揮されるエネルギーの使い方を調節する能力をサイバネティックス的体力という。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
12	○競技力向上に必要な基礎知識を知ろう 技能・戦術能の上達過程	○オープンスキルとクローズドスキルについて説明をする。 ○上達の過程にはプラトーと呼ばれる停滞期があることを理解させる。	○自身の競技スキルについて考えさせる。 ○自分の得意な運動を挙げさせる。 ○持ち物の確認 ○ノートの板書書き確認
1 ・ 2	○競技力向上に必要な基礎知識を知ろう 技能上達の三段階 技能・戦術能を向上させるトレーニング方法 ○後期のまとめ	○技能は「認知的・意識的な段階」「運動の調節段階」「自動化の段階」の三つに分類される。集中法と分散法、全体練習と部分練習について学び、合理的なトレーニング計画を立てさせる。（PDCAサイクル）	○PDCAサイクルの表は各自作成させる。 ○後期試験
3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ スポーツをする際に人間の心がどのように影響するかそのメカニズムを知る。
○ メンタルコントロールとトレーニングによって競技力の向上につながることを知る。

教科書 66P ～ 73P

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	導入 心理状況と競技力 ◎実力発揮の条件 ○最適な興奮水準を保つ	○過緊張（あがり）と最適な興奮状況の違いを知る。	○実際に緊張する場面を設定してみて実験してみる。 ○自閉症児のなかには緊迫した場面であったとしても普段のルーティーンを崩さない生徒がいる。ある意味それが強みになる場合があることを説明する。
5	○積極的な思考をすること	○ポジティブシンキング（プラス思考）の基を知り、競技に生かす方法を学ぶ。	○運動有能感を引き出す方法を探る。 ○障がいをもった人のなかにはある一つの方野において他者を超越した才能を発揮する人がいることを説明し、障がい理解につなげる。それでも実社会で生きている人がいる存在を知る。
6	○高い競技意欲を持つ動機づけについて	○内発的動機づけと外発的動機づけの違いを知る。	○自らに当てはまる動機づけについて考え、生徒と意見を交わす。 ○競技開始のきっかけを知る。
7	◎メンタルトレーニング ○リラクセーショントレーニング	○興奮水準が高くなりすぎた場面に自らそれを静める方法を知る。	○3種類を実際に試してみる。 ○自閉症児特有のルーティーンを知る。動作を行うことによって落ち着く生徒もいる。
9 ・ 10	前期試験 ◎前期のまとめ ○実力発揮のための条件	○思考の積極さと動機づけによって試合や発表会時に自信を持ってパフォーマンスを発揮できる方法を知る。	○部活動での試用を促す。 ○前期試験

《指導方針》 ○ 体力の向上に必要な科学的な根拠について学び、トレーニングの向上につなげる。
○ 競技力向上に向けた指導体制や情報戦力について知る。

教科書 84P ～ 91P、45P ～ 65P

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	◎体力向上の科学的基礎について知ろう ○練習やトレーニングによる身体の変化 ○紫峰祭ステージショー練習	○「筋力」、「パワー」、「持久力」の観点から体力向上に必要な知識を身につける。	○自身の現状（体力）を知る。 ○個人差にもよるが本校に入学してから急激に身体面で成長する生徒がいる。神経系の動きが活発になること、そのための指導があることを健常児に伝えることで自閉症児との関わりのなかでの工夫を学ばせる。
11	○練習やトレーニングによる身体の変化 ○紫峰祭ステージショー本番	○「調節力」、「柔軟性」、「休養と睡眠」の観点から体力向上に必要な知識を身につける。	○日常生活の行動にも目を向ける。 ○自身の好きなことしかやらない生徒に関しては柔軟性に欠ける生徒が多い。自閉症児のなかには極端に体が硬い生徒がいるので、健常児はその現状を話しする。
12	○目的に応じたトレーニングプログラムの作成	○体の特徴、発達段階を考えたの最善のアプローチは何かを考えてトレーニングプログラムの作成にあたる。 ○体力要素の確認を行う。	○スピード、パワー、持久力のバランスを考えさせる。 ○先月の続きで運動が苦手な生徒や模倣が苦手な生徒に對しての運動プログラムを考える。
1	◎競技力を向上させる練習方法・練習計画を知ろう ○サッカーの場合 ○バスケットボールの場合	○競技別での練習計画、方法を知る。 ○自身の所属する部活動にも置き換えて練習計画、練習内容を考えさせる機会を与える。	○グループにて考えさせ、グループごと発表をさせる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 集団行動をととして、周囲への意識、集団への意識を高める。
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。
○ 準備体操を含めた、ウォーミングアップ・クールダウンを習得する。
○ 通常の授業、体育行事、色々な場面でバディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 体力測定 ○集団行動 ○スポーツ大会合同体操練習	○体力測定方法の習得 ○基本姿勢を覚える。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。全体の大まかな流れを覚える。	○4月時点の体力、柔軟性と運動能力をしっかり把握しておく。 ○コース内でのバディ作りを行う。バディは種目によってフレキシブルなものとする。 ○周囲・集団への意識を高める。 ○一般体育時は、体育コース生徒が先導する。 ○C組は体育コースの生徒数名が前、横につき、模倣をすることで動作の順番を覚えさせる。
5	○集団行動 ○柔軟体操・準備運動 運動前のウォームアップ 練習後のクールダウン ○トレーニング フリーウェイト ○スポーツ大会合同体操練習	○基本動作、隊列変形などを確実にする。 ○動的体操のみならず、アイソメトリックや動ストレッチ、静ストレッチを行う。 ○フォーム確認・MAXの測定。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。曲に合わせスムーズな動作ができるよう繰り返し練習を行う。	○健常児の模倣を中心に行う。 ○正確な動作を行わせ、各部位に有効な動きを各自で考えさせる。 ○トレーニングルーム機器の使用基礎を学ぶ。健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。 ○体育コースの生徒を中心に全体指導を行う。
6	○集団行動 ○柔軟体操・準備運動 運動前のウォームアップ 練習後のクールダウン ○トレーニング フリーウェイト ○スポーツ大会合同体操練習	○並足行進、駆け足行進を行う。 ○柔軟性の強化を目標に四肢、関節、各筋肉を効果的に動かす工夫を行う。 ○フォーム確認・MAXの測定。 ○スポーツ大会合同体操の練習を行う。本番に向け、細かい部分の仕上げを行う。	○進路考査 ○バディが互いに掛け声をかけることで足並みを揃える。 ○色々な柔軟体操、準備運動について小グループを作って考えさせる。 ○正しいフォームで効率的に行う。 ○自閉症児の動作の遅れの部分を健常児が早めの言葉掛けをし、遅れの修正を行う。
7	○柔軟体操・準備運動 動前のウォームアップ 練習後のクールダウン ○トレーニング フリーウェイト	○運動種目によって使う部位を考え、ウォームアップの組み立てを行う。 ○フォーム確認・MAXの測定。	○前月に各グループで考えた柔軟体操、準備運動の発表を行う。 ○健常児と自閉症児をペアで行わせ、安全に留意する。
9 ・ 10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング フリーウェイト	○内容の立案 ○学年練習 ○パート練習 ○全体練習 ○サーキットトレーニング	○使用する曲の確認。 ○徒手体操を得意とする自閉症児を模範とし、健常児にメリハリのある動作を学ばせる。 ○有酸素系トレーニングの実施。

《指導方針》 ○ 集団行動をととして、周囲への意識、集団への意識を高める。
○ トレーニングを通じて心身を鍛え、自己実現を可能にしていく。
○ 準備体操を含めた、ウォーミングアップ・クールダウンを習得する。
○ 通常の授業、体育行事、色々な場面でバディとの行動を基本とし、お互いが学びあえる環境作りを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○紫峰祭ステージショー練習 ○トレーニング フリーウェイト ○後期キャンプ実習	○内容の再構成 ○学年練習 ○全体練習 ○サーキットトレーニング ○自然体験の中で集団行動を学ぶ	○合同練習を行うにあたり各教科への促し。練習時間の確保。 ○個人テストとグループテストを行う。 ○24時間をととし、バディの普段の学校生活外の部分をお互いが知る機会とする。また、自閉症児の単独行動が無いよう留意する。
11	○紫峰祭ステージショー本番 ○柔道 ○柔道 受け身、投げ技 ○トレーニング フリーウェイト ○バドミントン	○全体練習 ○前、横、後ろ受身の体得 ○基礎的な投げ技の体得 ○ドロップセットの習得 ○レストポーズ法の習得 ○正確なラリーを行う。 ○サーブ練習	○本番に向けての合同練習。 ○生徒リーダーが全体の動きをチェックし、自閉症児の動作の遅れ、先取りの動き、オーバーモーションの修正を行う。 ○全員が協力をして量を敷く。 ○ウォーミングアップを入念に行う。 ○相手が動かずとも打ち返せる位置にシャトルを打つ。 ○色々な種類のサーブを覚える。
12	○柔道 受け身、投げ技、寝技 ○トレーニング フリーウェイト ○バドミントン	○前、横、後ろ受身の体得 ○基礎的な投げ技、寝技の体得 ○アイソメトリックなどを複合した種目を短時間インターバルで行う。 ○スマッシュ ○ドロップ	○寝技中心の短時間乱取りの実施。 ○重大事故の防止のため、準備運動の徹底をする。 ○狙った所にシャトルが入るように、コントロールする。 ○高、低、強、弱を使い分ける。
1	○柔道Ⅰ 受け身、立ち乱取り ○トレーニング フリーウェイト ○バレーボール ○1年間のまとめ 柔道、トレーニング、集団行動、バレーボールそれぞれのまとめ	○前、横、後ろ受身の体得 ○約束稽古 ○フリーウェイト、アイソメトリックなどを複合した種目を短時間インターバルで行う。 ○各自の記録を一覧表に記入 ○ゲーム ○生徒の企画した試合形式で各競技の試合を行う。理論学習のまとめ含め、審判も生徒が行う。 ○本年度学んだ内容を復習し、まとめを行う。	○受け身練習の際、特に自閉症児は健常児の正しいフォームを見て、模倣で学ばせる。 ○事故防止のため、準備運動の徹底をする。 ○生徒が交代で審判を行う。 ○ルールを緩和することにより球技を不得手とする自閉症児にゲームの参加意欲を向上させる。 ○4月に専門コースのなかでバディを組み種目および必要に応じて自閉症児の補助を行う。徒手体操などは自閉症児を主導とした形をとる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ さまざまなスポーツが現代社会にどのように影響しているかを知る。
○ トレーニングを理論的に分析し体育実技に生かせる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 スポーツキャリアと職業について 知ろう ○スポーツキャリアとは	○スポーツキャリアとは何か、またスポーツキャリアと職業のつながりを考える。	○持ち物の確認 ○ノートのとり方確認
5	○スポーツにかかわる職業とタイプ	○スポーツに関わる職業にはどのようなものがあるかを学ぶ。	○具体的な職業をいくつか例に挙げる。
6	○スポーツにかかわる職業に就くために必要な能力・資格	○スポーツに関わる職業に必要な免許について知る。 ○スポーツ指導に必要な知識と、指導スタッフのあり方について知る。	○スポーツに関わる職業について調べる。 ○進路考査
7	○指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて知ろう ○学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントとは	○運動部活動の意義、運営、本来のあり方について学ぶ。	○自分の学校（部活）に置き換えて、具体的に想像させる。
9・10	○学校の運動部活動やスポーツイベントの企画・運営・管理 ○紫峰祭ステージショー練習	○運動部活動の運営について、先月の内容を踏まえ、より具体的に考える。 ○校内スポーツイベントの企画・運営・管理について理解する。	○校内スポーツ大会を計画・立案してみる。 ○サポートが必要な自閉症児は、健常児とバディを組み、練習の手助けをしてもらう。

《指導方針》 ○ さまざまなスポーツが現代社会にどのように影響しているかを知る。
○ トレーニングを理論的に分析し体育実技に生かせる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○指導の場としてのスポーツクラブについて知ろう ○地域のスポーツクラブとは ○紫峰祭ステージショー練習	○地域スポーツの実情を調べる。	○自分の住む地域の地域スポーツクラブを調べる。 ○サポートが必要な自閉症児は、健常児とバディを組み、練習の手助けをしてもらう。
11	○地域スポーツクラブのビジョンと運営 ○紫峰祭ステージショー本番	○総合型地域スポーツクラブの特徴を知り、運営についても民間のスポーツクラブと比較して考える。	○理想的な地域密着型のクラブスポーツを模索する。
12	○効果的なスポーツの指導方法を知ろう ○効果的なスポーツ指導のための基礎的条件	○スポーツ指導における、学習面に重点を置いて考える。	○身の周りの指導者から学ぶ部分を考える。
1	○効果的なスポーツ指導のための内容的条件 ○1年間のまとめ	○スポーツ指導の際の、目標設定の仕方、教具の工夫など指導を充実させる術について考える。 ○1年間学んだ内容を復習し、まとめを行う。	○身の周りの指導者から学ぶ部分を考える。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ スポーツをする際に人間の心がどのように影響するか、そのメカニズムを知る。
○ メンタルコントロールとトレーニングによって競技力の向上につながることを知る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 ○現代スポーツの問題点を考えよう ○競技スポーツの問題点	○現代社会の問題点や社会の変化を知る。	○持ち物の確認 ○ノートの取り方の確認 ○座席の配置に気を配る
5	○勝利至上主義とドーピング	○「試合や大会で勝つ」ということの考え方の変遷を知る。 ○ドーピングについて学ぶ。	○日本におけるプロスポーツに関しても触れる。
6	○生涯スポーツの問題点	○すべての人が生涯にわたってスポーツを楽しむためにはどのような政策が必要か考える。	○自らのスポーツライフについても考える。 ○進路考査
7	○コミュニティスポーツの形態化	○コミュニティスポーツの問題点を考える。	○理想的なコミュニティスポーツのあり方も考える。
9・10	○スポーツの持続的発展と環境問題 ○紫峰祭ステージショー練習	○スポーツと現在の環境問題を関連させて考える。	○どうすれば環境に影響を与えずに、スポーツを楽しめるのか考察する。 ○サポートが必要な自閉症児は、健常児とバディを組み、練習の手助けをしてもらう。

《指導方針》 ○ スポーツをする際に人間の心がどのように影響するか、そのメカニズムを知る。
○ メンタルコントロールとトレーニングによって競技力の向上につながることを知る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○スポーツと社会について考えよう ○スポーツとグローバリゼーション ○紫峰祭ステージショー練習	○スポーツを国際的な視点からとらえる。	○スポーツの歴史にも触れる。 ○サポートが必要な自閉症児は、健常児とバディを組み、練習の手助けをしてもらう。
11	○スポーツと振興政策 ○紫峰祭ステージショー本番	○日本のスポーツ振興に関する歴史について知る。 ○スポーツ振興基本計画、スポーツ基本法の内容を理解する。	○2012年に示されたスポーツ基本計画に重点を置く。
12	○スポーツと経済	○肖像権や報酬、選手の副収入を考える。またスポーツ用品などを題材にスポーツ産業として考えてみる。	○実例を挙げて考えさせる。
1	○スポーツ産業、フィットネス産業 ○1年間のまとめ	○スポーツジムやフィットネス産業の発展について知る。 ○1年間学んだ内容を復習し、まとめを行う。	○中間マージンなどの商品流通を学ぶ。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 調理操作における基礎知識を身につけさせる。
○ 集団調理に慣れさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○調理器具の使用方法および名称について ○包丁扱いについて ○包丁練習の料理 ・千草漬け・野菜炒め	○実習を始めるにあたり、調理器具の名称・使用方法や定位置を覚え、円滑に行えるようにする。 乱切り・みじん切り・千切り・銀杏切り・半月切り・ささがき・輪切り練習	○必ず、3～5名の班を作り、実習に取り組ませる。 ○まずは健常児に実習の流れを身につけさせる。その後バディを組み一緒に活動する。 ○包丁練習は二人一組で行い常に安全面を優先する。
5	・豚汁・筑前煮・きんぴらごぼう ・ポテトサラダ・コーヒーゼリー	○包丁の基本的な持ち方、操作法について覚えさせ、野菜切りの練習を行う。 ○ゼラチンの扱い方を覚える。	○床、調理台にマーキングし、包丁を扱う際のポジションを確立させる。 ○バディにはどのように関わればよいかを常に声掛けする。
6	○米飯 味噌汁 ・おにぎり・炒飯 ・ピラフ・炊き込みご飯	○日本人の主食である米をおいしく炊けるようにする。 ○だしの取り方を覚え、料理の目的に合ったものがとれるようにする。 ○炊飯における水加減、火加減を覚える。	○ひとつの作業をバディで行うように習慣づける。
7	○炒め物 ・八宝菜 青椒肉絲・いり鶏 ・炒飯・ほうれん草のバターソテー ＜PC実習＞	○炒め物の手順を把握させ、できるだけ強火で焦がさずに炒められるようにさせる。	○これまでの様子を加味し、バディの見直しをする。
9・10	○前期まとめ ・カレーライス ・八宝菜 青椒肉絲 ・ポテトサラダ ・パウンドケーキ	○前期に学習した内容を思い出させ、確実に調理できるようにさせる。 ○実技試験に向けての意識を持たせる。	○前期試験 ○紫峰祭準備 ○グループのメンバーの特性を考えた作業分担が出来るよう声掛けをしていく。

《指導方針》 ○ 調理操作における基礎知識を身につけさせる。
○ 集団調理に慣れさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○菓子および学園祭（紫峰祭）準備 ・パウンドケーキ・クッキー ・チーズケーキ	○学園祭（紫峰祭）レストランで販売するクッキーやパウンドケーキを作ることにより、スキルを高める。 ○接客時における接客用語や動作を覚える。 ○オープンの使い方の指導を行い、生徒のみで進められるようにする。	○作業効率を意識させ、グループのリーダーが常に声掛けできるよう、アドバイスする。
11	○油脂を使った料理 ・揚げ豚肉のマリネ・鰯のフライサラダ ・天ぷら・ポテトコロッケ ○スポンジケーキ	○揚げ物の特徴を理解させ、素揚げ・フライ・天ぷらの要領を覚えさせる。 ○メレンゲの泡立て方をマスターさせる。	○油を怖がる生徒には、一緒に手を添えて具材を入れさせる。
12	○クリスマス 正月料理 ・party 献立・栗きんとん ・紅白なます	○季節・年中行事を感じさせる料理にはどのようなものがあるかを覚えさせる。 ○家庭でもおせち料理を作れるようにさせる。	○個々の能力を考えた班編成にする。 必要に応じて、自閉症児だけの班にし、健常児に頼らない意識をつけさせる。
1	○野菜の料理 煮物 ・ホワイトシチュー・ポテトサラダ ・肉じゃが・きんぴらごぼう ○和菓子	○野菜を用いて、いろいろな調理の方法があることを覚えさせる。簡単な煮物をとおして灰汁の取り方、材料を入れる順序を覚えさせる。	○重度自閉症児の試験内容をバディの生徒に把握させる。 ○後期試験
2・3	○煮物 パスタ料理 ・筑前煮・ふろふき大根 ・ミートソース・ナポリタン ○プリンアラモード	○煮物では調味料を入れる順序を説明し、タイミグをつかませる。	○レシピ作成 ○PC使用週 1/4 時間

《指導方針》 ○ 我が国の食文化を知り、他国の文化を理解させる。
○ 体に必要な栄養素にはどのようなものがあるのかを知り、バランスよく食べることを心掛けさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○からだのしくみと食べ物	○食事の大切さを理解させ特に朝食を食べる習慣づけをする。	○座席は健常児、自閉症児を隣同士にし、お互いを意識させる。
5	○栄養素の役割	○栄養素の体内での役割を覚えさせる。	○ノートの取り方について、健常児に指導する。その健常児が隣にいる自閉症児を気に掛けるよう誘導していく。
6	○栄養素の種類と働き ・炭水化物 ・脂質	○炭水化物、脂質の種類、名称と体内での役割について覚えさせ、普段の生活に生かす。	○ノート提出させる。文字がきれいな自閉症児のノートをみんなに紹介し、きれいに書く習慣づけをする。
7	・たんぱく質 ・ビタミン	○たんぱく質、ビタミンの種類、名称と体内での役割について覚えさせ、普段の生活に生かす。	○必要に応じて席替えを行う。できれば、調理実習の班に合わせる。
9・10	○前期まとめ	○前期のまとめを行い、少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 我が国の食文化を知り、他国の文化を理解させる。
○ 体に必要な栄養素にはどのようなものがあるのかを知り、バランスよく食べることを心掛けさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○栄養素の種類と働き ・無機質 ・水	○たんぱく質、ビタミンの種類、名称と体内での役割について覚えさせ、普段の生活に生かす。	○後期に入り、コース変更してきた生徒へのケアを事前に核になる生徒に話しておく。 ○紫峰祭準備はグループで行う。
11	○紫峰祭準備 ○栄養素の種類と働き ・5大栄養素のまとめ	○紫峰祭は自分たちで作り上げるという意識を持たせる。	○紫峰祭 ○自閉症児の問題行動に対して、授業の妨げにならない注意の仕方を教える。
12	○消化と吸収	○それぞれの栄養素の働きと吸収を理解させる。	○必要に応じて席替えを行う。
1	○後期まとめ	○進級に向けての意欲をかき立て、少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 日常生活における衛生面に注意する点を理解し、実際の生活のなかで実行させる。
○ 生活環境状況を把握する理解力を養う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○調理師と健康 ・健康の考え方	○WHO で定義される健康について理解させ、食の大切さを学ばせる。	○座席は健常児、自閉症児を隣同志にし、お互いを意識させる。
5	・食生活指針 ・調理師の役割	○食生活指針を理解させ、食育について考えさせる。 ○調理師の取得方法を説明し、その役割について理解させる。	○ノートの取り方について、健常児に指導する。 その健常児が隣にいる自閉症児を気に掛けるよう誘導していく。
6	○食生活と疾病	○生活習慣病の予防について学習させる。 ○食生活の大切さを再認識させる。	○ノート提出させる。文字がきれいな自閉症児のノートをみんなに紹介し、きれいに書く習慣づけをする。
7	○健康づくり	○健康増進の考え方を学習させる。 ○健康増進法	○必要に応じて席替えを行う。できれば、調理実習の班に合わせる。
9 ・ 10	○前期まとめ	○前期のまとめを行い、少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 日常生活における衛生面に注意する点を理解し、実際の生活のなかで実行させる。
○ 生活環境状況を把握する理解力を養う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○食品表示法 ○紫峰祭準備	○健康に関する食品表示について理解させ、実際にどのように使われているかを示す。	○後期に入り、コース変更してきた生徒へのケアを事前に核になる生徒に話しておく。 ○紫峰祭準備はグループで行う。
11	○調理師と食育	○食育の定義を理解させる。	○紫峰祭 ○自閉症児の問題行動に対して、授業の妨げにならない注意の仕方を教える。
12	・食育基本法	○食育基本法の目的を理解させ、食育推進基本計画について学習する。	○必要に応じて席替えを行う。
1	○後期のまとめ	○後期のまとめを行い、少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 集団調理をとおり、仲間意識により協調性を持たせ、職業観を育成する。
○ インターンシップをとおり働くことの意義を学ばせる。
○ 紫峰祭のレストランを営業することにより、働くことの意義や大変さを学ばせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○料理の基本 ・基本切りの復習 ・盛りつけについて ・衛生について ＜PC実習＞	○実習を開始する際、器具などを確認し作業がスムーズに行えるようにさせる。 ○基本切りを習得させる。	○包丁扱いの際、グループで持ち方や、姿勢をお互いに見ながら確認させる。 ○調理台のマーキングへの意識を持たせる。
5	○日本料理 ・炊飯・太巻き寿司・おこわ ＜PC実習＞	○文化鍋を用いての炊飯を習得させるために米と水分の関係を正しく理解させる。	○作業分担が固定化されないよう配慮する。 ○常にバディで行動できているかを確認する。
6	○だし巻卵 ・茶碗蒸し・卵豆腐 ＜カロリー計算＞PC使用	○卵の調理性について行いそれぞれの特徴を理解させる。	○カロリー計算は、バディで行う。 ○卵を割るのが苦手な生徒を把握し、生徒間で教え合わせる。
7	・みそ汁・つみれ汁 ＜カロリー計算＞PC使用	○だし汁の取り方を習得させ風味良く仕上げさせる。 ○違った種類のだしの違いを確認する。	○食物調理技術検定 筆記・実技
9 ・ 10	○西洋料理 ・オムレツ・シチュー ＜レシピ作成＞PC使用	○簡単な西洋料理の手順を覚えさせ、献立のバリエーションを高めさせる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 集団調理をとおり、仲間意識により協調性を持たせ、職業観を育成する。
○ 紫峰祭のレストランを営業することにより、働くことの意義や大変さを学ばせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○調理の基本 ○西洋料理 ・コロッケ・鶏のから揚げ ＜紫峰祭準備＞PC使用	○新メンバーに対しオリエンテーションを行う。 ○油脂の温度は揚げ物の種類によって異なることを理解させる。	○紫峰祭準備 ○実習中は常に生徒間で教え合う習慣をつけさせる。
11	＜紫峰祭準備＞PC使用 ○西洋料理 ・グラタン・ドリア	○ウェイターの練習として挨拶、接客、配膳の仕方を覚えさせる。 ○なめらかなホワイトソースの作り方を習得させる。	○紫峰祭 ○食物調理技術検定 筆記 ○紫峰祭ではバディで行動するが時間の管理も生徒のみで行う。
12	○中国料理 ・包子 八宝菜 ○正月料理 ・おせち料理 ＜レシピ作成＞PC使用	○強火で手早く仕上げるために、段取り良く行うことを習得させる。	○食物調理技術検定 実技 ○火力を上げるため、常に複数で火の確認をさせ、必要に応じて声を掛け合うよう指示する。
1	○中国料理 ・炒飯・小龍包・棒々鶏 ＜レシピ作成＞	○中華鍋の扱い方を習得させる。 強火で炒めることを、ポイントとする。	○3年生になるという意識を持たせ、グループワークがスムーズに進められるよう工夫させる。 ○後期試験
2 ・ 3	○中国料理まとめ ○1年間のまとめ	○中国料理の特長を生かした調理技術を身につけさせる。 ○今まで作った料理の手順や材料などを確認する。	

《指導方針》 ○ 調理操作を行うための基礎知識をもとに応用力を身につけさせる。
○ 食品の分類ごとの栄養価を理解し、食事を作る際に生かさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○調理の基本 ・調理の目的 ・調理と味	○調理を行う上での目的や注意点を学ばせ、実技に生かさせる。 ○味とはどういうものかを理解させる。	○2 年次より調理・製菓コースに変更してきた生徒への配慮をする。 ○必要に応じてバディを入れ替える。
5	○食品の性質と調理 ・牛乳と乳製品 ・卵	○乳製品、卵の栄養価、その利用方法を知る。 ○牛乳以外の乳製品にどのようなものがあるかを考えさせる。	○理論に関しても常にバディで取り組むことを徐々に意識させていく。
6	・魚介類 ・獣鳥肉類 ・豆類	○私たちの体においてタンパク質がどのような働きをしているかを理解させる。	○食物調理技術検定 筆記 ○ノートの確認を行い、きれいに書いている自閉症児のノートを紹介し、きれいに取ることの啓蒙をする。
7	・野菜類 ・いも類 ・果物類	○野菜、いも、果物類における栄養価を知り、健康を維持するために必要であることを理解させる。	○夏休みの課題について、グループで、どんなことに取り組むかを考えさせる。
9 ・ 10	○前期まとめ	○今期のまとめを行い、試験で少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 日本人の主食である米の性質について理解させる。
○ 調理操作の意味を理解させ、実習に役立たせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○食品の性質と調理 ・穀類	○日本人の主食ともいえる穀類の栄養価、調理法を知る。	○紫峰祭の準備はバディ、グループ単位で行い、小グループの意識を常に持たせる。
11	・砂糖 ・油脂類 ・かんてん・ゼラチン	○砂糖の栄養価値を理解させる。 ○油脂が体においてどのような働きをしているかを理解させる。	○紫峰祭 ○紫峰祭では基本的に調理・製菓コースでのバディで行動することを強く意識させる。 ○食物調理技術検定 筆記
12	○調理の手法 ・調理器具 ・調理法 煮物 汁物 蒸し物 焼き物 炒め物	○調理を行う上での基本的なことを説明し、調理操作について学ばせる。 ○調理操作の種類を理論的に覚えさせ、実技に生かさせる。	○ノートの確認をグループ単位で取り組ませる。
1	○後期のまとめ	○今期のまとめを行い、進級に向けての意欲をかき立て少しでも良い点を取るよう努力させる。	○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 健康であるということがどのようなものなのかを理解し、健康を維持できるようにしていく。
○ 公衆衛生行政について知り、身の回りでどのように行われているかを理解させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○食の安全	○食品衛生法の目的を理解させる。	○2 年次より調理・製菓コースに変更してきた生徒への配慮をする。 ○必要に応じてバディを入れ替える。
5	・食品衛生と調理師の責務	○調理師としてどのように食品衛生を考え、社会に貢献できるかを考えさせる。	○理論に関しても常にバディで取り組むことを徐々に意識させていく。
6	○食品と微生物	○食品と関わりの強い微生物について学習させる	○食物調理技術検定 筆記 ○ノートの確認を行い、きれいに書いている自閉症児のノートを紹介し、きれいに取ることの啓蒙をする。
7	・食品の腐敗	○食品が腐敗する原因について学ばせ、その予防について考えさせる。	○夏休みの課題について、グループで、どんなことに取り組むかを考えさせる。
9 ・ 10	○前期のまとめ	○今期のまとめを行い、試験で少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 保健衛生に関する行政について理解させ、特に学校保健に関する知識を深めさせる。
○ 生活習慣による疾病について学ばせ、将来の生活に役立てられるように意識させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○食品と化学物質 ・食品添加物 ○紫峰祭準備	○どの食品にどのような食品添加物が使われているかを学習させる。	○紫峰祭の準備はバディ、グループ単位で行い、小グループの意識を常に持たせる。
11	・食品添加物の使用目的	○食品添加物の使用による効果を学習させる。	○紫峰祭 ○紫峰祭では基本的に調理・製菓コースでのバディで行動することを強く意識させる。 ○食物調理技術検定 筆記
12	・食品添加物の安全性 ・用途	○食品添加物の使用制限や危険性のあるものについて学習させる。	○ノートの確認をグループ単位で取り組ませる。
1	○後期のまとめ	○今期のまとめを行い、進級への意欲をかき立て試験で少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》○食品、調理器具、身だしなみなどの衛生面に十分な配慮をさせる。
○包丁の扱いや加熱調理、盛りつけ方など、それぞれのレベルに応じてより高い技術を身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○料理の基本 ・基本切りの復習・盛りつけについて ・衛生について ＜献立作成＞PC使用	○基本に立ち返り、正確に技術が身についているかを確認させる。	○基本事項の確認を小グループ単位で行う。 ○実習は自主活動であることを意識させ、準備から片づけまでグループごとの責任とする。
5	○日本料理 ・肉じゃが・炊き込みご飯　・筍ご飯 ＜献立作成＞PC使用	○灰汁の取り方、調味料を入れる順序を覚えさせ、その理由を理解させる。	○細かいスキルのチェックを行い、できている生徒が上手くできない生徒に教え、身につけていく。
6	○日本料理 ・茶碗蒸し・ちらし寿司 ・巻き寿司・てんぷら ＜カロリー計算＞PC使用	○卵の希釈性、油の扱いや温度管理、すし酢の作り方、海苔の扱い方について理解させる。	○進路考査 ○作業分担が固定化されていないかを確認する。 ○包丁扱い（調理台のマーキング）をパディごとに確認させる。
7	○日本料理 ・ぶりの煮つけ・あじの唐揚げ ○卒業制作について ＜カロリー計算＞	○魚の扱いに慣れ、その方法を理解させる。 ○卒業制作の企画を立てさせ夏休みに試作させる。	○食物調理技術検定
9・10	○西洋料理 ・ロールキャベツ・さけのムニエル・ピザ ＜創作料理企画書作成＞PC使用	○日本料理との違いを意識した調理をさせる。 ○盛りつけを工夫させる。	○創作料理企画書 ○小グループで企画書を作成する。

《指導方針》○食品、調理器具、身だしなみなどの衛生面に十分な配慮をさせる。
○包丁の扱いや加熱調理、盛りつけ方など、それぞれのレベルに応じてより高い技術を身につけさせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○西洋料理 ・グラタン・チキンカツ ＜紫峰祭準備＞PC使用	○丁寧に早く作る意識を持たせる。 ○3年生として1、2年生をリードしながら準備させる。	○紫峰祭準備 ○3年生を中心に紫峰祭準備を進め、パディのあり方について1、2年生の模範とさせる。
11	○紫峰祭準備 ○西洋料理 ・クリームコロッケ・サラダ ・マリネ・ビーフシチュー	○売り上げが上がる工夫をさせる。 ○レシピに頼らない調理を心掛けさせる。	○紫峰祭 ○4～5人のグループから2～3人のグループに分け、一人ひとりに責任を持たせる。
12	○正月料理 ・おせち料理 ○創作料理研究 ・計画書作成　PC使用	○日本の伝統料理であることを認識させる。 ○創作料理について、グループごとに研究していかせる。	○食物調理技術検定
1	○創作料理　PC使用 ○3年間のまとめ ・ピザ・デコレーションケーキ	○計画性を持った研究を心掛けさせる。 ○週間計画書を1週前に提出させる。 ○今までの振り返り、できるだけおいしく作らせる。	○創作料理を作る際、各自の得意な作業を上手く活かしたグループワークを考えさせる。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》○食事におけるマナーを習得させ、会食などにおいて恥ずかしくない知識を身につけさせる。
○日本料理の特徴を理解し、饗応食、会食料理が作れる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○日常食の献立 ・栄養と嗜好の充足	○献立を立てる際に注意する点を説明し、栄養のバランス、嗜好を考えさせる。	○内容が1、2年次に比べ高度になり、理解できない自閉症児が出てくるが、静かに着席、板書を丁寧に写すことを意識させる。
5	○食物費 ○調理の能率	○費用を考慮させた上で、献立を立てさせる。 ○作業能率を考慮した献立を考えさせる。	○ノートは常にきれいに書く意識を持たせ、パディごとに確認する。
6	○献立作成	○実際に予算を決め、朝食、昼食、夕食の献立を立てさせる。	○進路考査
7	○給食と献立作成	○給食の意義を理解させる。 ○基本的な献立作成を行えるようにする。	○食物調理技術検定
9・10	○前期まとめ	○今期のまとめを行い、試験で少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○試験の予想問題作成時はグループで行わせる。 ○前期試験

《指導方針》○食事におけるマナーを習得させ、会食などにおいて恥ずかしくない知識を身につけさせる。
○日本料理の特徴を理解し、饗応食、会食料理が作れる知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○食事の様式と調理 ・日本料理の特徴	○日本料理の特徴を理解させる。 ○外国の料理との比較をさせる。	○紫峰祭準備において、ゴムベラの使い方など、上手くできない生徒に対し、生徒間で教え合うよう声をかける。
11	○日本料理の献立 ・本膳料理 ・茶懐石 ・会席	○日本古来の献立について説明する。 ○本膳料理、茶懐石などの違いを理解させる。	○紫峰祭 ○食物調理技術検定　筆記 ○小グループでノートの確認を行わせる。
12	○日本料理のマナー ○西洋料理のマナー ○中国料理のマナー	○食事をする上でのマナーを身につけさせる。 ○日本食、洋食との違いを理解させる。 ○中国料理と日本料理のマナーの違いを理解させる。	○食物調理技術検定　実技
1	○後期のまとめ	○今期のまとめを行い、卒業へ向け少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 行政における衛生のあり方を理解させ、社会生活のなかの衛生について考えさせる。
○ 調理師、栄養士などの資格がどのように定められているかを知る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○衛生法規とは ○法規の種類	○衛生法規がどのようなものを理解させる。 ○日本の法規がどのような仕組みになっているかを理解させる。	○内容が1、2年次に比べ高度になり、理解できない自閉症児が出てくるが、静かに着席、板書を丁寧に写すことを意識させる。
5	○法規の分類	○法規の分類について知る。 ○日常生活のなかで、法規がどのように関わっているかを考えさせる。	○ノートは常にきれいに書く意識を持たせ、バディごとに確認する。
6	○調理師法	○調理師の資格について理解させる。 ○調理師になるためにはどのようにすればよいかを知る。	○進路考査
7	○食品衛生法	○食品の管理、食品の扱い方が法によってどのように定められているかを知る。	○食物調理技術検定
9・10	○前期まとめ	○今期のまとめを行い、試験で少しでも良い点が取れるよう努力させる。	○試験の予想問題作成時はグループで行わせる。

《指導方針》 ○ 行政における衛生のあり方を理解させ、社会生活のなかの衛生について考えさせる。
○ 調理師、栄養士などの資格がどのように定められているかを知る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○地域保健法 ○健康増進法	○地域における保健所のあり方を知り、うまく利用できるように指導する。	
11	○行政における感染症予防	○行政における感染症予防がどのようになっているかを理解させる	○紫峰祭 ○食物調理技術検定 筆記 ○小グループでノートの確認を行わせる。
12	○栄養士法 ○製菓衛生士法	○栄養士の資格について理解させる。 ○栄養士になるためにどのようにすればよいかを知る。	○食物調理技術検定 実技
1	○後期まとめ	○3年間で最後の試験であることを強く意識させ、少しでも良い点が取れるように努力させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 洋裁の基礎を身につける。
○ ミシンの基礎操作を覚える。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○洋服の製作	○製作の基礎を学ぶ。	○作図用紙を準備する。
5	○スカート製作	○スカートの特徴、種類、名称を学ぶ。 ○スカートの基本形の製作をする。 ○デザインを考える。作図、型紙作りを行う。	○シーチング使用 ○健常児中心の話し合いからデザインを決めさせる。 自閉症児に似合うデザインを共に考えさせる。
6	○スカート製作 ○ウォーキング練習	○地直し、裁断・印つけ、仮縫い、試着・補正をさせ、本縫いを行う。 ○ファッションショーに向け姿勢よく歩く練習をする。	○デザインに適した布地を用意させる。 ○作業手順をバディで確認しながら、取り組ませる。 ○東京ガールズコレクションなどのファッションショーの映像を見せる。
7	○スカート製作 ○小物製作 ○ウォーキング練習	○本縫いをさせる。ファスナーの種類、つけ方を覚える。 ○切り替えのある巾着袋を製作する。	○紫峰祭準備 ○コンピュータミシンで刺しゅうを入れさせる。 ○小物製作においては、個々の技術を披露する場を設け、お互いを認め合う場とする。 ○ファッションショーの曲を決める。胸を張って歩く練習を一緒にさせる。
9・10	○スカート製作 ○ウォーキング練習	○ベルトつけ、すその始末の仕方を覚える。糸の始末をし、アイロンがけをして完成させる。 ○ファッションショーに向け、姿勢よく歩く練習をする。	○前期実技試験 「巾着製作」 ○曲のテンポに合わせ歩く練習を一緒にさせる。 ○iPad で動画を撮影する。

《指導方針》 ○ 洋裁の基礎をふまえ、技術を向上させる。
○ ミシンの操作を基礎から応用へと発展させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○シャツ・ブラウス製作 ○胴部原型	○シャツ・ブラウスの特徴、種類を学ぶ。 ○原型について学び、採寸、作図、型紙作りをし、シーチング生地でサンプルを作る。	○作図用紙を準備する。 ○シーチング使用 ○計算やものさしで長さを測る際に一緒に取り組ませる。
11	○シャツ・ブラウス製作 ○ファッションショー練習	○シャツ・ブラウスのデザインを考える。 ○原型を基に作図、型紙作り、地直し、裁断、印つけをする。 ○舞台上で自作の服を自信持って発表する。	○健常児中心の話し合いからデザインを決めさせる。 自閉症児に似合うデザインを共に考えさせる。 ○健常児に重度の自閉症児でも動きやすいファッションショーの構成を考えさせ、練習させる。
12	○シャツ・ブラウス製作	○仮縫い・試着・補正・本縫いを行う。	○自閉症児に用具の扱いや手順を教えさせる。 それにより健常児への定着も図る。
1	○シャツ・ブラウス製作 ○小物製作	○ボタンホールの縫い方を覚える。 ○鍋敷きを製作する。	○健常児にアイロンなどを安全に使うよう配慮させながら、自閉症児と一緒に使う。 ○小物製作においては、個々の技術を披露する場を設け、お互いを認め合う場とする。 ○後期実技試験「鍋敷き製作」
2・3	○シャツ・ブラウス製作 ○小物製作	○ボタンスナップのつけ方を覚える。 ○糸の始末をして完成させる。	

《指導方針》 ○ 衣服に関する知識を学ぶ。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○衣服の構成 ＜コンピュータ実技＞	○人体と衣服、衣服製作のための人体計測について学ぶ。 ○コンピュータの立ち上げ、基本操作を覚える。	週1／2時間
5	○衣服の構成 ＜コンピュータ実技＞	○体型の特徴、既製服サイズの表示、動作による人体寸法・形態の変化について学ぶ。 ○パターンメイキングの操作を覚える。	○採寸の正しい方法をバディで学ぶ。 週1／2時間
6	○衣服の構成 ＜コンピュータ実技＞	○立体構成衣服、平面構成衣服について学ぶ。 ○インターネット操作を覚える。	週1／2時間 ○コンピュータの操作に慣れてきた健常児がサポートしながら、バディで取り組ませる。
7	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ファッションショーの概要について学ぶ。 ○ファッションショーの始まりについて調べる。	○ファッションについてバディで確認させる。 週1／2時間
9・10	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーにおけるコーディネートを考える。 ○ファッションショーの目的について調べる。	○前期試験 ○健常児が、重度自閉症児が似合うコーディネイトをアドバイスする。 週1／2時間

《指導方針》 ○ 型紙についての知識を学ぶ。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーにおけるコーディネートを完成させる。 ○コンピュータの操作を覚える。 インターネット操作をする。	○前期より履修している生徒中心に実技で取り組んだ作図の方法と一緒に復習させる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、バディで取り組ませる。
11	○洋服製作の基礎 ＜コンピュータ実技＞	○洋服とは何か、製作のための用具、採寸について理解する。 ○型紙に着色をさせ、デザインのイメージを作る。	週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、バディで取り組ませる。
12	○洋服製作の基礎 ＜コンピュータ実技＞	○パターンについて学ぶ。 ○画面上に布の柄を描く。	○実技で取り組んだパターンの作図方法を一緒に復習させる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、バディで取り組ませる。
1	○洋服製作の基礎 ＜コンピュータ実技＞	○縫製の基礎について学ぶ。 ○ボタンの種類を調べる。 ○後期のまとめをする。	○後期試験 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、バディで取り組ませる。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ ファッションデザインの意義を理解する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ファッションデザインの意義	○デザインについて理解する。	○名称、割合の見かたをバディに学ばせる。
5	○ファッションデザインの意義	○プロポーションを基に人体の各部分の描法を理解させる。人体と服の比例について知り、基本体を描写する。	○ファッション誌を教材として、バディで書き込みを入れさせる。
6	○ファッションデザインの発想と表現法	○デザインの発想について学ぶ。	○デザイン発想の訓練をバディで行わせる。
7	○ファッションデザインの発想と表現法 ○メイク・ヘアメイク	○ファッション画による表現方法について学ぶ。 ○メイクの基本を学ぶ。	○ファッション画を描く際の用具をバディで使わせる。 ○用紙に化粧品を用いて練習
9・10	○ファッションデザインの発想と表現法 ○メイク・ヘアメイク ○紫峰祭準備	○プロポーションを基に人体の各部分の描法を理解する。人体と服の比例について知り、基本体を描写する。 ○メイク・ヘアメイクの基本を学ぶ。	○前期試験 ○バディになってメイク方法をアドバイスする。

《指導方針》 ○ 服飾デザインと形態を学ぶ。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ファッションデザインと形態 ○紫峰祭準備	○形態の分類について学ぶ。	○プロポーションを基に人体の基本体を描かせる。 ○バランス良く描く方法を教えさせる。
11	○ファッションデザインと形態	○形態の基礎である点・線・面・立体について学ぶ。	○紫峰祭展示
12	○ファッションデザインと形態	○ボリュームとシルエットについて学ぶ。	
1	○ファッションデザインと形態	○衣服の基本構造と構造線、装飾線、部分の形態について学ぶ。	○バディになって理解が深まる活動を行わせる。 (例 名称カードとシルエットのカードを組み合わせる) ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 洋裁の基礎から応用、縫製の技術を高める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○切り替え線の入った作品製作	○切り替え線について学ぶ。 ○ワンピースまたは、ベスト スーツの各自のデザインを考 える。	○作図用紙を準備する。 ○健常児中心の話し合いからデザインを決めさせる。自閉症児に似合う デザインを共に考えさせる。 ○ものさしで長さを測る際に難しい生徒は、できる生徒と一緒に取り 組ませる。
5	○切り替え線の入った作品製作 ○ウォーキング練習	○作図、型紙作り、地直し、 裁断・印つけ、仮縫いを行う。 ○姿勢よく歩く練習をする。	○デザインに適した布地を用意させる。 ○コース内でパディを組ませ、胸を張って歩く練習を一緒にさせる。 ○東京ガールズコレクションなどのファッションショーの映像を見せる。
6	○切り替え線の入った作品製作 ○ウォーキング練習	○試着・補正、本縫いをする。 ○テンポ良く歩く練習をする。	○切り替え線をミシンで縫う際に縫い込まないように協力して行わせる。 ○コース内で組ませたパディを中心に曲のテンポに合わせ歩く練習を 一緒にさせる。
7	○切り替え線の入った作品製作 ○小物製作 ○ウォーキング練習	○本縫いをする。 ○エコバックを製作する。 ○曲に合わせて歩く練習を する。	○紫峰祭準備 ○ミシンで刺しゅうを入れさせる。 ○バイアステープ作りとつける作業を健常児が説明し、共に取り組ませる。 ○ファッションショーの曲を決める。(シャツ・ワンピース)
9 ・ 10	○切り替え線の入った作品製作 ○ファッションショー練習	○本縫いをする。 ○作品の美しい着方、歩き方を 練習する。	○前期実技試験「エコバック製作」 ○手縫いが綺麗にできているか共に確認しながら進めさせる。 ○iPad で動画を撮影する。 ○前期試験

《指導方針》 ○ ファッションショーをとおして自己表現をする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○自由作品製作 ○ファッションショー練習	○テーマを決め各自でデザインを 考える。 ○作品の美しい着方、歩き方を練習 する。	○ポスター制作(紫峰祭用) ○紫峰祭準備 ○健常児中心の話し合いからデザインを決めさせる。自閉症児に似合う デザインを共に考えさせる。 ○健常児に重度自閉症児が動きやすいファッションショーの構成を考 えさせ練習させる。
11	○自由作品製作 ○ファッションショー練習	○作図、型紙作り、裁断・印つけを 行う。 ○舞台上で衣服をとおして自己 アピールをする。	○紫峰祭準備 ○ものさしで長さを測る際に難しい生徒は、できる生徒と一緒に取り 組ませる。
12	○自由作品製作	○仮縫い、試着・補正、本縫いを 行う。	○デザインに適した布地を用意させる。 ○竹尺で縫いしろ寸法をはかる際に難しい生徒には目印として輪ゴ ムをつけさせる。
1	○自由作品製作 ○小物製作	○本縫いを行う。 ○鍋つかみを製作する。	○ミシンで刺しゅうを入れさせる。 ○刺しゅう機能がついたミシンの使い方を健常児に説明させる。 ○後期試験
2 ・ 3	○自由作品製作	○本縫い、仕上げをする。	○レベルアップしたミシンの使い方を健常児に説明させる。

《指導方針》 ○ 衣服の材料についての知識を深める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○繊維について学ぶ。 ○コンピュータの基本操作を覚える。	○ボロシャツの品質表示のタグについて、ついている場所や 見方について一緒に確認させる。 週1／2時間
5	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○糸、布について学ぶ。 ○インターネットの操作を覚える。	週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディ で取り組ませる。
6	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○衣服素材の改質・加工、これからの衣服 素材について学ぶ。 ○天然繊維、化学繊維を調べる。	○実際に糸のよりを見させ、健常児に方向を教えさせる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディ で取り組ませる。
7	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネート を考える。 ○布地の種類を調べる。	○重度自閉症児も動きやすい構成を健常児に考えさせる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディ で取り組ませる。
9 ・ 10	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネート を考える。 ○布地の種類を調べる。	○自閉症児のコーディネートを健常児と一緒に考えさせる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディ で取り組ませる。 ○前期試験

《指導方針》 ○ 衣服の素材について学ぶ。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ファッションショーの運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネート を考える。 ○インターネットの操作を覚える。	○ショーの演出効果をあげる動きを健常児に考えさせる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディで 取り組ませる。
11	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○衣服材料の性能について学ぶ。 ○衣服材料の性能について調べる。	○繊維の性能を実例をあげさせ健常児に説明させる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディで 取り組ませる。
12	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○衣服材料の性能について学ぶ。 ○衣服材料の性能について調べる。	○品質表示ラベルの見方をパディで学ばせる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディで 取り組ませる。
1	○衣服の素材 ＜コンピュータ実技＞	○衣服材料の選択について学ばせる。 ○用途に応じた衣服材料について 調べる。	○洋服の種類と素材についてパディで確認させる。 週1／2時間 ○コンピュータの操作は、健常児がサポートしながら、パディで 取り組ませる。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ ファッションデザインと色彩・文様・テクスチャについて学ぶ。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ファッションデザインと色彩	○色彩の基礎、色の3属性とカラーシステム、色の見え方について学ぶ。	○鉛筆 2B 準備 ○絵具を使って3原色を学ぶ（全員でひとつを作り上げる）。
5	○ファッションデザインと色彩	○色とイメージ、配色の基本と調和、色彩とファッションイメージ、流行色と基調色について学ぶ。	○iPad を用いて説明する。 ○健常児にワンピースの特徴、種類が説明できるように覚えさせる。また実物のワンピースを見せるなど、障がいのある生徒がデザインを知る機会にし、共に理解を深めさせる。
6	○ファッションデザインと文様・テクスチャ	○文様について学ぶ。	○柄の特徴や意味の理解を深めさせるため、一緒に多くの布を見る。自閉症児にも柄に興味をもてる機会とする。
7	○ファッションデザインと文様・テクスチャ ○メイク・ヘアメイク	○テクスチャについて学ぶ。 ○ファッションショー用のメイク・ヘアメイクを学ぶ。	○作業を共にに行い、お互いに学ぶ。
9 ・ 10	○ファッションの美的統一 ○紫峰祭準備 ○メイク・ヘアメイク	○ユニティ、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションについて学ぶ。 ○ファッションショー用のメイク・ヘアメイクを学ぶ。	○前期試験 ○バディになって相手にメイクをする。

《指導方針》 ○ ファッション産業を理解する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ファッション産業	○ファッション産業の仕組みについて学ぶ。	○ファッション産業の仕組みについて調べる。
11	○ファッション産業	○ファッション産業の専門職について学ぶ。	
12	○ファッション産業	○商品企画について学ぶ。	○商品企画をバディで行う。
1	○ファッション産業	○商品企画について学ぶ。	○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 基本から応用へ更に技術を高めていく。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○フォーマルウェア製作	○TPO に合わせたフォーマルウェアの意義を知る。 ○作品のデザインを考える。 ○インターネットによる検索	○インターネットの検索方法を知る。 ○操作方法を教えさせる。 ○健常児中心の話し合いからデザインを決めさせる。自閉症児に似合うデザインを共に考えさせる。
5	○フォーマルウェア製作 ○小物製作	○作図、型紙作り、地直しをする。 ○ポーチ製作を行い、ファスナーのつけ方を学ぶ。	○デザインに適した布地を用意させる。 ○無駄の少ない裁断方法を考えさせる。 ○ミシンで刺しゅうを入れさせる。 ○ミシンの操作を一緒に行わせる。
6	○フォーマルウェア製作 ○ウォーキング練習	○裁断・印つけ、仮縫いをする。 ○姿勢よく歩く練習をする。	○進路考査実技試験 「ポーチ製作」 ○東京ガールズコレクションなどのファッションショーの映像を見せる。
7	○フォーマルウェア製作 ○ウォーキング練習	○試着・補正、本縫いをする。 ○曲のテンポに合わせた歩き方を練習する。	○紫峰祭準備 ○ファッションショーの曲を決める。 （自由作品・フォーマルウェア） ○姿勢よく歩く練習を一緒に行わせる。
9 ・ 10	○フォーマルウェア製作 ○ウォーキング練習	○本縫いをする。 ○糸の始末をし、アイロンをかけ完成させる。 ○曲に合わせた歩き方を練習する。	○曲のテンポに合わせて歩く練習を一緒にさせる。 ○iPad で動画を撮影する。

《指導方針》 ○ 服飾手芸の技術を高めていく。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○服飾手芸 ○ファッションショー練習	○刺しゅうの種類と特徴について学ぶ。 ○フォーマルウェアでの歩き方を練習する。	○服飾手芸の用具を用意させる。 ○紫峰祭準備 ○細かい動きの練習をさせる。
11	○服飾手芸 ○ファッションショー	○フランス刺しゅうの基本、基本ステッチを学ぶ。 ○図案にそってステッチを刺していく。 ○舞台上で衣服をとおしてより美しい歩き方、自己表現をする。	○映像で動きを確認し、より良いものに仕上げさせる。
12	○服飾手芸	○ビーズ・スパンコールの刺しゅうを学ぶ。 ○図案にそってステッチを刺していく。	○基本を習得させる。
1	○服飾手芸	○染色の種類、技法を覚える。	○図案を考えさせる。 ○後期試験「刺しゅう」
2 ・ 3	○服飾手芸	○染色を行う。	

《指導方針》 ○ 着装の知識を深める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○洋服の着装 ＜コンピュータ実技＞	○着装の基本、洋服の下着について学ぶ。 ○慶事のマナーについて調べる。	○健常児にさまざまな場面の服装をイメージさせ話しをさせることで、自閉症児の興味関心を高めさせる。 週1／2時間
5	○洋服の着装 ＜コンピュータ実技＞	○洋服の流行、TPO に合わせた着装について学ぶ。 ○仏事のマナーについて調べる。	○iPad を用いて、画像を見せて理解を助ける。その際に操作を健常児にサポートさせる。 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
6	○和服の着装 ＜コンピュータ実技＞	○和装の礼装について学ぶ。 ○パーティのマナーについて調べる。	○iPad を用いて、画像を見て理解を助ける。その際に操作を健常児にサポートさせる。 ○進路考査 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
7	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネートを考える。	週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
9・10	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネートを考える。 ○着物の種類を調べる。	○前期試験 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。

《指導方針》 ○ 服飾手芸についての知識を深める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ファッションショー運営 ＜コンピュータ実技＞	○ショーの構成、ショーのコーディネートを考える。 ○インターネット操作をする。	○教科書の表や図と一緒に読み取らせる。健常児が内容を自閉症児に伝えることで、理解を深めさせる。 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
11	○服飾手芸 ＜コンピュータ実技＞	○刺しゅうについて学ぶ。 ○インターネット操作をする。	週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
12	○服飾手芸 ＜コンピュータ実技＞	○染色について学ぶ。 ○インターネット操作をする。	○実際に作図をする場合には、ものさしの使い方などを健常児がサポートする。 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
1	○服飾手芸 ＜コンピュータ実技＞	○編み物について学ぶ。 ○インターネット操作をする。	○後期試験 週1／2時間 ○コンピュータ操作を健常児がサポートする。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 衣服の起源・基本形について知る。
○ 日本の服飾の変遷を理解する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○服飾文化を学ぶ目的と意義	○服飾文化について学ぶ。 ○衣服の起源・基本形について学ぶ。	○布を使って、簡易的な衣服を体験させる。その際に健常児に自閉症児をサポートさせる。
5	○日本の服飾の変遷 古代	○原始時代、古墳時代、飛鳥、奈良時代、平安時代の衣服の変遷を知る。	○映画などの画像を使用
6	○日本の服飾の変遷 中世 近世	○鎌倉時代、室町時代の衣服を知る。 ○安土桃山時代、江戸時代の衣服を知る。	○進路考査
7	○日本の服飾の変遷 近代 ○メイク・ヘアメイク	○明治時代～第2次世界対戦～現代までの衣服の変遷を知る。 ○ファッションショー用のメイク・ヘアメイクを学ぶ。	○バディになって相手にメイクをする。
9・10	○日本の服飾の変遷 現代 ○メイク・ヘアメイク	○第一次世界大戦後～第2次世界大戦後、現代までの変遷を知る。 ○ファッションショー用のメイク・ヘアメイクを学ぶ。	○バディになって相手にメイクをする。

《指導方針》 ○ 西洋の服飾の変遷を理解する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○西洋の服飾の変遷 古代	○古代エジプト、ギリシャの衣服を知る。	
11	○西洋の服飾の変遷 中世	○ビザンチン、ロマネスク、ゴシックの衣服を知る。	
12	○西洋の服飾の変遷 近世	○ルネッサンス、バロック、ロココの衣服を知る。 ○衣服の変遷と共に時代背景を学ばせる。	
1	○西洋の服飾の変遷 近代 現代	○フランス革命～第一次世界大戦までの衣服の変遷を知る。 ○第一次世界大戦後～第2次世界大戦後、現代までの変遷を知る。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ コンピュータの基礎を理解し、「ワード」のソフトを使用して入力に役立て検定試験合格を目標とする。
○ インターネットの基礎を理解し、著作権・肖像権についての知識や理解を深め検定試験合格を目標とする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	ワード ○基本操作 ○諸機能の理解 文字飾り、書式など ○プロフィール作り	○座る姿勢、ホームポジションなど入力の基本を徹底して指導する。 ○楽しみながら学習が進められるよう、課題に変化をつける。	○必要に応じて席替えを行うなど、より良い授業態勢の模索に努める。 ○健常児と自閉症児の関わりの様子を目を配る。
5	ワード ○ビジネス文書作成 ○タッチメソッドについて ○諸機能の理解 コピー＆ペースト、印刷など	○ビジネス文書のルールを確認、理解させる。 ○ページ設定、その他の機能を理解させ、ビジネス文書の構成を考えさせる。	○生徒たちの理解力に大きな差がある場合、苦手な生徒に指導が偏ることないように配慮する。 ○自閉症児のタイピング技術を披露するなど、自閉症児に対する健常児の理解に努める。
6	ワード ○諸機能の理解 置線作表 ○検定試験学習 ○ニュースを読む	○これまで学習した機能についても機会あるごとに復習、確認させる。 ○検定試験に合格するためにはどのようなことに注意して入力するかを考えさせる。 ○ニュースを声に出して読むことで正しい入力練習に繋げる。	○印刷した答案を生徒同士で採点させる。課題が速く終わった生徒はまだ終わっていない生徒に助言するアシスタントとして起用するなど、教科内で自然に健常児が自閉症児を意識する態勢を整える。
7	ワード ○諸機能の理解 効率の良い操作方法 ○検定試験学習 ○暑中見舞いはがき制作 ○ファイル管理について	○検定について、その特徴を理解させ、諸注意を徹底させる。 ○ワードのいろいろな活用法について学ばせる。 ○自分の記憶メディアに保存した数々のファイルを、フォルダ内に整理させる。	○日本語ワープロ検定試験 初めて受検するワープロ検定なので、確実に合格できる級を受けさせると良い。合格することで自信と次への意欲につながる。
9・10	ワード ○前期試験対策 ○検定試験学習 ○紫峰祭ポスター制作 ○前期のまとめ	○この試験の重要性を十分に理解させ、気持ちをつくる。 ○後期につながるよう各生徒の課題と今後の目標を明確にさせる。	○前期試験 ○検定試験学習については後期 10 月に受検する生徒を対象とする。 ○インターネット上に紹介されているポスターや雑誌の表紙などを参考にさせると良い。併せて著作権についても確認する。

《指導方針》 ○ コンピュータの基礎知識を理解し、「ワード」のソフトを使用して入力に役立てる。
○ ワードの機能を利用し、知識や理解を深め、検定試験で2級以上合格を目標とする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	ワード ○諸機能の理解 図形描画、テキストボックスなど ○検定試験学習 ○紫峰祭営業ポスター ○ニュースを読む	○図形描画やテキストボックスの使用方法について考えさせる。 ○模擬検定試験（過去問）という形で本番同様の環境のなかで力試しをさせ、合格の見通しをつけさせる。	○日本語ワープロ検定試験 ○文書デザイン検定試験（前期から継続している生徒） ○後期より本コースを選択した生徒への対応を行う。前期より継続している健常児にサポートをさせる。
11	ワード ○諸機能の理解 図形とテキスト位置関係 図形動詞の上下関係など ○検定試験学習 ○紫峰祭営業ポスター	○各検定の種類によって特徴が異なることを考えさせる。 ○どのようなポスターが見る人の注意をひくのか検討させる。	○紫峰祭 初級コンピュータ教室 ○生徒同士でポスターの評価をさせる。その際、作品をよりよくするアドバイスができるように導く。
12	ワード ○諸機能の理解 ワードアート、色の組み合わせなど ○名前ロゴシール作り ○年賀状、クリスマスカード制作	○これまで学習したワードの機能を活用させる。 ○名前ロゴシールや年賀状などの制作をとおし、デザインを意識させる。	○インターネットで紹介されているロゴや年賀状のデザインを参考にさせると良い。併せて著作権についても確認をする。 ○生徒同士で作品を評価しあう。
1	○後期試験対策 ○検定試験学習	○この試験の重要性を十分に理解させ、気持ちをつくる。	○検定に合格する力のある生徒は、積極的に受験をするように促す。 ○後期試験
2・3	○検定試験学習 ○新聞制作 ○後期のまとめ	○各種検定の特徴を考え、入力ポイントを確認させる。 ○情報を集め、それを新聞という形で表現することを学ばせる。 ○次年度につながるよう各生徒の課題と今後の目標を明確にさせる。	○日本語ワープロ検定試験 ○文書デザイン検定試験 ○検定における3年生の頑張りを伝え、進級後の目標へと導く。

《指導方針》 ○ コンピュータ操作の基本、その特徴を知り、専門用語を理解する。
○ ビジネス文書実務検定の理論部門合格に向けて取り組ませる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ガイダンス ○PC 操作の基本	○前期の学習活動内容を大まかに把握させる。 ○実技でも行っている操作の基本を理論においても併行して、学習させる。	○検定試験、前期試験などの予定確認をする。 ○自閉症児の丁寧な文字を見本に、丁寧に文字を書くことが大切であることを伝える。
5	○コンピュータの五大機能	○コンピュータの入力、記憶、処理、演算、出力という5つの大きな機能について学び、それぞれをどのパーツが担っているか理解させる。	○補助を必要とする自閉症児の横の座席に健常児を配置するなどの配慮をする。（専門授業内でのパディの確立）
6	○ビジネス文書のルール	○前付け、本文、後付などにはじまり、時候の挨拶など、細かい部分までその名称と意味を理解させる。	○お互いのノートの工夫を話題にし、良いところを参考にするように促す。
7	○ワープロ、パソコン 専門用語の確認	○言葉の意味を知り、また説明文がどの用語を指しているか正しく答えられることを目標とさせる。	○夏期課題
9・10	○前期試験学習 ○まとめ	○この試験の重要性を十分に理解させ、気持ちをつくる。 ○後期につながるよう各生徒の課題と今後の目標を明確にさせる。	○前期試験

《指導方針》 ○ コンピュータを活用して問題をどのように解決するかなどの知識を深める。
○ ビジネス文書実務検定の理論部門合格に向けて取り組ませる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○ハードウェア	○入力、演算、処理、記憶、出力の五大機能をどのようなパーツが担っているのかを確認させる。	○自閉症児の丁寧な文字を見本に、丁寧に文字を書くことが大切であることを伝える。 ○補助を必要とする自閉症児の横の座席に健常児を配置するなどの配慮をする。（専門授業内でのパディの見直し）
11	○ハードウェア	○各機能、各パーツについてより詳しく学習を進める。 CPU、メモリなど	○お互いのノートの工夫を話題にし、良いところを参考にするように促す。
12	○ソフトウェア	○ハードウェアとソフトウェアの違いを正しく知り、どのような関係にあるのか理解させる。	○冬期課題
1	○ソフトウェア ○後期試験対策 ○まとめ	○この試験の重要性を十分に理解させ、気持ちをつくる。 ○次年度につながるよう各生徒の課題と今後の目標を明確にさせる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 会計・経理教育の基礎となる数字記入に関して、知識の体得と速記力および正確性を向上させる。
○ 10月中旬の実施の電卓検定4級および3級受験をも目標とし、各問題の仕組みの理解に努める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指導内容	留意事項	その他
4	○ガイダンス 情報コース理論に関して ○数字記入の重要性 カンマやポイント 速記力の向上 正確性の向上	○情報コースに関して概略を理解させた上で、現代社会における経理教育の重要性を説く。 ○数字記入に関して丁寧さと読み取りやすさを常に意識させると同時に速記力を養う。	○ガイダンス時に前期中の目標として7月中旬に実施される電卓検定4級の合格を目標に努力を継続させる。 ○自閉症児の座席に配慮する。 (授業時の補助等) ○電卓の購入
5	○電卓各部の名称と機能 ○電卓検定4級・3級対策 ①見取り算 ②乗算	○電卓の各部の名称と機能に関して簡単な問題に取り組ませる事で理解を深める。 ○初めに見取り算に取り組むことでタイピングに慣れさせ、その後乗算に取り組ませる。	○3級受験可能な生徒の見極め→速記力とタイピング力の確認 ○5月受験可能な生徒の見極め→補習で対応 ○5月3週電卓検定
6	○電卓検定4・3級対策 ③除算 ④複合算	○除算は、乗算と殆ど変わらないこと（掛け算→割り算）を理解させ、乗算の解き方を忘れさせない。 ○複合算の解き方を完全に理解させ上級資格取得につなげる。	○3級と4級の違い ①桁数 ②端数処理を理解させる
7	○電卓検定4級対策 模擬電卓検定の実施 →各自の弱点明確化とその克服	○10分間の集中力持続 ○実際に制限時間を計測したなかでミスをしたときの対処方法を伝授する。	○ボールペンでの受験 ○訂正の仕方 ○夏期課題配布 ○電卓検定
9・10	○前期試験対策 ○10月中旬電卓検定に向けての受験意識の継続	○前期試験は電卓知識とタイピング力の総合的な理解を基に基準(成績)を作っていくものとし単に検定合格に拘らないものとする。 ○10月受験を促す。	○前期試験

《指導方針》 ○ 進行度合いや生徒の理解度にもよるが12月の検定受験を目指す。
○ 2月の検定では3級受験を目指させ、能力の高い者に関しては、2級への飛び級受験を促す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指導内容	留意事項	その他
10	○電卓検定 4級と3級の違い ○乗算と除算 ○複合算（TABキーの使用法）	○今まで学習してきた4級とこれから学んでいく3級とでは何が違うのかを理解させる。 ○聞き取りが難しい生徒への配慮を確実にする。	○電卓検定 ○後期から情報ビジネスコースに入ってきた生徒へのフォロー（生徒間による他者理解）
11	○伝票算 問題形式と解き方理解 ○攻略に関するテクニック	○伝票算は、必ず全員が実際に検定で使われた物を触りながら説明を受けるようにする。	
12	○各生徒レベルに応じた ○検定対策 ○個々の弱点克服に向けた弱点種目 克服強化	○個々の力量差が明確に現れているはずなので、全体指導についてこれない生徒を蔑ろにしない。	○電卓検定 ○息学的な学習姿勢から来ているものなのか、能力的なものなのかを判断し、他者理解に繋げる。
1	○後期試験対策 3級レベルの問題を速く正確に解かせる ○検定合格に向けて ○次年度の目標立て	○単に問題を解いていくことだけを重視するのではなく、しっかりと検定合格という目的意識が備わっているのかを確認する。 ○次年度にも電卓検定の受験は可能であるので、自宅でも積極的に学習を継続するように話す。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム ○電卓検定

《指導方針》 ○ 表計算ソフト（エクセル）の使い方をマスターする。
○ 情報処理事務としての基本技能や、社会人として実践力を養わせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指導内容	留意事項	その他
4	○エクセル 導入 ○ワード 1年次の復習	○表計算ソフトの特徴について確認させる。特にセルとは何かをつかみ、多くの表作成に取り組ませる。	○2年次より本コースを履修する生徒に対し、十分なフォロー指導を行う。その際、1年次より履修を継続している生徒にサポートさせる。
5	○エクセル さまざまな関数式 ○ワード 入力練習	○関数の説明に時間をかけすぎず、多くの問題に取り組ませる。 ○ワープロソフトの入力スピードを去年の水準ないしそれ以上に高めるため、タッチメソッドの復習を行う。	○入力練習時二人一組になって入力する相手の指使いをチェックする。その際、自閉症児は健常児と組ませ、上手な指摘の仕方を覚えさせる。
6	○エクセル 検定試験練習 ○ワード 検定練習	○各自の能力に応じた練習を行い、模擬試験に臨ませる。 ○生徒により進度にばらつきがあるため、一斉指導以外に個別学習を行わせる。各自が目標を明確に持てるよう、指導する。	○各自、課題が終わった際には先生に自らが伝え、報告する練習の場とする。
7	○エクセル グラフ ○ワード 検定試験学習 暑中見舞いはがき	○さまざまなグラフの特徴について確認し、その活用方法を理解させる。	○情報処理技能検定試験 ○機械的にグラフ作りに取り組ませるのではなく、どの種類のグラフを使うのが適切なのか考える機会を設ける。
9・10	○前期試験対策 ○検定試験学習 ○前期のまとめ ○ワード 紫峰祭ポスター制作	○これまでの復習を行うとともに、エクセルのより高度な操作を学習する。	○前期試験 ○情報処理技能検定試験 ○予想問題を作成することで、何が要点なのかを再確認させる。

《指導方針》 ○ プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の使い方をマスターする。
○ コンピュータの操作を通じて、ICT全般についての理解を深め、社会人として実践力を養う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指導内容	留意事項	その他
10	○パワーポイント 基本操作 ○エクセル 復習 ○ワード 紫峰祭営業ポスター作成	○各スライドの役割を確認し、文字入力の方法を学習させる。 ○表計算入力の基礎を復習する。	○情報処理技能検定試験 ○後期から変更になった本コースを履修する生徒に応じ、コース内の健常児と自閉症児の関係を見直し、生徒が成長できる環境づくりを行う。
11	○パワーポイント 基本操作 ○エクセル 表検索 ○ワード 紫峰祭営業ポスター作成	○図形描画やテキストボックスの使用方法について学習させる。 ○表計算の表検索を用いて検索ができるようにする。	○紫峰祭 コンピュータ教室 ○お互いの作成したポスターのよい点、直した方がよい点を指摘する中で、指摘された生徒が、素直に聞き入れる力を身につけさせる。
12	○パワーポイント プレゼンテーション ○エクセル 問題演習 ○ワード 年賀状作成	○聞き手にわかりやすいプレゼンテーションとは何かを考えさせる。 ○表計算では各自の進度に合わせて問題演習を行い確認をする。	○難しい関数でつまずく生徒も多いため、理解をできた生徒が、苦手としている生徒に親身に教える姿を評価することで、助け合いの心を育てる。
1	○検定試験練習 ○パワーポイント まとめ	○総合的な問題への取り組みをとおして、これまでの総復習を行い、パワーポイントのなかに表を取り込み、効果的なプレゼンテーションを考えさせる。	○検定を申し込むに当たり、自らの実力を冷静に見つめ、判断する力を養う。 ○後期試験
2・3	○後期のまとめ	○各種検定試験の特徴を考え、解答作成のポイントなどについて確認させ、後期のまとめを行う。	○情報処理技能検定試験 ○プレゼンテーション検定試験

《指導方針》 ○ パソコンやインターネットなどについて広く正しい認識を身につけさせる。
○ 暗記だけにとどまらず、文章で説明できるように指導する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○STEP1 コンピュータと情報 コンピュータとは	○コンピュータで扱うデータの形式やその歴史について理解を促す。	○授業時の約束事項の確認 ○自閉症児の座席に配慮する。 (授業時の補助等)
5	○STEP1 パソコンとは ○STEP2 ハードウェアの構成と役割	○パソコンの活用方法やその大まかな仕組み、また各周辺機器の役割についての学習を進める。	○丁寧にノートを書くことを意識させ、 パディ間で補完し合いつながりを深める。
6	○STEP2 パソコン本体の構成 出力装置	○パソコン本体内部の仕組み、各パーツの役割、またプリンタやディスプレイについての学習を進める。	
7	○STEP2 入力装置 入出力インターフェイス	○インターフェイスについてはその代表的なものに絞って学習を進める。	○夏休みの課題
9・10	○前期試験対策 ○STEP3 OS とアプリケーションソフト	○試験の重要性を意識させる。 ○Windows とその特徴、またワープロ、表計算、データベースなどの基本的なアプリケーションソフトについて学ばせる。	○前期試験

《指導方針》 ○ パソコンやインターネット等について広く正しい認識を身につけさせる。
○ 暗記だけにとどまらず、文章で説明できるように指導する。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○STEP3 OS とアプリケーションソフト	○Windows とその特徴、またワープロ、表計算、データベースなどの基本的なアプリケーションソフトについて学ばせる。	○夏休みの課題の発表に際してパディ間で話し合い、お互いに完成度を高める。
11	○STEP4 ネットワークとは LAN	○ネットワークの概要について把握させる。	
12	○STEP4 インターネット LAN のセキュリティ	○インターネットの仕組みとその接続方法、またセキュリティ概念について把握させる。	○冬休みの課題
1	○STEP5 個人のセキュリティ対策 ○STEP5 情報モラル ○後期試験対策 ○1 年間のまとめ	○コンピュータウイルスや不正アクセスなどの問題やその具体的な対処法について確認する。 ○著作権や肖像権、個人情報の保護、また情報倫理について理解を促す。 ○1 年間の学習活動を振り返り、次年度の目標づくりをさせる。	○冬休みの課題の発表に際してパディ間で話し合い、お互いに完成度を高める。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 職業教育の一環として社会人としてのスキル・マナー・必要知識を身につけさせる。
○ ①ビジネス能力検定3級②簿記検定4級、および3級の合格に向け努力させる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ビジネス常識検定の概要 会社の仕組みと売上・利益 社会保険と税金 業種・業界の知識と動向	○会社の仕組みを知る→会社にとっての儲けを知る→我々が受けているその恩恵（社会保障と税金）→興味深い会社を取り巻く環境や動向を知る。 ○職業観を育む。	○B 検は、①ビジネスマナーとコミュニケーションの基本②仕事の基本とビジネス文書の二つに分かれているが、本校生徒の場合は、知識面での不足が大きいので②を先に学習させる。 ○自閉症児の座席に配慮する。(授業時の補助など) ○電卓の購入
5	○GW 中に課題を設ける興味ある業界業種の動向 仕事の基本・取り組み 会社のルールと企業倫理 ビジネス文章、会社文書 IT の活用、メールの活用	○実際に社会人として必要な心構えなど、検定試験への合格だけでなく、あくまでも職業観を身につけ進路決定に向けての重要なエッセンスとすることを強調する。	○新鮮な事例を多く用いることで生徒の興味を引くことを心掛ける。 ○精神的な弱さや普段の部活動をとおして学ぶ縦社会の重要性を説く。
6	○重要語句冊子を配布しこまめにビジネス用語を覚えていく ○過去問題解法 ①ケース問題 ②データ問題 ③新聞記事問題	○自主学習時間を多く設けることで個々のレベルの把握を行い、弱点の克服を心掛けさせる。	○単元：敬語表現、話し方の基本といった面は文章上で覚えてもらい、時間を極力問題解法の時間に充てることとする。
7	○検定試験対策 ○前期試験範囲発表および対策	○データ問題など比較的テクニックの必要などを教える。 ○検定以降は、実際の問題の正解と実社会における活用術を講義する。	○ビジネス検定
9・10	○前期試験対策	○夏期休暇中に極力、文章読解（新聞記事問題や時事問題）を中心とした課題に取り組ませる。	○前期試験

《指導方針》 ○ 全国経理教育協会簿記検定を基軸とし4級および3級の合格に向け努力させる。
○ 理論的に理解が困難を極める生徒に関しては、電卓検定の受験を進めていくこと。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○仕訳の基本 勘定と勘定科目 取引の結合要素	○3・4 級両方共に仕訳に関しては共通して理解が必要となってくるので、基本から実践問題を多く解いていくことで理解を深める。	○電検 ○電卓検定受験者の見極めを行っていく。
11	○計算問題 ○補助簿 月次合計試算表 商品有高帳 各勘定元帳 手形受入帳	○計算問題は、簿記の全体像を理解する上で欠かせないものなので要点を明確化し、多くの種類の問題に取り組ませる。 補助簿はポイント指導をする。	○簿記検
12	○第5 問対策 決算仕訳 付記事項の仕訳 ○8 桁精算表の作成	○決算仕訳に時間を割き、徹底的な繰り返しを行うことで暗記させる。	○電検 ○B 検
1	○第5 問対策 P／L・B／S の作成 ○卒業進級判定試験対策 ○後期試験対策 ○各検定試験対策	○精算表に関しては整理記入をP／L・B／S に関しては勘定におよぶ残高修正を正確にかつ繊細さをもって取り組ませる。 ○後期試験および検定対策を上手く同時進行させていく。 ○予め検定問題を予想し試験対策＝検定対策に繋げる	○後期試験
2・3			○簿記検 ○電検 ※キャリアプランニングカリキュラム

教科名

コンピュータ実技Ⅴ

学年：

3 学年

《指導方針》

○ 画像加工ソフト「フォトショップ」の学習を通じてグラフィックの基本・応用を習得する。

○ 情報処理事務としての基本技能を習得させ、さらに応用力を養わせる。

○ 社会人としての実践力を養う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○「フォトショップ」導入 ○「ワード」応用	○写真加工ソフト「フォトショップ」について大まかに理解させる。 ○これまで学習したワードの諸機能を用いて、ビジネス文書だけでなくさまざまな文書を作成させることにより応用力を高めさせる。	○今年度から本コースに移籍した生徒や全体から遅れがちな生徒を健常児、理解力のある者がすぐに助言できるように座席を配慮する。 ○フリー素材の写真や自分の写真を教材として用いる。著作権・肖像権について十分に理解させる。
5	○「フォトショップ」各種機能の理解 ○「ワード」応用	○基本的な機能の使い方、特にレイヤーの概念をしっかり理解させる。また、身の回りにあるデザインやポスターなどを観察させることで作品をイメージする力を養わせる。 ○ビジネス文書の基本ルールを理解し、条件に基づいて作成する力を身につけさせる。	○ハワイ学習において、自己管理できる生徒にはデジタルカメラで写真を撮ってくることを提案する。授業でそれを基に作品づくりを行わせる。特にパディや友人と撮った写真の使用を勧める。
6	○進路考查対策および進路考查 ○検定試験対策練習	○これまで学習した機能を復習させるとともに、この試験の重要性を十分に理解させてから臨ませる。 ○これまで取得した検定資格を確認させ、次の目標を明確にさせる。	○進路考查 ○模擬試験を行い、手応えを得させることで自信につなげさせる。 ○生徒同士おたがいに採点させ、間違いを指摘させる。
7	○検定試験 ○「フォトショップ」自由制作・紫峰祭ポスター制作	○合格に向けての仕上げとして、2～5分程度余裕を持って答案を完成させることを目標に取り組ませ、細かい点まで自己採点させる。 ○ポスターとはどういうものなのか確認し、身の回りやネット上のポスターを参考に考えさせる。	各種検定 ○全商 ビジネス文書 ○日検 日本語ワープロ 文書デザイン プレゼンテーション 情報処理 パソコンスピード
9・10	○「フォトショップ」紫峰祭ポスター制作 ○「パワーポイント」調べ学習および発表準備 ○検定試験対策練習	○フォトショップならではの機能を用いた作品ということを意識させる。 ○授業での発表ということを意識させ、ふさわしいテーマ、言葉遣い、充実した内容となるよう指導する。 ○自分の力を客観的に見つめさせ、取得できる検定は積極的に挑戦させる。	○ネット上の情報だけでなく、書籍も参考にさせる。 また、単に情報をまる写しするのではなく、自分なりの着眼点から情報を収集・加工し発表することを目標として意識させる。

教科名

コンピュータ実技Ⅵ

学年：

3学年

《指導方針》

○ これまでの学習活動のまとめを行う。

○ パソコンの操作を通じて、IT 全般についての理解を深める。

○ 卒業後も仕事やプライベートでパソコンを活用していけるよう、広がりを持たせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指導内容	留意事項	その他
10	○「フォトショップ」紫峰祭準備 ○検定対策練習および検定試験	○紫峰祭催しものポスター、専門コース展示など、フォトショップを活用して作成させる。その際、色やデザインなど、より洗練された画像を編集することを意識させる。また、できた作品を友人同士で批評させ、よりよいものに改善する工夫をさせる。	○各種検定 日検 日本語ワープロ 文書デザイン プレゼンテーション 情報処理 パソコンスピード
11	○「フォトショップ」紫峰祭準備、自由制作 ○「エクセル」 応用 ○検定対策練習および検定試験	○ロゴマークや雑誌の表紙など、テーマを決めて自由な発想で作品づくりを進めさせる。併せて、より高度な編集テクニックを追究できるよう助言する。 ○表計算ソフトでこれまで教わった機能に加え、さらに高度な活用方法を学ばせる。	○各種検定 全商 ビジネス文書
12	○「フォトショップ」自由制作 ○「エクセル」「ワード」応用	○著作権・肖像権についてはもちろん、第三者が見て不愉快に思う作品は失敗であることを理解させる。 ○表計算ソフト、ワープロソフトでさらに実践的、高度な活用方法を身につけさせる。	○タイミングを見て、時折各生徒の作品の途中経過の様子を発表させ、たがいに助言を与える機会を設ける。
1	○「フォトショップ」応用 ○後期試験対策練習 ○1年間のまとめ	○T シャツデザインなど、フォトショップを用いて生活のなかのデザインを自ら作り出すことで、活用方法に広がりを持たせる。 ○練習においては諸注意を確認し、細かい点まで配慮するよう気持ちを作る。 ○本校における最後の実技試験という意識を持たせる。 ○これまでの学習活動を振り返り、卒業後もパソコンやITに関するスキルを維持、向上していくよう促す。	○作品づくりや検定、定期考査の練習において、進度の速い生徒は自分の課題終了後、遅れがちな友人に助言を与えるように“アシスタント”の役割を与える。 ○後期試験 ○各種検定 日検 日本語ワープロ 文書デザイン プレゼンテーション 情報処理 パソコンスピード
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

教科名

コンピュータ理論Ⅴ

学年：

3 学年

《指導方針》

○ OA 化することのメリットについて考えさせる。

○ 高度情報化社会のメリット、デメリットについて考えさせる。

○ プレゼンテーション（発表）の力を養わせる。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ガイダンス 検定その他学習スケジュール ○社会と生活のなかのコンピュータ「情報社会の恩恵」	○定期考查、検定試験の日程を確認させ、年間計画を立てさせる。 ○身の回りの情報機器について目を向けさせる。	○昨年までの反省として、以下の点を確認しておきたい。 国語力の向上 ノート作りの充実
5	○社会と生活のなかのコンピュータ「デジタルとアナログ」	○デジタルとアナログの違いを理解させる。 ○OA 誕生の背景について考えさせる。	○今年度から本コースに移籍した生徒や全体から遅れがちな生徒を健常児、理解力のある者がすぐに助言できるように座席を配慮する。
6	○社会と生活のなかのコンピュータ「ハードウェアとソフトウェア」 ○進路考查対策	○ハードウェアとソフトウェアの違いおよび、効率の良い事務処理について考察させる。 ○この試験の重要性を十分に理解させる。	○進路考查
7	○進路考查講評 ○調べ学習と発表準備	○試験の振り返りをしっかりと行い、これまでの学習活動のまとめとする。 ○プレゼンテーションとは何か、どのような手法で行うのかを確認、理解させる。	○タイミングを見て、時折各生徒の作品の途中経過の様子を発表させ、たがいに助言を与える機会を設ける。
9・10	○プレゼンテーション技法について 調べ学習と発表	○各自 15 ～ 20 分程度の発表を実際に行わせ、優れた点と課題点を明らかにし、今後につなげさせる。 また、表現力を磨くことがスピーチコンテストや面接にも通じるものがあることを理解させる。	○友人のプレゼンテーションについて批評をメモで提出させ、まとめたものを本人に後日配布することで、自分の発表を客観的にとらえさせる。

教科名

コンピュータ理論Ⅵ

学年：

3 学年

《指導方針》

○ OA 化することのメリットについて考えさせる。

○ 高度情報化社会のメリット、デメリットについて考えさせる。

○ ネットワーク、省資源、コストダウンなど、違った視点からの考察も促す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○コンピュータネットワーク 「ネットワークのメリットと デメリット」	○ネットワークの仕組みについて大まかに理解させる。	○今学期から本コースに移籍した生徒や 全体から遅れがちな生徒を健常児、理 解力のある者がすぐに助言できるよう に座席を配慮する。
11	○コンピュータネットワーク 「インターネット」	○インターネットの概念、歴史、また提供される各種サービスの メリット、デメリットについて理解を促す。	
12	○コンピュータネットワーク 「インターネット」	○ E-mail、SNS、ツイッターなどに焦点を当て、正しい活用方法と その利便性、またデメリットなどについて考察を深めさせる。	
1	○情報の活用 ○後期試験対策 ○まとめ	○肖像権や著作権、またネット情報の正しい活用、さらにはネット 以外の情報（新聞や書籍など）の活用についても言及し、情報処 理の正しい方法について考えさせる。 ○卒業後もパソコンや情報を活用して豊かな生活を追究すること、 また便利な生活が決して当たり前ではないことも併せて意識させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ ビジネス能力検定の概要を知り、12月実施の検定3級合格を目標とする。

○ 職業教育の実践としてビジネスマナーや常識、用語を理解し、就職した後の糧とする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ビジネス能力検定 内容把握 問題内容の理解 ①キャリアと仕事への心構え ②ケース問題（1）	○文部科学省後援ビジネス能力検定ジョブパスの概要を理解する。ケース問題によって自身が働く姿を想像する（人間関係を図式化する）。	○難しい言葉や用語理解の配慮を行うと同時に、コンピュータルームを使用して自らインターネットから検索する習慣をつける。 ○自閉症児の座席に配慮する。（授業時の補助など）
5	③仕事の基本8つの意識 ④新聞記事問題（1）	○職業教育を展開する本校にとって最も大切な部分でもあるので時間を掛けて、仕事をする上での姿勢や心構えを教える。	○新聞や記事に目をとおす習慣の重要性を説く。 ○修学旅行後には、自閉症児にとっての採用内定を掛けた実習がスタートすることを再度話し、皆がそれを理解する。
6	⑤コミュニケーションと ビジネスマナーの基本 ⑥統計・データ問題（1）	○社会人として環境を違えて考えさせることよりも、学校という中でも思いやりや気遣いが必要であることから、つなげさせて考えさせる。	○統計問題に関しては、割合や%の概念など小学校で学ぶ算数の分野を再度確認する。 ○進路考査
7	○進路考査対策 ⑦ケース問題（2） ⑧新聞記事問題（2） ⑨統計・データ問題（2） ⑩指示の受け方 報告・連絡・相談	○進路考査の意義を再度確認する。 ○自閉症児に関しては、職場実習に向向いていることがあるので、そういった面を健常児に伝える。	○データ問題は概数で計算することも少なくないので、数値の細かすぎる記述には充分に注意させる。
9 ・ 10	○前期のまとめ ⑪話し方と聞き方のポイント ⑫来客対応と訪問の基本 ⑬会社関係でのつき合い	○生徒一人ひとりの進路動向を詳細に把握し、状況に応じた言葉掛けを行う。面接の問答や企業の雰囲気などを聞き取る時間を設ける。 ○生徒間の動向を気に掛けさせる。	○前期のまとめとして、卒業後に活かせる授業を行っていることを再度理解させ、集中して取り組ませる。また健常児も就職希望者に関してはいよいよ採用試験を迎えるので学びを活かすよう話す。

《指導方針》 ○ ビジネス能力検定の概要を知り、12月実施の検定3級合格を目標とする。

○ 職業教育の実践としてビジネスマナーや常識、用語を理解し、就職した後の糧とする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	⑭仕事への取り組み方 ⑮ビジネス文書の基本 ⑯ケース問題（3）	○実践的な内容が項目として増えていくので、机上の学習スタイルに固執し過ぎぬように配慮する。	○選択肢の言葉尻（「○○は必要ない。」などの断定の文言）を掴み難い生徒に対して、さらに噛み砕いて説明する。こういった選択肢をニュアンスで割らない。
11	⑰電話応対 ⑱情報収集とメディアの活用 ⑲会社を取り巻く環境と経済の基本	○企業も経済の一部でありさまざまな人や他企業との関わりがあることを知る。 ○基本的な経済活動なるものを理解する。	○後期試験や検定に向けて、ビジネス用語や経済用語を自ら調べるタイミングを設ける。
12	○検定受験 ○後期試験対策	○検定の振り返りと共に、学校生活で最後の試験に向けて意識づくりを行う。	○進路未決定者の有無を把握し、配慮する。
1	○後期試験対策 ○社会人として	○検定でも大部分を占めている （i）ケース問題 （ii）新聞記事問題 （iii）統計・データ問題の正解率向上に努める。 ○学生と社会人との大きな違いを再度話し、「愛される人」「世に役立つ人」として活躍できるようエールを送る。	○進路未決定者への配慮。 ○特に自閉症児で採用内定を受けていない者への配慮を教師だけでなく、クラス全体で行う（話題や言葉がけなど）。 ○仲間がいたからこそその学校生活であることを再度話す。 ○後期試験
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

《指導方針》 ○ 数学に興味を持たせ復習する習慣をつけ、基礎計算力を身につける。

○ 苦手意識を取り除き数学に対しての自信をつけ、数学的に考察する能力を高める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○四則計算 整数 小数 分数	○整数の四則計算を確実に行わせる。 ○小数、分数の概念を身につけ確実に計算させる。 ○授業の受け方・ノートの使い方の指導。 ○板書の方法	○授業体制の確立、自閉症児の席の確認、健常児との相性を見極める。 ○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
5	○数の性質 自然数 整数 有理数 実数	○公約数、公倍数の意味を理解し、最大公約数、最小公倍数に導かせる。 ○マイナスの概念を身につけさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第1回就職模擬試験
6	○整式とその計算 文字式 整式	○文字式を理解し、×÷の記号を省略させる。 ○項、次数などの言葉の意味を覚えさせ、整式の概念を身につけさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
7	○一般常識 重さの単位 速さの単位	○身の回りのさまざまな単位を考えさせる。 ○7月までの復習を各自で行わせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
9	○式の計算 文字式 代入と式の値 整式の四則計算	○夏季休暇までの学習した内容の復習を行い、苦手項目を把握させ理解させる。 ○文字式の決まりを確実に理解させ、整式の四則計算に導く。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○前期試験
10	○式の計算 因数分解 高次式の因数分解 ○前期のまとめ	○因数分解の公式を確実に覚えさせ、高次式の因数分解に導く。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
11	○分数式の計算 分数式と約分 分数式の乗法 分数式の除法	○文字式の決まりを復習させ、分数式の計算力を向上させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第3回就職模擬試験
12	○式の計算・分数式のまとめ	○繰り返し問題を解かせ、確実に身につけさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
1	○方程式と不等式 1次方程式 ○方程式と不等式 連立方程式 ○1年間のまとめ	○等式の性質を理解させ、1次方程式を解かせる。 ○連立方程式の代入法、加減法から文章題へ導く。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○後期試験 ○学年のまとめ
2 ・ 3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《指導方針》
- 公式や法則を実践に生かせるよう指導する。
 - 基礎学力の向上を図る。
 - 数学的に考察する能力を高める。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○実数 平方根とその計算 ○一般常識問題	○混合の中身を簡単にできる場合は素因数分解を用いて根号の中身を簡単にする。	○授業体制の確立、自閉症児の席の確認、健常児との相性を見極める。 ○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
5	○実数 混合を含む式の計算 分母の有理化 ○一般常識問題	○混合計算の四則法則を理解させ、計算を確実にできるようにする。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第1回就職模擬試験
6	○方程式 1元1次方程式 ○一般常識問題	○等式の性質を理解させ、一次方程式を解かせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第2回就職模擬試験
7	○方程式 1元2次方程式	○原則、解が2つあることを理解させ、因数分解、公式によって求めさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
9	○関数 2次関数	○2次関数の式からグラフの概形が理解できるようにする。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○前期試験
10	○関数 2次関数	○平方完成を用いてグラフの頂点、軸、平行移動を理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
11	○関数 2次関数	○2次関数のグラフを描けるようにする。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第3回就職模擬試験
12	○三角比と図形 三角比	○直角三角形において成り立つ、三平方の定理を用いて三角比の定義を理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
1	○三角比と図形 三角比の相互関係 ○1年間のまとめ	○sin,cos,tanの相互関係を理解させる。 ○1年間で学習した内容の総括を行い、3学年の学習にスムーズに入れるよう指導する。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○後期試験 ○学年のまとめ
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《指導方針》
- 数学Ⅰの範囲を復習しながら、数学Ⅱの常識的な知識を身につける。
 - 数学Ⅱの常識的な知識を身につける。
 - 生活領域における基本的計算力を養う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○一般常識問題 数式 平方根（復習） 方程式（復習） ○複素数と方程式 式の計算	○数学Ⅰの内容の復習ということを意識させる。 ○文字式の計算を確実に行わせ、身につけさせる。 ○基本を再確認させ数学Ⅱに導く基礎をつくる。 ○授業の受け方・ノートの使い方指導。 ○板書の方法	○授業体制の確立、自閉症児の席の確認、健常児との相性を見極める。 ○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
5	○一般常識問題 分数式（復習） 割合（復習） ○複素数と方程式 虚数単位 複素数の計算	○数学Ⅰの内容の復習ということを意識させる。 ○ $i^2 = -1$ 、2乗すると-1になる新しい数を理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第1回就職模擬試験
6	○一般常識問題 文章題 ○複素数と方程式 複素数と2次方程式	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○進路考査
7	○数学Ⅰのまとめ ○一般常識問題 文章題 ○複素数と方程式 複素数と2次方程式	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
9	○複素数と方程式（復習） 複素数と2次方程式	○夏季休暇までの学習した内容の復習を行い、苦手項目を把握させ理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
10	○一般常識問題 文章題 ○図形と方程式 ○点と座標（復習）	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。 ○歩合の意味を理解させる。 ○数直線、グラフの基本事項の確認をし、直線の方程式（1次関数）に導く。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
11	○一般常識問題 文章題 ○図形と方程式 直線の方程式	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。 ○歩合の意味を理解させる。 ○直線と方程式の関係をグラフ化から理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○第3回就職模擬試験
12	○一般常識問題 文章題 ○図形と方程式 直線の方程式	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。 ○歩合の意味を理解させる。 ○直線と方程式の関係をグラフ化から理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
1	○一般常識問題 文章題 ○三角関数（基本項目） ○微分（基本項目）	○1次方程式、連立方程式を中心とした文章題。文章を理解させ式を立てられるようにさせる。 ○歩合の意味を理解させる。 ○三角関数、微分の基本項目を理解させる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導）
2	○3年間のまとめ	○3年間学んできたことを復習させ、社会で必要な知識を身につけさせる。	○机間指導を行い、隣席同士の理解度を把握し教え合わせる（健常児、自閉症児、お互いの理解）。 ○個別の理解度確認（個別指導） ○後期試験 ○学年のまとめ
3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《 指 導 方 針 》
- 日本や社会の現状を各地域の学習をすることによって把握し、現代の日本および世界を知る力を養う。

○ 日常の出来事に関心を持たせ、住み良い社会にするために自ら参加・行動できるような基礎学力を身につけさせる。

○ スクラップノート作成をととして、時事問題に関心を持たせ職業観の育成を図る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○第1章 自然環境	○社会科(地理)の基礎用語を重点的に覚えさせる。 ○生活の舞台となる地球環境についての基礎学力をつけさせる。	○授業のオリエンテーションを行いながら健常児、自閉症児の個性や特性を見極める。 ○授業体制を作る。健常児と自閉症児を隣同士に座らせて、相性などを見る。
5	○第2章 アジアの諸地域① 東アジア・東南アジア	○アジアにおける人口増加、中国やインドなどにおける経済成長、広大な地域におけるさまざまな自然環境、モンスーンと稲作やプランテーション農業、資源、宗教の多様性などを日本との関わりにも触れながら多角的に学ばせる。	○就職模擬試験 ○自主学習の定着度をチェックする。
6	○第2章 アジアの諸地域② 南アジア・中央アジア・西アジア	○西アジア、中央アジアなどにおける自然環境や資源開発、宗教の多様性などを、日本との関わりにも触れながら多角的に学ばせる。	○就職模擬試験 ○スクラップノートの実施方法に関して健常児が見本を見せて自閉症児に分かりやすく教える。 ○スクラップノートの実施状況を確認する。
7	○第3章 ヨーロッパ	○多くの国に分かれながらも一体性を保つこの地域の特色を考えさせる。特に自然環境、民族と文化の共通性、ヨーロッパ連合の成り立ちとその機能、ソ連の崩壊と新たな社会の形成などに焦点を当てて学習活動を進める。	○夏休みの課題であるレポートに関して確認する。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
9	○前期試験対策 ○第4章 アフリカ ○選挙について (主権者教育 Part.1)	○小テストによるこれまでの学習内容の確認 ○赤道を中心として南北に対称的に広がる気候、植民地の歴史、近代化とグローバル経済による負の側面など、アフリカ全体に共通する特色を取り上げる。	○前期試験 ○レポート発表 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。
10	○前期まとめ ○第5章 アングロアメリカ	○小テストによるこれまでの学習内容の確認 ○米国を中心として、その国の成り立ち、世界に与えてきた政治的・経済的影響、最先端の科学技術などについて学習テーマとする。	○授業ノートの確認を行う。
11	○第6章 ラテンアメリカ	○小テストによるこれまでの学習内容の確認 ○植民地支配の歴史、さまざまな民族、アマゾン川流域の熱帯林とその開発・環境破壊、プランテーション農業、ブラジルの工業化などに絞って学習活動を進める。	○地形と国名の確認問題を行う。
12	○第7章 オセアニア ○現代世界と日本	○小テストによるこれまでの学習内容の確認 ○海洋と島々からなる自然環境、オーストラリアやニュージーランドの歴史と先住民、白豪主義から多文化主義への転向、主な産業について理解を深めさせる。 ○国際間の結びつきに関して学習させる。	○冬休みの課題であるレポートに関して確認をする。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
1	○後期試験対策 ○一年間のまとめ	○小テストによるこれまでの学習内容の確認 ○この試験の重要性を十分に理解させる。	○レポート発表 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。 ○生徒会選挙において健常児が自閉症児の投票に関してサポートする。 ○後期試験 ○スクラップノートコンテスト開催 ○健常児と自閉症児がお互いのスクラップノートを見せ合い、評価し合う。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《 指 導 方 針 》
- 各時代の特徴を把握させ、正しい歴史観を養う。

○ 日常の出来事に関心を持たせ、住み良い社会にするために自ら参加・行動できるような基礎学力を身につけさせる。

○ スクラップノート作成をととして、時事問題に関心を持たせ職業観の育成を図る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○原始・古代 1. 文化と国家の形成	○日本史を学ぶ意義を理解させる。 ○日本の古代の様子について資料を活用しながら理解させる。 ・大和政権の成立過程を理解させる。 ・大化の改新について把握させる。	○授業体制を作る。健常児と自閉症児を隣同士に座らせて、相性などを見る。
5	2. 古代国家の確立	○藤原氏から平氏といった貴族社会の流れを把握させる。 ○摂関政治について理解させる。	○就職模擬試験 ○自主学習の定着度をチェックする。
6	○中世 1. 貴族社会と国風文化	○武士政権の成立について理解させる。	○就職模擬試験 ○スクラップノートの実施状況を確認する。 ○スクラップノートの実施方法に関して健常児が見本を見せて自閉症児に分かりやすく教える。
7	2. 中世社会の展開	○室町時代の様子と戦国大名の登場について理解させる。	○夏休みの課題であるレポートに関して確認する。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
9	○前期試験対策 ○選挙について (主権者教育 Part.2) ○近世 1. 統一政権の成立	○豊臣政権について理解させる。	○レポート発表 ○前期試験 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。
10	○前期まとめ ○近世 2. 幕藩体制の展開①	○元禄文化を中心に江戸文化を理解させる。	○授業ノートの確認を行う。
11	3. 幕藩体制の展開②	○三大改革についてつかませると共に人物について整理して把握させる。	○年表の確認問題を行う。
12	○近代 1. 大日本帝国の形成 ○選挙について	○明治維新の際に活躍した人物名を確実に覚えさせる。	○冬休みの課題であるレポートに関して確認をする。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
1	○近代 2. 二つの世界大戦と平和 ○後期試験対策 ○一年間のまとめ	○世界大戦の概要を把握させる。 ○この試験の重要性を十分に理解させる。	○レポート発表 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。 ○生徒会選挙において健常児が自閉症児の投票に関してサポートする。 ○後期試験 ○スクラップノートコンテスト開催 ○健常児と自閉症児がお互いのスクラップノートを見せ合い、評価し合う。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《指 導 方 針》
- 世界の歴史的特質を把握させ、正しい世界観を養う。

○日常の出来事に関心を持たせ、住み良い社会にするために自ら参加・行動できるような基礎学力を身につけさせる。

○世界史を通じて地理的分野の向上および世界観を広げ、国際性を養うと共にスクラップノートの作成に連動させ職業観の育成を図る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ハワイ史	○世界史とはいかなるものか、また、世界史を学ぶ意義について理解させる ○ハワイ学習に向けハワイの文化、歴史について把握させる。	○授業体制を作る。健常児と自閉症児を隣同士に座らせて、相性などを見る。 ○ハワイ学習の事前学習として教室のハワイに関する掲示物を健常児と自閉症児の得意分野を活かして作成させる。
5	○第2章 ユーラシアの諸地域世界① 東アジア・東南アジア ○諸文明の接触と交流	○古代文明におけるさまざまな特徴を把握させる。	○ハワイについてのレポート（連休） ○就職模擬試験 ○自主学習の定着度をチェックする。
6	○第2章 ユーラシアの諸地域世界② 南アジア・中央アジア・西アジア ○2～12世紀の世界	○ローマ、漢、イスラム、ビザンツ帝国について把握させる。	○就職模擬試験 ○スクラップノートの実施状況を確認する。 ○進路考査
7	○ヨーロッパの世界 ○13～16世紀の世界	○産業革命前までの世界の変容に関しての大きな流れと内容を掴ませる。	○夏休みの課題であるレポートに関して確認する。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
9	○前期試験対策 ○17・18世紀の世界	○各地域の変容と変貌について調べさせる	○レポート発表 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。
10	○前期まとめ ○19世紀の世界形成と展開	○前期までの学習内容を確認させる。	○授業ノートの確認を行う。
11	○帝国と民族の時代	○植民地化および日本の近代国家形成と世界に関する事柄について資料を活用しながら学習する。	○小テストや確認テストで重要事項を覚えさせる。
12	○二つの世界大戦の時代 ○選挙について （主権者教育 Part.3）	○2つの世界大戦と日本の様子について把握させる。	○冬休みの課題であるレポートに関して確認をする。 ○健常児が自閉症児にレポート作成の分からない点を教える。
1	○後期試験対策 ○冷戦と民族独立の時代 ○グローバル化のなかの危機 ○一年間のまとめ	○第二次大戦後の世界の移り変わりに関して、映像などの資料を活用して理解を深めさせる。 ○グローバル化と諸地域の統合に関してや新たな課題について理解させる。	○レポート発表 ○健常児が自閉症児の発表のフォローを行うと共に声援や励ましの言葉をかける。また、拍手などで評価する。 ○試験前に暗記物が得意な自閉症児と説明問題に強い健常児がお互いに試験対策で協力し合う。 ○生徒会選挙において健常児が自閉症児の投票に関してサポートする。 ○後期試験 ○スクラップノートコンテスト開催 ○健常児と自閉症児がお互いのスクラップノートを見せ合い、評価し合う。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《指 導 方 針》
- 社会に出た際に必要となる国語力を身につける。

○作文、朗読、発表などをとoshi、自己表現力の強化を図る。

○敬語指導の強化・漢字検定に対する受検意欲を育て、合格に結びつけさせていく。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○漢字検定学習	○漢字検定の内容について知らせる。 ○漢字を正確に覚え、基礎を身につけさせる。	○授業の受け方、ノートの使い方の指導徹底 ○辞書の活用 ○授業体制の確立、自閉症児の位置、健常児との相性を見極める。
5	○漢字検定学習 ○敬語	○敬語の種類（尊敬語・謙譲語・丁寧語）について整理し、その違いを理解させる。	○第1回就職模擬試験 ○辞書の活用 ○部首について ○授業中、隣に座っているバディの健常児が学習活動のアドバイスをする。
6	○敬語	○敬語の種類（尊敬語・謙譲語・丁寧語）について整理し、その違いを理解させる。	○第2回就職模擬試験 ○一点一画、正確に書く自閉症児の文字を健常児に示し、改善を図る。
7	○敬語	○敬語の留意点について理解させる。	○読書の奨励 心を豊かにする読書 ○健常児が本を紹介し、自閉症児の興味の幅を広げる。
9	○敬語 ○漢字の書き取り	○既習事項の確認をし、試験に向けて取り組ませる。	○前期試験 ○自閉症児の誤った筆順を健常児が指摘し、改善させる。
10	○日本語を見つめる 漢字の性格	○漢字の性格を理解し、日常生活にもたらししている文化的利点を考えさせる。 ○音読について	○ひらがな、カタカナの字源 ○現代文、古文の授業ではまず熟語や歴史的仮名遣いが正しく読めているかを確認する。その中で自閉症児が一生懸命取り組む姿勢を見て、話すことが苦手な健常児も自分を振り返ることができる。
11	○日本語を見つめる 漢字の性格	○漢字の性格を理解し、日常生活にもたらししている文化的利点を考えさせる。	○授業内試験の実施 ○第3回就職模擬試験 ○健常児の抑揚のある音読を聞かせ、自閉症児の棒読みを直す。
12	○古文に親しむ 古典の魅力 児のそら寝	○古典を学習する意義について理解させる。 ○音読することにより、古文の口調に慣れさせる（歴史的仮名遣いの指導）。	○音読指導 ○十二支、陰暦の月、いろは歌の指導 ○古語辞典の活用 ○積極的に挙手をし発言する自閉症児に健常児が刺激を受ける。
1	○古文に親しむ 児のそら寝 ○1年間のまとめ	○古文に慣れさせるとともに、古文の面白さについて気づかせる。 ○敬語など、2年次につながる復習をさせる。	○有名な文学作品について説明する。 ○ノートの取り方について良い例を発表し、健常児と自閉症児ともに意識させる。 ○後期試験 ○学年のまとめ ○バディで「相手の良いところ」を文章にして、発表し、お互いを認め合う。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《指導方針》
- 社会に出た際に必要となる国語力を身につける。
 - 作文、朗読、発表などをとおし、自己表現力の強化を図る。
 - 敬語指導の強化・漢字力の育成を図る。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○敬語 ○漢字	○美化の接頭語について理解させる。 ○漢字検定の問題を使用し、多くの語彙を覚えられるようにする。	○授業に必要な持ち物の管理を徹底させる。 ○ノートの取り方について徹底させる。 ○漢字学習を進めることにより、覚えた語彙を実際書く文章のなかでも使用できるように導く。 ○一点一画正確に書く自閉症児の文字を健常児に示し、改善を図る。
5	○敬語 ○漢字	○名詞における敬語表現について理解させる。 ○漢字検定の問題を使用し、多くの語彙を覚えられるようにする。	○ノートの取り方について良い例を発表し、意識させる。 ○漢字学習を進めることにより、覚えた語彙を実際書く文章のなかでも使用できるように導く。 ○授業中、隣に座っているバディの健常児が学習活動のアドバイスをする。
6	○敬語 ○漢字	○手紙やはがきにおける敬語の使い方を理解させる。 ○漢字検定の問題を使用し、多くの語彙を覚えられるようにする。	○漢字学習を進めることにより、覚えた語彙を実際書く文章のなかでも使用できるように導く。
7	○敬語まとめ	○今後の進路活動における敬語の必要性を再認識させる。	○後期に行われる上級学校訪問・インターンシップ・職場実習において実際に書くお礼状を意識させる。 ○漢字検定実施
9	○前期の復習	○既習事項の確認し、試験に向けて取り組ませる。	○前期試験
10	○漢文（訓読）	○漢文を訓読する上での基礎事項を学習させる。 ○書き下し文に改められるようにする。	○日常で使用している語句も漢文の一種であることを意識させ、知識の幅を広げられるようにする。
11	○漢文（訓読）	○漢文を訓読する上での基礎事項を学習させる。 ○多くの漢文に触れらせる。	
12	○漢文（格言）	○訓読に必要な事項を踏まえて、故事成語について理解させる。	
1	○漢文まとめ ○1年間のまとめ	○既習事項を確認し、試験に向けての学習を進めさせる。 ○1年間の既習事項を確認させる。	○後期試験
2・3			※キャリアアプランニングカリキュラム

- 《指導方針》
- 社会に活かせる国語力を身につける（敬語・漢字力）。
 - 文章読解力を向上させる。
 - 俳句や短歌などの学習から表現力の向上を目指す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○敬語の使い方 ○一般常識の強化	○1・2年次の学習内容の復習を行い、実際、敬語の誤用がないか確認させる。 ○就職試験などで出題される国語の一般常識問題の小テストを行い、社会に出て必要な国語力を身につける。	○授業に必要な持ち物の管理を徹底させる。 ○ノートの取り方について徹底させる。 ○国語の一般常識の小テストを原則として毎週実施（健常児には就職試験への意識を強化させる）。
5	○現代文に親しむ ○一般常識の強化	○現代文の読解から論理的な思考力を養わせる。 ○就職試験などで出題される国語の一般常識問題の小テストを行い、社会に出て必要な国語力を身につける。	○健常児の抑揚のある音読を聞かせ、自閉症児の棒読みを直す。 ○国語の一般常識の小テストを実施。
6	○現代文に親しむ ○一般常識の強化	○現代文の読解から論理的な思考力を養わせる。 ○就職試験などで出題される国語の一般常識問題の小テストを行い、社会に出て必要な国語力を身につける。	○国語の一般常識の小テストを実施。 ○進路考査
7	○古典文学に親しむ ○一般常識の強化	○古典文学に触れ、文学的内容、時代背景について理解させる。 ○就職試験などで出題される国語の一般常識問題の小テストを行い、社会に出て必要な国語力を身につける。	○漢字検定実施
9	○古典文学に親しむ ○一般常識の強化	○文語文法を理解させながら、本文の内容把握をさせる。 ○就職試験などで出題される国語の一般常識問題の小テストを行い、社会に出て必要な国語力を身につける。	
10	○古典文学に親しむ ○詩・短歌・俳句	○文語文法を理解させながら、本文の内容把握をさせる。 ○俳句、短歌の表現技巧について理解させる。	○俳句や短歌の鑑賞から表現力の向上を目指す。
11	○詩・短歌・俳句	○短歌、詩の表現技巧について理解させる。	○授業内テスト実施。（古文）
12	○詩・短歌・俳句	○俳句を創作させ、表現力を高める。	
1	○詩・短歌・俳句のまとめ ○1年間のまとめ	○既習事項を確認し、試験に向けての学習を進めさせる。 ○1年間の既習事項を確認させる。	○後期試験
2・3			※キャリアアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 国際理解について関心を高めさせると共に英語に対する苦手意識を克服させる。
○ 実用英語技能検定試験 5、4 級合格レベルを目標とする。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○ warm-up ①	○授業ルールを理解させる。 ○アルファベットとローマ字の確認。 ○英語の音に慣れる。	○副教材「DataBase1700」(1年間共通) ○授業を行いながら自閉症児の個性を見る。また、健常児の個性と自閉症児への対応を見る。 ○アルファベットの発音（フォニックス）を練習する際、大きく声を出す自閉症児が良い手本となり健常児の発声を促す。
5	○ warm-up ②③	○教室で使う表現を覚え、発音できるようになる。 ○辞書・単語帳の使い方を知り、使えるようになる。	○就職模試 ○忘れ物について正直に報告する自閉症児が、最初のごまかそうとしがちである健常児への良い手本となっている。また、忘れ物の報告の定着に時間がかかる自閉症児に関しては、周囲の健常児が声掛けを行う。 ○健常児のみの受験である就職模擬試験についての対策は授業では行わず、土曜日の特別講座（OS）のみでの対策とする。
6	○ pre-lesson 1 be 動詞 (現在形、否定文、疑問文)	○ be 動詞の現在形の疑問文、否定文の作り方を覚え、英文が作れるようになる。 ○本文読解。	○グループワーク、ペアワークを行う場合には健常児・自閉症児混合でグループを構成する。
7	○ pre-lesson2 一般動詞 (現在形、否定文、疑問文)	○一般動詞の現在形の疑問文、否定文の作り方を覚え、英文が作れるようになる。 ○本文読解。	○生徒がリーダーとなって文法の復習を行う。生徒が教員役となって、全体の前で 10 分程度の授業を行う。健常児・自閉症児お互いに良い授業を作り出そう（授業者を助けよう）という雰囲気作りに心がける。
9	○ Communication ①	○今まで学んだ文法を活用し、自己紹介文を作成する。 ○クラスメイトと英会話を行う。	○副教材「DataBase1700」 Level 2 ○前期試験 ○暗記すれば解ける問題だけでなく、生徒にその場で考えさせる問題を出題する。
10	○ L1 This Is My House 過去形 ○前期のまとめ	○過去形の文法を学ぶ。 ○ be 動詞、一般動詞の過去形の入った文章を読み、発音する。 ○練習問題を解く。	
11	○ L2 My Favorite Hero 進行形	○進行形の文法を学ぶ。 ○進行形の入った文章を読み、発音する。 ○練習問題を解く。	
12	○ L3 Cool Culture 助動詞	○助動詞の意味、種類を覚える。 ○助動詞の入った文章を読み、発音する。 ○練習問題を解く。	
1	○ Communication ② ○一年間のまとめ	○今まで学んだ文法を使用し、道案内をできるようにする。 ○1 年間で学習した文法事項の復習 ○発音とリスニングの強化	○就職模試 ○健常児のみの受験である就職試験についての対策は授業では行わず、土曜日の特別講座（OS）のみでの対策とする。 ○後期試験 ○暗記すれば解ける問題だけでなく、生徒にその場で考えさせる問題を出題する。 ○年間をとおして、こまめにノートとファイルを提出させる。ノートについては毎週金曜日の授業内に確認する。 ○ノートの写し方に問題がある生徒については、整理して書くことができていない生徒のノートを見せて手本とする。 ○健常児・自閉症児お互いが良い影響を与えあい、意見を出し合える空間作りを行う。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 各授業で単語の音読書写・単語テストを行うことで、語彙力の強化を図る。
○ Active learning を取り入れ、英語のインプットとアウトプットの機会を増やし、4 技能の向上を図る。
○ 英検 4 級・3 級各 3 名以上の合格者を出すことを目指す。
○ 単語、本文の音読練習などでバディとの練習を多く取り入れ、お互いが学びあえる支援などを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○1 年生の復習	○英語の勉強方法を各自で考え、発表する。 ○各自の年間目標を決める。 ○1 年生で学んだ be 動詞、一般動詞の復習と単語の音読書写練習を行う。	○授業のオリエンテーションを行う中で健常児、自閉症児の個性や特性を考え授業に活かす。 ○健常児と自閉症児が互いに英語の勉強方法を学びあうことで、さらに自分なりの勉強方法に磨きをかける。 ○自分のレベルにあった年間目標を考えさせる（単語 100 個暗記、英検 4 級合格など）。
5	○L2 A Letter to Australia 進行形	○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○助動詞の種類と意味を理解し、練習問題を多く解く。	○バディでの音読練習において自閉症児の良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。 ○音読テスト終了後、上手に音読できた生徒を（健常児、自閉症児にかかわらず）皆の前で褒め、再度音読させる。
6	○L3 Kawaii Culture 助動詞	○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○助動詞の種類と意味を理解し、練習問題を多く解く。	○生徒が文法事項で理解できない部分を明確にし、バディが適切な個人支援を行う（必要に応じて教員も支援する）。
7	○L2・L3 の復習 進行形・助動詞の復習	○本文の英文を活用し、自作英作文を作成する。 ○進行形、助動詞の基本問題、応用問題を解く。	○自作英作文、文法事項において自閉症児の個性・能力に応じた支援を行い、必要に応じて放課後など個人支援を行う。
9	○前期試験対策	○前期試験範囲の復習を行い、語彙力、基礎的文法の定着を図る。	○試験前に目標点を各自で決め、それに到達できるようバディで教え合う。 ○前期試験
10	○L4 A Symphony of Soup and Noodles 不定詞	○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○不定詞の種類と意味を理解し、練習問題を多く解く。	○音読練習においてバディのお互いの良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。
11	○L5 Lifelong Friends ○動名詞	○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○動名詞の種類と意味を理解し、練習問題を多く解く。	○バディで受け身を使った問題を出し合い、お互いに教えあう。
12	○ L4・L5 の復習 不定詞・動名詞の復習	○本文の英文を活用し、自作英作文を作成する（show and tell を行う）。 ○不定詞・動名詞の基本問題、応用問題を解く。	○ Show and Tell において、バディでお互いの良いところを引き出し、みんなの手本になるような部分をたくさん褒め、課題となるところを 1 つだけ指摘し支援する。
1	○後期試験対策 ○1 年間のまとめ	○後期試験範囲の復習を行い、語彙力、基礎的文法の定着を図る。 ○ L3 ～ L6 までの音読練習、文法事項の復習を行う。	○生徒が文法事項で理解できない部分を明確にし、バディが適切な個人支援を行う（必要に応じて教員も支援する）。 ○年間の自己評価を行い、バディで話し合い、達成した部分をお互いに褒め、残った課題の解決方法のアイデアを出し合う。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 語彙力向上を第一の目標に掲げ、基礎英語力を高めると共に自主学習への意欲を高める。
 - Active learning を取り入れ、英語のインプットとアウトプットの機会を増やし、4 技能の向上を図る。
 - 英検 4 級・3 級各 3 名以上の合格者を出すことを目指す。
 - 単語、本文の音読練習などでバディとの練習を多く取り入れ、お互いが学びあえる支援などを心掛ける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○ハワイ学習事前学習	○英語学習の目的を再確認する。 ○各自の年間目標を決める。 ○ハワイ学習で使う英会話を場面別に音読・暗唱する。	○授業のオリエンテーションを行うなかで健常児、自閉症児の個性や特性を考え授業に活かす。 ○健常児と自閉症児が互いに英語学習の意味を再確認することで、さまざまな目的があることを理解する。 ○自分のレベルにあった年間目標を考えさせる（単語 100 個暗記、英検 4 級合格など）。
5	○ハワイ学習事前・事後学習 ○ Short Stories in English 動名詞	○ハワイ学習で使った英語、言えなかった英語を復習する。 ○本文を音読練習し、バディで暗唱し発表する。 ○動名詞の種類と意味を理解し、練習問題を多く解く。	○バディでハワイ学習の思い出を話すなかで、英語で表現できなかった文章をお互いに調べ学習する。 ○音読練習において自閉症児の良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。
6	○ L6 A Funny Picture from the Edo Period 受け身	○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○受け身の作り方、意味などを理解し、練習問題を多く解く。	○音読練習において自閉症児の良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。 ○進路考査
7	○ L7 Living on Ice 現在完了形	○地球温暖化について理解を深める。 ○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○現在完了の作り方、意味などを理解し、練習問題を多く解く。	○自閉症児が文法事項で理解できない部分を明確にし、適切な個人支援を行う。
9	○ L8 A Garden in Hokkaido It の用法	○自然環境について理解を深める。 ○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○it の用法、意味などを理解し、練習問題を多く解く。	○本文の会話文をバディで練習し、暗唱、発表する。その際、自閉症児がスムーズに発表できるよう、できている部分を褒めながら、課題を明確にして集中練習を行う。
10	○ L9 Pigs from across the Sea 関係代名詞	○第 2 次世界大戦の沖縄戦について理解を深める。 ○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○関係代名詞の種類、使い方などを学び、多くの練習問題を解く。	○音読練習において自閉症児の良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。
11	○ L10 Memories on Trees 比較表現	○フィンランドの文化、産業、文化などについて理解を深める。 ○本文の音読練習をバディ、グループなどで行い、音読テストを行う。 ○比較表現の種類、使い方などを学び、多くの練習問題を解く。	○音読練習において自閉症児の良い部分を褒め、課題を明確にしてその部分を繰り返し練習する。それによって達成感を実感できるようにする。
12	○ L7 ～ L9 の復習 現在完了、it の用法、関係代名詞の復習	○本文の英文を活用し、自作英作文を作成する。 ○現在完了、関係代名詞の基本問題、応用問題を解く。	○自作英作文においてバディで見せ合い、感想を述べ合う。
1	○後期試験対策 ○ 1 年間のまとめ	○後期試験範囲の復習を行い、語彙力、基礎的文法の定着を図る。 ○ 1 年間学習した本文の音読練習、文法事項の復習を行う。	○生徒が文法事項で理解できない部分を明確にし、バディが適切な個人支援を行う。（必要に応じて教員も支援する） ○年間の自己評価を行い、達成した部分をバディでお互いに褒め、残った課題の解決方法のアイデアを出し合う。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 読みやすい文字を書くことを意識させ、丁寧に書く習慣を身につけさせる。
 - 検定合格を目指す。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○楷書・行書の基本点画	○基本を確認させる。 ペンの持ち方、姿勢、リズム	○持ち物管理の徹底を図る。 鉛筆、ボールペン、万年筆、フェルトペン ○一点一画正確に書く自閉症児の文字を健常児に示し改善を図る。
5	○検定説明	○各級の検定内容を説明書し、今後の練習の方針を知らせる。	○解説書や手引書の紹介をする。
6	○速書き ○理論問題	○検定に向けて実践的な練習をさせる。	○第 1 回硬筆書写検定の実施
7	○行書の基本点画	○行書の特徴をつかませ、自分なりに文字を崩せるようにさせる。	
9	○部首のくずし方	○部首のくずし方について練習させる。	○理論の強化
10	○速書き ○揭示問題 ○理論問題	○検定に向けて、実践的な練習をさせる。	
11	○速書き ○理論問題	○検定に向けて、実践的な練習をさせる。	○第 2 回硬筆書写検定の実施
12	○年賀状の書き方	○一般常識として身につけさせる。	
1	○速書き ○理論問題 ○状況に応じた書き方の練習 ○ 1 年間のまとめ	○検定に向けて、実践的な練習をさせる。 ○さまざまな状況に応じた文字の書き方を練習させる。 ○ 1 年間の学習の成果を評価させる。	
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 実技をととして、年齢相応の体力を身につける。
○ 体育をととしてはじめある態度、礼儀を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○基本姿勢・基本動作	○気をつけ、休め、前へならえ 集合、分散、などの基本の形、動作を覚えさせる。	○号令に速く反応する
	○スポーツ大会 合同体操練習	○初めに十分気持ち作りをしてから練習を行わせる。	○自閉症児を含む2人組および3人組を作りお互い確認やアドバイスをしながら練習する。 ○昨年度のビデオを見せスポーツ大会に向けてイメージを持たせる。
5	○スポーツ大会練習	○合同体操、開・閉開式、の練習を行なわせ、はじめをもった態度で練習に臨ませる。	○1年生はスポーツ大会の練習をととしてバディのきっかけ作りを行う。バディは固定的なものではなく行事や学校生活の場面場面でフレキシブルに対応する。
	○バドミントン	○打ち合いが長く続くようにシャトルを正確にラケットに当てられるよう練習させる。	
6	○バドミントン	○ゲームを中心に行い、そのなかでダブルスのルールを覚えさせる。	○相手のいないところに打てるようにする。 ○サーブやラリーで空振りが多い自閉症児はシャフトの短いラケット（こども用）を使用。
	○スポーツ大会		
7	○バスケットボール	○状況に応じたパスが出せるよういろいろな種類のパスを練習する。 ○ゲームをととしてルールを覚える。	○ゴール下斜め45度からのシュートを確実に入れる練習を繰り返し行う。 ○さまざまな体験学習をととして集団生活のルールを学ぶ。
	○林間学校		
9	○バスケットボール	○正確なシュートができるようにバックボードの使い方を教えるゲームをととしてルールを覚える。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール、バスケットボール4種目を予定。	○トラベリングやダブルドリブルなどの反則を緩和し、自閉症児は自分でボールを選び、シュートまでつなげることを目標とする。 ○生徒の自主運営を目標に体育委員を中心に行わせる。
	○球技大会		
10	○バスケットボール	○ゲームをととしてルールを覚える。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール、バスケットボール4種目を予定。	○チームはバディを基本にチーム編成をする。 ○生徒の自主運営を目標に審判は生徒で行う。 ○歩いたり止まったりしてしまう自閉症児には声掛けや並走などをしながらバディが補助を行う。
	○球技大会		
	○マラソン大会		
11	○スキー理論	○スキーテキスト、ビデオを見ながら、まだ経験のない生徒を中心に説明を行う。 ○常に上方に跳ぶことを意識させ正しいフォームで基本のジャンプを行わせる。	○自閉症児と健常児が交互に跳ぶよう整列させる。
	○ミニトランポリン		
12	○スキー陸上トレーニング	○靴や板の着脱法、用具の持ち運びや、転び方、エッジングの方法を覚えさせる。 ○ストレートジャンプ・タックル・開脚・半回転一回転を行わせる。	○スキー靴や板の脱着練習の際、バディを組んで必要に応じて補助を行う。
	○ミニトランポリン		
1	○器械体操（マット）	○前転、後転、側転、倒立、三点倒立、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転を行なわせ特に倒立系は確実に補助を行う。 ○側転、倒立、三点倒立、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転を行なわせ特に倒立系は確実に補助を行わせる。 ○台上前転、開脚跳び、閉脚跳び、跳び越し降りなどを大きく正確に行わせる。	○生徒に補助を行わせる。 ○補助が必要な種目については自閉症児と健常児でバディを組み、補助と合わせて必要に応じて言葉掛けを行う。 ○補助を確実に行う。 ○低い段数と、高い段数の2グループに分けて指導を行う。
	○スキー教室		
	○器械体操（マット）		
	○器械体操（跳び箱）		
	○1年間のまとめ		
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 実技をととして、年齢相応の体力を身につける。
○ 体育をととしてはじめある態度、礼儀を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○基本姿勢・基本動作	○気をつけ、休め、前へならえ 集合、分散、などの基本の形、動作を覚えさせる。	○号令に速く反応する。
	○スポーツ大会 合同体操練習	○一つひとつの動きを正確に、全体の流れをまず覚える。	○自閉症児を含む2人組および3人組を作りお互い確認やアドバイスをしながら練習する。 ○体育コースの生徒を中心に音楽に合わせ、模倣を行わせる
5	○スポーツ大会練習	○合同体操、開・閉開式、の練習を行なわせはじめをもった態度で練習に臨ませる。	○スポーツ大会練習は、バディを基本とした活動を行う。バディは固定的なものではなく行事や学校生活の場面場面でフレキシブルに対応する。
	○バドミントン	○打ち合いが長く続くようにシャトルを正確にラケットに当てられるよう練習させる。	
6	○バドミントン	○ゲームを中心に行い、そのなかでダブルスのルールを覚えさせる。	○相手のいないところに打てるようにする。 ○サーブやラリーで空振りが多い自閉症児はシャフトの短いラケット（こども用）を使用。
	○スポーツ大会		
7	○バスケットボール	○状況に応じたパスが出せるよういろいろな種類のパスを練習する。 ○ゲームをととしてルールを覚える。	○ゴール下斜め45度からのシュートを確実に入れる練習を繰り返し行う。 ○さまざまな体験学習をととして集団生活のルールを学ぶ。
	○林間学校		
9	○バスケットボール	○正確なシュートができるようにックボードの使い方を教えるゲームをととしてルールを覚える。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール バスケットボール4種目を予定。	○トラベリングやダブルドリブルなどの反則を緩和し、自閉症児は自分でボールを選び、シュートまでつなげることを目標とする。 ○生徒の自主運営を目標に体育委員を中心に行わせる。
	○球技大会		
10	○バスケットボール	○ゲームをととしてルールを覚える。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール、バスケットボール4種目を予定。	○チームはバディを基本にチーム編成をする。 ○生徒の自主運営を目標に審判は生徒で行う。 ○歩いたり止まったりしてしまう自閉症児には声掛けや並走などをしながらバディが補助を行う。
	○球技大会		
	○マラソン大会		
11	○スキー理論	○スキーテキスト、ビデオを見ながら、まだ経験のない生徒を中心に説明を行う。 ○常に上方に跳ぶことを意識させ正しいフォームで基本のジャンプを行わせる。	○自閉児と健常児が交互に跳ぶよう整列させる。
	○ミニトランポリン		
12	○スキー陸上トレーニング	○靴や板の着脱法、用具の持ち運びや、転び方、エッジングの方法を覚えさせる。 ○ストレートジャンプ・タックル・開脚・半回転・一回転を行せる。	○スキー靴や板の脱着練習の際バディを組んで必要な部分は補助を行う。 ○上方へ跳ぶ意識をつけさせる。
	○ミニトランポリン		
1	○器械体操（マット）	○前転、後転、側転、倒立、三点倒立、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転を行なわせ、特に倒立系は確実に補助を行う。 ○台上前転、開脚跳び、閉脚跳び、跳び越し降りなどを大きく正確に行わせる。	○生徒に補助を行わせる。 ○補助が必要な種目については自閉症児と健常児でバディを組み、補助と合わせて必要に応じて言葉掛けを行う。 ○補助を確実に行う。
	○スキー教室		
	○器械体操（マット）		
	○器械体操（跳び箱）		
	○1年間のまとめ		
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 実技をととして、年齢相応の体力を身につける。
○ 体育をととしてはじめある態度、礼儀を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○基本姿勢・基本動作 ○スポーツ大会 合同体操練習	○気をつけ、休め、前へならえ、集合、分散などの基本の形、動作を覚えさせる。 ○曲に合わせたスムーズな動きが行えるようにする。	○号令に速く反応する ○自閉症児を含む2人組および3人組を作りお互い確認やアドバイスをしながら練習する。 ○体育コースの生徒が中心となって指導を行う。 パディを組み、模倣や声掛けを行う。
5	○スポーツ大会練習 ○バドミントン	○合同体操、開・閉会式の練習を行なわせ、はじめをもった態度で臨ませる。 ○打ち合いが長く続くように、シャトルを正確にラケットに当てられるよう練習させる。	○スポーツ大会練習は、パディを基本とする。パディは固定的なものではなく行事や学校生活の場面場面でフレキシブルに対応する。
6	○バドミントン ○スポーツ大会	○ゲームを中心にを行い、そのなかでダブルスのルールを覚えさせる。	○相手のいないところに打てるようにする。 ○サーブやラリーで空振りが多い自閉症児はシャフトの短いラケット（こども用）を使用。
7	○バスケットボール ○林間学校	○状況に応じたパスが出せるよう、いろいろな種類のパスを練習する。 ○ゲームをととしてルールを覚えさせる。	○ゴール下斜め45度からのシュートを確実に入れる練習を繰り返し行う。 ○様々な体験学習をととして集団生活のルールを学ぶ。
9	○バスケットボール ○球技大会	○正確なシュートができるように、バックボードの使い方を教える。ゲームをととしてルールを覚えさせる。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール、バスケットボール4種目を予定。	○トラバリングやダブルドリブルなどの反則を緩和し、自閉症児は自分でボールを選び、シュートまでつなげることを目標とする。 ○生徒の自主運営を目標に体育委員を中心に行わせる。
10	○バスケットボール ○球技大会 ○マラソン大会	○ゲームをととしてルールを覚えさせる。 ○バドミントン、卓球、ドッチボール、バスケットボール4種目を予定。	○チームはパディを基本に編成をする。 ○生徒の自主運営を目標に審判は生徒で行う。 ○歩いたり止まったりしてしまう自閉症児には声掛けや並走などをしながらパディが補助を行う。
11	○スキー理論 ○ミニトランポリン	○スキーテキスト、ビデオを見ながら、まだ経験のない生徒を中心に説明を行う。 ○常に上方に跳ぶことを意識させ正しいフォームで基本のジャンプを行わせる。	○自閉症児と健常児が交互に跳ぶよう整列させる。
12	○スキー陸上トレーニング ○ミニトランポリン	○靴や板の着脱法、用具の持ち運びや、転び方、エッジングの方法を覚えさせる。 ○ストレートジャンプ・タックル・開脚・半回転・一回転を行わせる。	○スキー靴や板の着脱練習の際パディを組ませ、必要な部分は補助を行う。
1	○器械体操（マット・跳び箱） ○スキー教室 ○1年間のまとめ	○前転、後転、側転、倒立、三点倒立、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転を行なわせ、特に倒立系は確実に補助を行う。 ○台上前転、開脚跳び、開脚跳び、跳び越し降りなどを大きく正確に行わせる。	○生徒に補助を行わせる。 ○補助が必要な種目については自閉症児と健常児でパディを組み、補助と合わせて必要に応じて言葉掛けを行う。 ○年度末の体育活動において、日常の学校生活におけるパディに捉われず、多くの自閉症児、健常児との交流活動ができることが好ましい。
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 実生活に密着した教科であることを認識し、生涯学習の一端としての学習展開を目指す。
○「体の仕組みとその役割」「病の種類とその原因」この二つから「健康」を考える。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 保健体育の中の「保健」の領域の説明 ○身体の各器官 ①消化器系	○日常生活と「保健」の関わりを認識する。 ○食べた物の経路を辿りその意味を知る。	○クラスのなかの構成人数から、自閉症児を確認しながら授業を展開する。また、その際に読むスピードや板書の書写スピードなど、教室を巡回して確認。その授業進度を調整しながら進めていく。 ○配布したプリントの保管方法を提示する。
5	○身体の各器官 ②呼吸器系（酸素と体）	○「人はなぜ息をするのか」ということに疑問を持ちそのメカニズムを知る。	○喫煙についてもふれる。 ○息を止めて何秒いられるか、隣り合うパディで確認をさせて、コミュニケーションの度合いを確認する。 ○呼気、吸気を説明しつつ、その意味理解がされているか確認。
6	○身体の各器官 ③循環器系（血液と体） ④身体機能（生活と器官）	○血液の重要性とその経路を知り器官でどのような処理が行われるか知る。 ○日常生活に今まで学んだ事をあてはめどのように働いているか知る。	○「身体の各器官」まとめ ○血液や怪我について、ショック症状になる生徒がいなかったらあらかじめ聞き取っておく。なかには貧血状態になったりする生徒もいるので注意。
7	○嗜好品と健康 タバコ、酒の害 ○人工呼吸	○嗜好品が体に与える影響を知る。 ○マウストゥーマウス、ニールセン、シルベスタを実習する。	○ビデオ 未成年者と飲酒
9	○前期のまとめ ○後期について	○前期試験に関しての復習とまとめを行う。 ○後期の予定を知らせる。	○まとめプリントから重要語句を抜き出せるようにアンダーラインを引くなどの工夫をするよう指導する。 ○テストに向けて記号問題やカタカナ記入の問題についての注意点を予め指導しておく。 ○前期試験
10	○病気の起こる仕組みとその予防 ①病気の種類 ②病気の歴史と人類	○生活習慣病や成人病などいくつかの病例を用いてその原因や治療方法を知る。 ○人類がどのように病気と戦ってきたかを調べる。	○ベストや赤痢、公害病などその時代特有の病例を挙げる。 ○病気の種別分けをする段階で、感染する病気とそれ以外の病気を列挙させ、色分けをして分類を明確にしておく。
11	○病気の起こる仕組みとその予防 ③病気の起こる仕組み 病気の始まり	○なぜ病気にかかるのか原因を知る。	○病原体が感染する経路を知り、その感染経路を遮断する理屈を、絵や図を描くことによって理解させる。
12	○早期発見早期治療 ○病気になったときの心構え	○病気になったときにどのような対処をしたら良いか考える。	○ガンの治療を例に挙げて、進行する病気や自覚症状について、風邪と対比して理解させる。
1	○病気の起こる仕組みとその予防 ④病気の予防 健康診断 ○けがの起こる仕組み ①けがの原因 ②けがの応急処置（救急法）	○今までの学習で得た知識を元にその予防策を考える。 ○けがの種類を知る。 ○けがに至るプロセスを考える。 ○応急処置のねらいや方法（止血法・包帯法）	○健康診断が早期発見につながりとても重要である事を知る。 ○健康診断の項目を自閉症児に答えさせて、項目列挙。彼らの場面的な記憶力を確認する。 ○具体的な救急法の実地（包帯や三角巾などの布を用意） ○怪我が起こった事例をもとにして、教室内でシミュレーション。どうすれば防げたか意見を求めて、単純明快な答えに解説を付け加える。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 社会の流れと保健体育のつながりを考え、知識を深めるとともに生涯の健康について考える。
○ 健康の成り立ちについて考え、生活習慣の改善を促す。性に関して正しい知識を身につける。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 保健体育の意味と意義 ◎現代社会と健康 ○私たちの健康のすがた	○保健体育の重要性 ○平均寿命と健康寿命について説明して、健康に対して意識を向かせる。	○自らの環境の列举と理想の環境との違いは何か考えさせる。 ○自身の生活面を見つめ直す。自閉症児特有の生活サイクル、ルーティーンを知ることによりお互いの理解を深める。
5	○生活習慣病と日常の生活行動 健康の基本 (食事、運動、休養)	○健康の保持増進にとって、食事は重要な要素であることを理解させる。 ○生活習慣病の予防など、生活のなかに運動を習慣づけることが大切であることを理解させる。	○食生活について考える。 ○生活習慣、生活サイクルについて発表させる。自分以外の人の生活面の課題を知り共有し、意見を交わさせる。
6	○休養と健康 ○喫煙と健康	○現代社会では、休養を意識的にとることが大切であることを理解させる。 ○喫煙は、健康に悪影響をおよぼすことを理解させる。	○心と体のバランスを整えさせる。 ○休養のとり方を工夫させる。 ○休養のとり方について意見交換させる。ストレスや苛立ちを抱えてしまったときの対処、対応を考える。なかには上手く感情をコントロールできない生徒がいるため、その点を考えさせる。
7	○飲酒と健康	○一時的な大量飲酒、また長期的な大量の飲酒は健康に悪影響をおよぼすことを理解させる。	○お酒と煙草はなぜ 20 歳からなのかを考えさせる。「成人」とは何か話し合いをさせる。
9	○健康に関わる意志決定・行動選択 ○前期のまとめ	○前期のまとめとして健康への正しい意識を持つこと、生きていくために必要な意志決定について話をする。	○自らの生活習慣を見直す。 ○改善点を挙げ、発表する。 ○ノートの作成 ○学んだこと、感じたことを振り返る。 ○前期試験
10	◎社会生活と健康 ○大気汚染と健康	○大気汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例を挙げて説明できるようになる。 ○地球規模の環境問題についても触れる。	○環境問題に対する意識を持たせる。自分本位の考えがいかにか社会に影響をするかということから社会を重んじるよう説明をする。環境、また隣に座る生徒一人ひとりの立場を思いやる気持ちを育む。
11	◎現代社会と健康 ○感染症とその予防 ○エイズとその予防	○現在問題となっている感染症について、例を挙げられるようになる。 ○感染症問題の防止のために自分がやれること、できることを考える。	○性教育に関して正しい知識を身につける。同時に命の大切さについて話をする。健常児に対しては障がいを持って生まれる親の気持ちを考えさせたい。
12	◎社会生活と健康 ○水質汚濁と健康	○水質汚濁はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例を挙げて説明できるようにする。	○マスメディアに取り上げられる社会問題についても意識を向け、情報を共有する。
1	○土壌汚染と健康 ◎ライフステージと健康 ○1 年間のまとめ	○土壌汚染はどのようにおこり、どのように健康へ影響するかを、原因物質の例を挙げて説明できるようにする。 ○職場の健康増進対策について説明できるようになる。日常生活での健康増進について説明できるようにする。 ○試験対策	○3.11 東日本大震災について考える。考えた意見をまとめて簡単に発表をさせる。「生きていくために乗り越えなくてはいけない壁とは何か？」をテーマとする。 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 実生活に密着した教科であることを認識し、生涯学習の一端としての学習展開を目指す。
○ 社会へ出るための知識、また学習の継続を意識づけるためのまとめの学習を行う。

※ゴシックフォントの部分が混合教育関連事項を示す			
月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○導入 保健科の意味と意義 ○文明社会と健康 ①文明の進歩と健康	○文明と健康のつながりとその歩みを知る。	○進歩する科学とそれに伴った公害を挙げそれによる健康被害を考える。 ○便利になったかたわら弱くなっていく人間機能を知る。 ○2 年次の復習も兼ねているので、その点を確認する。
5	○文明社会と健康 ②人間の活動と自然 ③公害による健康被害 大気汚染	○自然の恩恵を受ける動植物、そのなかの人間と自然の相互関係を知る。 ○人間のつくり出した公害がおよぼす自然への影響とその自然が起す公害について、具体例をもとに考える。	○自然が人間に、人間が自然におよぼす影響を考え自然のもろくも偉大で力強いことを知る。排気や排煙などにより大気汚染が起ることを知る(オゾン層破壊・光化学スモッグ・四日市喘息) ○身近な公害について、意見を聞き取りそれに対する補足を健常児にさせる。
6	③公害による健康被害 水質汚濁 有害物質	○工場排水や家庭排水などにより川や海が汚れそれがどのような影響を与えるかを知る。 ○人間がつくり出した有害物質がどのような経路を経て自然に、人間に影響をおよぼすのかを考える。	○川や海の今と昔を比べ何がどのような影響をもたらしたのかを考える。(水俣病) ○身近な公害について、意見を聞き取りそれに対する補足を健常児にさせる。 ○進路考査
7	○救急法、応急処置 嗜好品と健康 ○止血法・包帯法・応急処置・人工呼吸	○嗜好品が体に与える影響を知る。	○三角巾の準備 ○ビデオ 未成年者の飲酒 ○自分たちだけで対処するのではなく、周囲の人に助けを求める方法を教え、可能な限り大人を呼ぶ意識をつける。
9	○精神構造を知る ①青年期の心理 ②友と友情 ③欲求と行動	○自分たちの精神構造の基盤を知り自己分析のきっかけとする。	○身近な話題を取り上げ各自「自分だったら…」と具体的に考えノートに記す。 ○教師が質問項目を多数用意 ○授業進度ベースが速くなるので、板書の書写もスピードアップさせる。また、口頭での説明をメモ書きする練習をさせる。
10	○精神構造を知る ④才能と適性	○就職進学など新しい道に進むにあたって才能と適正の違いを理解し、そのうえでの努力が大切であることを知る。	○スポーツや競技における能力分けからの適性を例として挙げそれぞれどこかに何かの素質があることを知らせる。 ○自閉症児が得意な分野（スポーツに限らず）を列挙して、人それぞれの得意分野があることを全員が知る。
11	○適応機制	○葛藤状態や、合理化、代償を知る。	○思春期の問題行動が理論づけられ、誰しも通過することであることを知る。 ○混合教育のなかで互いに見せた問題行動の裏側、理由を紐解いていくことによって互いに過渡期であったことを理解させる。
12	○生きるということ	○「生まれる」とは何か「死ぬ」とは何かを考え人の一生と保健の結びつきについて知る。	○医療・保険制度・環境などを考える。 ○動物の一生と人の一生を比較研究する。 ○自分だけでなくバディの友達の人生を真剣に考えてみる。
1	○保健まとめ ○「三年間のまとめ」 レポート提出	○課題項目を多数用意し約 5 人一組のグループが研究発表させる。 (1 時限：1 グループ)	○グループのなかで分担作業を行い模造紙などにわかりやすく学習内容をまとめ発表する。(読み手や発表者しても必ず全員参加させる) ○ノートとプリントをまとめ提出 ○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○身だしなみ、持ち物管理など、自分のことをしっかりとできるようにする。
○健常児との交流を密にし、コミュニケーションがとれるよう会話や言語感覚（ときに応じて敬語を使うなど）を育てる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ネクタイの結び方 ○学校のルールについて	○ノーマルな最も簡単な形を定着させる。 ○学校生活における基礎作りを行う。特に、授業の準備、教室の移動などをスムーズに行えるようにする。	○1年生研修
5	○挨拶、報告徹底 ○身だしなみ、常備品（ハンカチ、ティッシュなど）の確認	○正しい言葉遣いで話すことを意識させる。 ○清潔さを保つため、頭髮、爪、歯などに気を配る。 また、ハンカチ、ティッシュなどの使い方をチェック、指導する。	
6	○衣服の調節 ○汗の処理	○気温の変化に応じた衣服の調節を意識させる。 ○高校生にふさわしい汗の処理の仕方を覚えさせる。	○衣替え ○スポーツ大会
7	○行動力の強化 ○まとめ	○一斉、個人指導のなかでの指示理解力を高めさせる。 ○前期のまとめとして、4月からの生活面での成長、夏休み中、夏休み後の課題について考えさせる。	○林間学習
9	○応用力を養う	○生活のリズム、パターンに変化をもたせ、臨機応変に対応する機会を多くする。 ○先をよんだ行動がとれるように導いていく。	
10	○ネクタイの結び方 ○衣服の調節	○衣替えに合わせ、最も簡単な形を定着・再確認させる。 ○気温の変化に応じた衣服の調節を意識させる。	○衣替え ○農業従事研修
11	○販売、金銭授受の練習 ○挨拶、報告の徹底	○紫峰祭に向けて、品物の値段、おつりの理解を深めさせる。 ○正しい言葉遣いで話すことを再度意識させる。	
12	○うがい、手洗いの実施 ○まとめ	○季節柄、風邪やインフルエンザ予防について、知識を高めるとともに、うがい手洗いの実施を励行する。 ○個人の弱点を把握し、冬期休暇の課題にする。	○校内実習
1	○うがい、手洗いの実施 ○タイムカード練習	○職場実習を意識し、出勤・退勤のシステムを覚えさせる。 ○タイムカードに記載されている時刻の意味を理解させる。	○スキー教室
2	○うがい、手洗いの実施 ○タイムカード練習	○職場実習を意識し、出勤・退勤のシステムを覚えさせる。 ○タイムカードに記載されている時刻の意味を理解させる。	
3	○タイムカード練習 ○まとめ	○職場実習を意識し、出勤・退勤のシステムを覚えさせる。 ○タイムカードに記載されている時刻の意味を理解させる。 ○次年度に向けて、挨拶や礼儀などの再確認を行う。	

《活動目標》 ○職場実習を控え、身の自立、社会的能力（報告、連絡ほか）を高める。
○社会の一員となるべく、この基礎を培い、生活力・対人マナーの向上を図る。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○身の自立の確認 ○報告・連絡の徹底	○ネクタイの結び方、身だしなみに対する意識を向上させる。 ○職場実習にむけての意識づくりを行う。	○鏡を使って、自分で確認・修正することを促す。
5	○校内実習に向けて ○金銭の使い方	○職場実習にむけての意識づくりと報告・連絡を徹底させていく。 ○時間への意識を向上させる。 ○金銭の選別、自動販売機の使用法を指導する。教科指導の場では、金銭の使い方、価値を学ばせる。	○校内実習 ○自己の活動・行動と時間の経過を意識させる。 ○農業従事研修
6	○電話での会話・報告 ○コミュニケーション力の向上 ○衣服の調整	○校内で内線を使つての電話練習や下校時に家庭との電話練習を行う。 ○場にふさわしい言葉遣いを心がける。 ○気温や天候によって衣服の調整をする。	○スポーツ大会 ○天気予報や最高気温などの事前情報を取り入れ、判断基準として活用させる。
7	○職場実習に向けての前段階指導 ○交通機関の利用を促す ○長期休暇の計画	○電話による連絡報告の練習を行う。また挨拶、返事、身だしなみ、時間の意識を高める。 ○交通機関利用時のマナーについて再確認し、徹底させる。 ○生活リズムを保ち、手伝い・余暇活動のバランスを考える。	○林間学習 ○髪型・爪・ひげ（男子）などにも細かく気を使わせる。 ○週末の余暇を使う。
9	○身の自立の立て直し ○職場実習に向けての指導 ○衣服の調整	○夏期休暇後の立て直しを行う。 ○報告、連絡、挨拶等、徹底指導を行う。 ○時間を意識した行動を促す。 ○気温や天候によって衣服の調整をする。	○校内実習 ○適切な時間内に作業や行動を正しく終わらせる意識を持たせる。
10	○職場実習へ向けて 時間管理 職場実習準備 電話の対応の仕方	○実習に向けて交通機関の練習をする。 ○実践を行うなかで発見できた弱点を今後の指導課題とする。	○マナーだけでなく、時刻表の確認や、通勤時間の計算なども出来るように練習する。 ○職場実習・巡回指導・校内指導
11	○職場実習の事後指導 ○コミュニケーション力・対人マナーの向上	○職場実習において明確となった弱点を強化する。 ○社会人としてふさわしい対人マナーを身につけさせる。	○職場実習・巡回指導・校内指導 ○物の受け渡し、話しかけるタイミング、人とすれ違う際のマナーなどの徹底を図る。
12	○報告、連絡の徹底 ○コミュニケーション力・対人マナーの強化 ○休暇の計画立て	○日常生活や職場でのコミュニケーションの力を高める。 ○社会人としてふさわしい対人マナーを徹底させる。 ○生活リズムを保ち、手伝い・余暇活動のバランスを考える。	○職場実習・巡回指導・校内指導
1	○身の自立の再確認	○スキー教室をととして冬期休暇中の立て直しを行うと共に、着替えや荷物整理などを完璧に行えるようにする。 ○手袋、マフラー、コートなどの扱い方、管理の仕方の徹底を図る。	○スキー教室 ○職場実習・巡回指導・校内指導
2	○賞与 ○金銭の使い方 ○登下校のマナーの再確認	○賞与を有効に活用するように事例を出して学習させる。 ○金銭の使い方、価値を再確認する。 ○特に雨天や降雪時の対応について確認する。	○作業学習賞与 ○職場実習・巡回指導・校内指導
3	○一年間のまとめ ○休暇の計画立て	○最終学年になることの気持ちづくりを行う。 ○生活リズムを保ち、手伝い・余暇活動のバランスを考える	

《活動目標》 ○ 生活習慣の見直し、最終的な確立を図る。
○ 作業能力のレベルアップを図る。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○身だしなみ、常備品（ハンカチ、ティッシュなど）の再確認 ○時間管理と職場実習準備 ○電話の対応の仕方再確認	○清潔さを保つため、頭髮、爪、歯などに気を配る。また、ハンカチティッシュなどの使い方、また常に携帯しているかどうかを確認、再指導する。	※女子の生理の処理にも充分留意する。
5	○交通機関の利用を促す（週末の余暇を使う） ○金銭の使い方	○金銭の選別、自動販売機の使用法を再指導する。 ○金銭の使い方、価値を学ばせる。	○家庭における余暇の利用 ※情緒面のチェック
6	＜実習中の生徒＞ ○電話の応対実践 ○就労時間、休息时间、昼休みなどの時間管理 ＜上記以外の生徒＞ ○時間管理、電話応対、作業能力の強化	○実習中の生徒に関して左記の項目において問題がみられる生徒は可能な限り終業後、本人を学校に呼んで指導する。	○職場実習 ・巡回指導 ・校内指導 ※生活面のチェックを確実にを行い、職場実習への準備をしっかり行わせる。 ○スポーツ大会
7	＜実習終了の生徒＞ ○職場実習の反省（実習先でのマナーなども含めて） ＜実習中の生徒＞ ※上記参照	○今後の課題を明確にする。実習中の指導内容に関して十分に復習させる。 ○学校生活に戻ったときの反動を極力抑える。	◎職場実習（実習後） 家庭生活の充実を呼びかける。 ※長期休暇の準備、指導 ◎農業従事研修
9	○身だしなみ、常備品のチェック ○生活言語から社会言語への移行 ○作業学習の強化 ○電話対応、時間管理	○特に指導者側が留意する。 ※職場実習準備	○特に指導者側が留意する。
10	＜実習中の生徒＞ ※ 6 月参照 ＜実習がまだの生徒＞ ※ 6 月参照	○実習において何らかの問題がみられた場合、校内指導でアフターケアを行う。 ○ HR 等の活用	○職場実習 ・巡回指導 ・校内指導 ※家庭生活のチェック、充実を図らせる。一般企業に就職した生徒への課題を明確にさせる。
11	＜実習中の生徒＞ ※ 6 月参照 ＜実習がまだの生徒＞ ※ 6 月参照 ○郵便の依頼システムの指導	○実習において何らかの問題がみられた場合、校内指導でアフターケアを行う。 ○葉書、封筒、小包、書留などの違いを理解させる。	○職場実習（実習後） 家庭生活の充実
12	○職場実習の反省 ○作業実習の強化	○実習の反動（戻り）を防ぐ	
1	○3年間のまとめ ○作業実習のまとめ ○卒業式練習	○作業能力のチェックおよび、卒業後に向けて、情緒の安定を図る。3年間の締めくくりである卒業式の準備に力を入れる。	○スキー教室 ※情緒面のチェック
2	○卒業式練習	○社会的なマナー、言葉遣い（敬語など）の最終確認を行うとともに、社会に出るための心構えを作っていく。	○作業学習賞与 ※情緒面のチェック
3	○卒業式練習まとめ		※情緒面のチェック ○卒業式

《活動目標》 ○ 実生活に必要な数学的なものの見方、考え方が身につけられるようにする。
○ 時間、金銭、計算などの実用能力を高めていく。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○中学校の復習（計算・時間・計数・買い物）	○中学校における学力を把握する。	
5	○四則計算 ○電卓練習・買い物の基礎学習（年間継続）	○金銭の扱い、電卓での計算の仕方について確認・練習する。レシートなどを使って計算を練習させる。	
6	○四則計算（年間継続） ○一次関数・買い物の基礎学習	○基本的な四則計算をさせる。（電卓などを使う場合もある） ○一次関数の基本を学び、買い物の計算練習をする。買い物リストを作り、必要な金額、おつりなどを計算する。	
7	○計数	○紙を数える練習をさせ、個々の力を把握し、作業学習にも連動させる。	
9	○四則計算	○四則計算を練習させ、合わせて試験対策を行っていく。	○前期試験
10	○時間 ○買い物練習（ラベルの見方）	○時間の読み方を確認し・練習する。 ○ラベルの読み方を覚える。（代金、日付など）	
11	○計数	○実生活に必要な個数についての理解を深めさせる。（例：1つずつ・2つずつ）	
12	○四則計算	○個々の弱点を明らかにしレベルに合った計算練習をさせる。（電卓を使った計算をする場合もある）	
1	○四則計算 ○1年間のまとめ	○四則計算を練習させ、合わせて試験対策を行っていく。 ○1年間学習した内容を振り返り次年度の学習に生かしていく。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 数学における基本的な概念、原理、法則などを理解させる。

○ 日常生活に使われるような基本的な計算を導入し、計算力を高める。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○基本的な四則計算 ○計数 ○時間の計算	○基本計算に数多く取り組ませる。 ○古紙などを使って、数える練習をする。 ○時間の単位の計算	○1年次の復習
5	○基本的な四則計算 ○計数 ○買い物リスト	○基本計算に数多く取り組ませる。 ○古紙などを使って、数える練習をする。 ○買い物リスト内の計算	○1年次の復習
6	○基本的な四則計算 ○計数 ○金銭の識別	○基本計算に数多く取り組ませる。 ○古紙などを使って、数える練習をする。 ○実際のお金を使う。	
7	○基本的な四則計算 ○計数 ○金銭の識別 ○買い物練習	○基本計算に数多く取り組ませる。 ○古紙などを使って、数える練習をする。 ○実際のお金を使う。	※夏休みに向けて買い物実践の呼びかけを行い、 授業内容を実生活に活かしていく。
9	○計数 ○金銭の計算 ○買い物練習	○「2、4、6・・・」「5、10、15・・・」といった効率の良い数え方を学習させる。 ○実生活で活かせるよう、家庭に呼び掛ける。	○前期試験
10	○前期のまとめ ○計数 ○時計・時間計算	○前期の内容を振り返る。 ○デジタルとアナログの両方、もしくはどちらかと時分表記の時間をつなげる	
11	○計数 ○時計・時間計算 ○電卓計算	○作業学習に活かしているかチェックする。 ○デジタルとアナログの両方、もしくはどちらかと時分表記の時間をつなげる	
12	○計数 ○時計・時間計算 ○電卓計算	○作業学習に活かしているかチェックする。 ○デジタルとアナログの両方、もしくはどちらかと時分表記の時間をつなげる	
1	○計数 ○金銭・買い物練習 ○電卓計算・定規の使い方 ◎作業学習とのリンク	○作業学習に活かしているかチェックする。 ○買い物リストを使って支払の練習をする。 ○1年間学習した内容を、長時間の作業のなかでどれだけ活かしているか、確認・評価する。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 社会自立に必要なさまざまな計算について確実に身につけさせる。

○ 時計を読むことやお金の判別も身につけさせる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○基本的な四則演算の確認	○桁を揃えて計算する事に留意させる。特に、苦手とする生徒が多い除法に関しては、確実に身につけられるよう、配慮する。(生徒によっては電卓を使う場合あり)	
5	○基本的な四則演算の確認 ○進路考查対策	○文章題読解、立式といった一連の解答手順を身につけさせる。 ○時間計算の文章題も行わせる。	
6	○基本的な四則演算の確認 ○進路考查に向けて	○文章題読解、立式といった一連の解答手順を身につけさせる。 ○時間計算の文章題も行わせる。	○進路考查
7	○基本的な四則演算の確認 ○進路考查復習	○計算練習（電卓を使った物を含む）と文章題を行う。また、1、2年生の復習も行う。	
9	○文章問題	○問題文を読解できることを目標に、文章題に取り組ませる。	
10	○金銭計算 ○暗算計算 ○計数	○金銭計算について指導を行う。 ○簡単な暗算に慣れさせる。 ○計数の練習をさせる。	
11	○金銭計算 ○日常生活における計算	○今まで学んだ時間計算、金銭計算などを状況に応じて使えるように指導する。	
12	○日常生活における計算	○実際の生活に密着した計算の指導を、具体的な形で理解させる。	
1	○日常生活における計算 ○様々な単位 ○後期試験に向けて ○後期試験復習 ○3年間のまとめ	○生活に密着した計算の習得と併行して、日常使うことの多い「単位」に関しても確実に理解させる。 ○卒業後の社会自立を想定し、3年間のまとめを行う。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 地理についての基本知識を身につけさせる。
○ ニュースや世界についての関心を持たせ、実生活に欠かせない常識を、実用させる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○登下校時の確認 自宅の住所・電話番号	○自宅から学校までの略地図を描かせる。 ○自宅の住所と電話番号を覚えさせる。	
5	○地図と地図記号 ○人口、食料問題 ○身辺項目	○地図記号を覚えることで地図を読めるようにする。 ○人口、食料問題が世界のなかに存在することを知る。 ○身の回りや自分自身のことを知る。	
6	○民族・領土問題 ○身辺項目	○民族・領土問題が存在することを知り、ニュースなどで聞き取れるようにする。 ○身の回りや自分自身のことを知る。	
7	○まとめ ○前期試験対策	○これまで学習した内容の復習を行う。	
9	○前期試験対策 ○世界地図	○これまで学習した内容の復習を行う。 ○世界地図を書き、日本の位置を確認させる。	○前期試験
10	○日本と世界 ○世界の地域	○日本と世界の違いをさまざまな分野で比較させる。 ○世界の6大陸を暗記させる。	
11	○環境問題 ○世界の農林水産業	○公害問題や、自然災害について知り、考察させる。 ○世界の気候と合わせ、どのような農業があるか確認させる。	
12	○エネルギー問題 ○資源問題	○エネルギー、資源の問題をニュースなどに取り上げられている身近なものから学ぶ。	
1	○後期試験対策 ○1年間のまとめ	○後期に学習した内容を復習し、試験に備える。 ○各自の生活とニュースを結びつけ考察させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 日本史に興味を持たせる。
○ 日本史上の有名な人物名や出来事を把握させる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○原始・古代	○時間の単位や、大まかな時代の流れを学習させる。	
5	○原始・古代	○昔の人々の生活様式や社会の様子を考えさせる。	
6	○原始・古代 ・平安時代	○平安時代の文化（人物・建物）を中心に学習させる。	
7	○中世 ・鎌倉時代	○鎌倉時代の武士について学習させる。 また、文化について見識を深めさせる。	
9	○中世 ・鎌倉時代 ○前期のまとめ	○鎌倉時代の文化を中心に学習させる。	○前期試験
10	○中世 ・室町時代	○室町時代の文化や人物について学習させる。	
11	○中世 ・安土・桃山時代	○織田信長、豊臣秀吉を中心に学習をさせる。	
12	○近世 ・江戸時代	○武士中心の社会であることと時代の人物、文化について学習させる。	
1	○近世 ・江戸時代～大正 ○現代 ・昭和・平成 ○1年間のまとめ	○江戸、明治、大正の各時代を大まかに把握させる。 ○昭和、平成の各時代を大まかに把握させる。 ○古代から現代までの内容を歴史の流れのなかで復習する。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 歴史上の著名な人物、事件をキーワードに、世界の歴史の大まかな流れを学ばせる。
 - 世界史を学ぶ意義を理解させ、自己とのつながりを考えさせる。
 - 世界遺産など有名な史跡を紹介し、世界について興味を持たせる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○ハワイの歴史	○ハワイの歴史について、大まかな流れを理解させる。 ○ハワイ学習で訪れる場所・史跡を中心にハワイについての知識を増やしていく。	
5	○世界の歴史上の人物	○著名な歴史上の人物、各界の有名人の国籍などを紹介しながら、興味、関心を喚起する。	
6	○世界遺産から学ぶ世界史 ・ピラミッド（エジプト） ・万里の長城（中国）	○有名な世界遺産を紹介しながら、世界や外国について興味、関心を喚起すると共に、知識を増やしていく。	○進路考査
7	○世界遺産から学ぶ世界史 ・古代ローマ遺跡（イタリア）	○有名な世界遺産を紹介しながら、世界や外国について興味、関心を喚起すると共に、知識を増やしていく。	
9	○世界遺産から学ぶ世界史 ・オリンピア、 ・パルテノン神殿（ギリシャ） ○前期のまとめ	○有名な世界遺産を紹介しながら、世界や外国について興味、関心を喚起すると共に、知識を増やしていく。	
10	○世界遺産から学ぶ世界史 ・ナスカの地上絵、 ・マチュピチュ（ペルー）	○有名な世界遺産を紹介しながら、世界や外国について興味、関心を喚起すると共に、知識を増やしていく。	
11	○世界遺産から学ぶ世界史 ・自由の女神（アメリカ）	○有名な世界遺産を紹介しながら、世界や外国について興味、関心を喚起すると共に、知識を増やしていく。	
12	○アメリカの歴史 ・アメリカ独立革命 ・ボストン茶会事件 ・独立宣言	○最も身近な国（アメリカ）・姉妹校のあるボストンについて学び、アメリカ建国の大まかな流れを理解する。	
1	○二つの世界大戦 ・「第一次世界大戦」 ・「第二次世界大戦」 ○平和について（世界史のまとめ）	○戦争がもたらす傷跡について深く考えさせると共に、「平和」とはなにか、戦争時と現在の世界の国々との関わりを紹介しながら理解させる。 ○現在の世界情勢に目を向けさせ、ニュースや新聞を読む習慣の大切さを認識させる。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

- 《活動目標》
- 社会自立に必要な国語の力を養う。
 - 対話言語理解を重点指導する。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○対話 ・言語理解を重点指導する ・返事・挨拶の練習	○個々の基礎力を把握する。	○大きな声ではっきりと発音する。
5	○敬語 ○聞き書き練習	○敬語の種類を理解させる。 ○単語レベルの聞き書きができるように指導する。	○文字は形を整えて丁寧に書く。
6	○「メッセージ探しの旅」 ○敬語練習	○音読・書写・漢字練習を中心に行わせる。 ○敬語を使い分けられるよう練習させる。	○尊敬語と謙譲語の区別をはっきりつける。
7	○「メッセージ探しの旅」 ○まとめ	○音読・書写・漢字練習につけくわえて、内容読解にも力を入れて指導する。 ○個々の基礎力と弱点を把握する。	
9	○「メッセージ探しの旅」	○7月まで学習した内容を復習させ、試験対策を行う。	○前期試験
10	○「漢字の性格」	○音読・書写・漢字の練習を行わせる。	○はっきりと発音する。正しい文字を書く。
11	○「漢字の性格」 ○聞き書きの練習	○音読・書写・漢字、更に読解にも力を入れた指導を行う。 ○単語練習から短い文章の聞き書きができるように練習させる。	
12	○「漢字の性格」 ○敬語練習	○音読・書写・漢字、更に読解にも力を入れた指導を行う。 ○敬語を使い分けられるよう練習させる。	○尊敬語と謙譲語を混同させない。
1	○「漢字の性格」	○音読・書写・漢字・読解の練習を指導すると共に、試験に向けての対策を行う。	
2	○まとめ	○個々の基礎力を弱点を把握する。	○後期試験
3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 日常生活における「読み」「書き」「表現力」を指導する。
○ 職場実習を見据えた「敬語」「社会で使う挨拶・言葉」を習得させる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○敬語	○敬語の復習を行うと共に、挨拶などの実践練習を行う。 ○個々の基礎力を把握すると共に、個に応じた目標を設定する。	○基本的な敬語を正しく言えるようにする。
5	○子供たちの晩餐	○音読練習を行うと共に文章の大筋を理解させる。(「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」) ○漢字の読み、語句の意味を理解する。	
6	○子供たちの晩餐 ○聞き書き	○音読、書写を行い、文章の大筋を理解させる。 ○単語、短い文を聞き書きする。 ○正しい文字で書く。	
7	○子供たちの晩餐 ○まとめ	○音読、書写、漢字練習に加え、登場人物の心情などの読解を行う。 ○個々の基礎力と弱点を把握する。	
9	○子供たちの晩餐	○7月までに学習した内容を復習させ、試験対策を行う。	○前期試験
10	○水かまきり	○音読、書写、漢字の練習を行う。	
11	○水かまきり ○敬語 電話対応	○音読練習を行うと共に、文章の大筋を理解させる。 ○職場実習に向けて敬語（挨拶）を再確認させる。また、基本的な電話対応を理解させる。	
12	○水かまきり ○敬語 電話対応	○音読、書写、漢字練習を行うと共に読解指導を行う。 ○社会人としての敬語（挨拶）および電話対応を確実なものとする。	
1	○水かまきり ○社会に出てから必要となる挨拶と言葉 ○1年間のまとめ ○作文	○音読、書写、漢字、読解の練習を指導すると共に試験に向けての対策を行う。 ○学校内でも実践させ、場面に応じた正しい使い方を習得させる。 ○今年度学習した内容を振り返り、3年次につなげる。 ○1年間のまとめとして感想文を書く。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 社会自立に必要な「書き方」「話し方」について重点的に指導する。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○敬語 ○聞き書き	○敬語についての知識をつけさせると同時に、敬語を使えるようにさせる。 ○人の話す内容を聞きながら書く練習をさせる。	
5	○敬語 ○挨拶 ・「水の東西」	○職場実習に向けて、社会的なマナーの確認を行うと共に、その必要性に関しても理解を深める。 ○文章読解を行う。	
6	・「水の東西」 ○聞き書き ○進路考査に向けて	○内容を読解すると共に、文中の漢字練習をさせ、音読練習をさせる。	○進路考査
7	○進路考査復習 ○会話におけるマナー ○手紙の書き方	○日常生活における話し言葉の重要性を再確認し、上手なつき合い方を学ばせる。住所など書く位置、書き方を確認させる。	
9	○手紙の書き方	○お礼状などを書くため、手紙の形式について確認させる。	
10	・「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか」 ○聞き書き	○音読練習により内容を読解させる。 ○人の話す内容を聞きながら書く練習をさせる。	
11	・「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか」 ○作文	○音読練習により内容を読解させる。 ○文章を書く機会を増やし卒業後、手紙や日記を書くことを習慣化させる。(※プランノート記入に活用させる。)	○5W1Hを意識させる
12	・「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか」	○音読練習により内容を読解させる。	
1	○1年間のまとめ ○後期試験に向けて ○後期試験復習 ○3年間のまとめ	○今年度学んだ内容を振り返ると共に、卒業後の生活にどう活かしていくか、そのノウハウを学ばせる。 ○卒業式練習を通して、壇上で話す一言を、推敲、実践練習を重ねる。 ○3年間の学習活動を振り返り、まとめとする。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》○身近な日本語を英語で音読、書写することで語彙力の向上を図る。
○英語の歌、映像などをととして英語学習の楽しさを体験する。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○数字の英単語（1～12）	○英語の授業についての年間予定などを伝える。 ○数字の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。	○一人ひとりの個性を把握する。 ○音読は大きな声ではっきり発音するように声をかける。 ○英語を書写するとき、きれいな文字で書くように促す。
5	○月の英単語 ○自己紹介	○月の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。 ○自己紹介の英語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組みお互いに自己紹介をする。	
6	○教科の英単語 ○曜日の英単語	○教科の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。 ○曜日の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。	
7	○好きな教科	○好きな教科を表す英文を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。	
9	○前期試験対策	○前期試験の範囲を復習し、小テストを行うことで知識の定着を図る。	○前期試験
10	○動物の英単語 ○食べ物の英単語	○動物の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。 ○食べ物の英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。	
11	○持っている物の英単語	○持っている物の英文を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。	
12	○スポーツの英単語 ○後期試験対策	○スポーツの英単語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み問題を出し合う。 ○前期試験の範囲を復習し、小テストを行うことで知識の定着を図る。	
1	○後期試験対策 ○1年間のまとめ	○前期試験の範囲を復習し、小テストを行うことで知識の定着を図る。 ○1年間で学習した英単語、英文の復習を行うことで知識の定着を図る。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》○社会に出て役に立つ英語の基礎を学習する。
また、基礎的な英語の学習と共に日本語の学習も行う。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○できること・得意なこと①	○スポーツの英単語を何回も音読書写して覚える。	
5	○できること・得意なこと②	○お手伝いや得意なことの英語の表現を何回も音読書写して覚え、canを使った英文で表現する。	
6	○将来の夢①	○職業についての英単語を何回も音読書写することで覚える。	
7	○将来の夢②	○自分の将来の夢を英文で覚え、クラスで発表する。	
9	○誕生日に欲しいもの ○前期試験対策	○ものの名前を暗記させ、最終的には「誕生日には～が欲しい。」という英文を覚えさせる。	○前期試験
10	○好きなものを比べる①	○食べ物や動物の英単語を何回も音読書写して覚える。	
11	○好きなものを比べる②	○フルーツ、動物など同じ種類のものを暗記させ、最終的には「私はAよりBが好きです。」という英文を覚えさせる。	
12	○友だち紹介①	○性格を表す英単語を何回も音読書写して覚える。	
1・2	○友だち紹介② ○1年間のまとめ	○友だちを紹介する文章を覚えさせ、クラスの友だちや他のクラスの友だちを紹介できるようにさせる。 ○まとめプリントをととして、理解度を確認する。4月からの単語、基本文、身近な英語の復習をする。	○後期試験
3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 身近な日本語を英語で音読、書写することで語彙力の向上を図る。
○ 英語の歌、映像などをおして英語学習の楽しさを体験する。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○オリエンテーション ○好きなこと①	○英語の授業についての年間予定などを伝える。 ○好きなことを表す英語を音読、書写することで暗記する。また、ペアを組み自分の好きなことを発表する。	○一人ひとりの個性を把握する。 ○音読は大きな声ではっきり発音するように声をかける。 ○英語を書写するとき、きれいな文字で書くように促す。
5	○好きなこと②	○好きなことを英文で表現できるよう、何回も音読書写することで覚える。	
6	○時間	○時間を表す英語を何回も音読書写することで覚える。	○進路考査
7	○毎日すること①	○毎日することの英単語を何回も音読書写することで覚える。	
9	○毎日すること② ○前期試験対策	○毎日することの英文を何回も音読書写することで覚える。 ○前期試験の範囲を復習し、小テストを行うことで知識の定着を図る。	
10	○放課後すること、習いごと	○放課後すること、習いごとの英文を何回も音読書写することで覚える。	
11	○特に好きなもの（色）	○好きな色を英語で何回も音読書写することで覚える。	
12	○特に好きなもの（スポーツ）	○スポーツの名称を英語で何回も音読書写することで覚える。	
1	○行ったことがある場所 ○後期試験対策 ○1年間のまとめ	○行ったことがある場所を英文で表現できるよう何回も音読書写することで覚える。 ○前期試験の範囲を復習し、小テストを行うことで知識の定着を図る。 ○1年間で学習した英単語、英文の復習を行うことで知識の定着を図る。	○後期試験
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム

《活動目標》 ○ 歌唱をとおして、音楽の楽しさを味わう。
○ 歌える曲のレパートリーを広げる。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○発声、発音練習 ○校歌、学園歌 ○リズムトレーニング（RAP）	○口形、構音指導を行う。 ○少しでも音程が出せるよう1音ずつ覚えさせるようにする。 ○J-POP(RAP)などを使って、発音を明瞭にすると共に、リズム感を養う。	○短期間で生徒一人ひとりの能力を把握し、5月以降のカリキュラム進行修正を当月中に実施する。
5	○発声、発音練習 ○リズムトレーニング（RAP） ○合唱コンクール選曲開始 →曲決定（チームC）	○口形、構音指導を行う。 ○J-POP(RAP)を使って、発音を明瞭にすると共に、リズム感を養う。 ○各クラスの特徴が出るよう、合唱曲に拘らず、さまざまなジャンルから選曲させる。	○元気で前向き、アップテンポな曲となるよう誘導する。 ○ピアノ伴奏者候補者出し。
6	○発声、発音練習 ○リズムトレーニング（RAP） ○合唱コンクール課題曲 および自由曲練習開始 ○伴奏者 AUD 開催（クラス内） ★合唱完成率目標：30%	○口形、構音指導を行う。 ○J-POP(RAP)を使って、発音を明瞭にし、リズム感を養う。 ○読譜目標：60%（曲全体の流れを掴む） ○伴奏者→決定 ○伴奏者練習スケジュール完成	○例年よりも早めの始動により完成度を高める。 ○担任との相談により、いち早く伴奏者を決定し、6月半ばより伴奏練習を開始する。（目標20%） ○クラス練習用音源作成
7	○合唱コンクール課題曲、 および自由曲 ○指揮者 AUD 開催（クラス内） ★合唱完成率目標：60%	○読譜目標：100%（歌詞を覚える）	○7月末には読譜を終え、夏休み明けより本格的な練習に入ることを目標とする。
9	○発声、発音練習 ○リズムトレーニング(LAP) ○合唱コンクール曲目 ★合唱完成率目標：80%	○口形、構音指導を行う。 ○J-POP(RAP)を使って、発音を明瞭にし、リズム感を養う。 ○本番同様の形でとおし練習が行えるところまで仕上げる。（ピアノ伴奏含む）	○学年クラス練習のサポート ○各クラスには1日3回以上の練習を依頼する。
10	○合唱コンクール曲目 ○学園歌 ★合唱完成率目標：90%	○本番同様の形で、通し練習 ○徹底的な歌い込みにより、完成度を高める。	○学年クラス練習のサポート
11	○学園歌 ○校歌 ○合唱コンクール曲目 ★合唱完成率目標：100%	○式典参加を意識させ、姿勢などの指導も行う。 ○本番同様の形で、通し練習をする。 ○徹底的な歌い込みにより、完成度を高める。	★紫峰祭
12	○合唱コンクール本番 ○校歌	○まとめ	★合唱コンクール
1	○発声、発音練習 ○リズムトレーニング（RAP） ○「仰げば尊し」 ○「翼をください」 ○校歌 ○友愛会送別会、卒業式練習（校歌、仰げば尊し）	○口形、構音指導を行う。 ○J-POPなどを選曲し、発音を明瞭にすると共に、リズム感を養う。 ○送別会、卒業式で歌う趣旨を理解させ、心を込めて歌うことを学ばせる。	
2・3			※キャリアプランニングカリキュラム ★卒業式

- 《活動目標》 ○ さまざまな働き方を知らせ、自己の現状に即した、目標設定を行う。
- 職業教育の意味を理解し、社会人となる自覚を持たせる。
- 保護者に対して適切な情報提供をし、職場実習に向けての準備をしていく。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○身だしなみの確認 ネクタイの結び方、リボンなどの着用を含めた確認 袖や一番上のボタンの締めについても確認 ○教材・教具を用いた作業前トレーニング 教材・教具の名称を知るところから始めその活用の仕方を学ぶ 個人の能力・ADL（日常生活動作）・知的レベル・指示理解力（口頭指示・視覚モデルの提示）の把握	○個人面談 面談にて生徒の個性に関する情報共有・就労に向けた意識改革 ○プランノートの使い方 本校の取り組みに関しての理解を深め学校との連携を図る ○家庭への働きかけ 挨拶・返事・買い物・交通ルール・家庭での役割（お手伝い） ○合同保護者研修会（学園全体） 多くの同胞を確認し新たな生活を確立していく	○生徒の個性を把握する ○行政や法人主催の事業説明会への参加 ○第1回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会 ○合同保護者研修会（学園全体） 新たに始まる学園生活を前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する
5	○身だしなみ・常備品の確認 ハンカチ・ポケットティッシュなどの常備を含めた確認 内ポケットの有効活用 ○縦割り清掃開始 箒・塵取りの使い方・雑巾の絞り方 ○教材・教具を用いた作業前トレーニング 計数練習・練習用資材での封入練習・挨拶と報告	○保護者研修会 就労に向けた意識改革 職業教育の主体となる専門教科の体験実習を行い、教科への理解を深める ○家庭への働きかけ 身辺管理…清潔感・持ち物管理 社会的マナー…食事のマナー 公共交通機関の活用など	○生徒の個性を把握する ○行政や法人主催の事業説明会への参加 ○学校生活への順応 連休明けの学校生活については特に細かく観察し学年クラスと情報共有していく
6	○作業学習開始 労働への意味理解・習慣化（持続性など）、正確性・作業速度の強化、報告「終わりました」、報・連・相（ほう・れん・そう） ○身だしなみの確認 気温の変化に応じた衣服の調節・汗の処理の仕方（汚れものの管理）を含めて確認	○保護者研修会 卒業生の保護者を招いてディスカッションをとおして就労に向けてのイメージをつかむ さまざまなタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る	○生徒の個性を把握する ○保護者研修会 疑問点への対応 企業就労・福祉就労 愛の（療育）手帳…知的障害 精神障害者保険福祉手帳…発達障害 など
7	○作業学習 4～7月の復習 報告「終わりました」 計数（紙を数える・10の束） 生徒の能力に応じて、補助具を利用するなどの工夫 一斉・個別指導のなかで指示理解力を高める	○三者面談 療育手帳について 進路に対する意識 作業学習について 夏季休暇中の過ごし方	○生徒の個性を把握する ○三者面談 必要に応じた情報提供 ○第2回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会
9	○作業学習 4～7月の復習 報告「終わりました」 計数（紙を数える・10の束） 生徒の能力に応じて、補助具を利用するなどの工夫 一斉・個別指導のなかで指示理解力を高める	○保護者会 夏休みの過ごし方について振り返り、今後の教育についての確認 中学生までの様子と異なる意識や姿勢について列挙していくことで目標設定に役立てていく ○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演から学ぶ	○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○作業学習 報告「終わりました」 計数（紙を数える・10の束） 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用するなどの工夫 一斉・個別指導のなかで指示理解力を高める ○農業従事研修（山梨・チロル学園） 障がい程度中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をさせる（2泊3日） ジャムの箱作り・稲刈り・稲干しなど	○保護者研修会 外部講師（企業・福祉事業所・行政の担当者など）を招いての講演をとおして社会状況を現状を知る 個で役立てることは、直ぐに行動を起こせるようにする ○農業従事研修 この研修で得たことを確認し、家庭生活と異なる事象に対して、社会生活をイメージする	○保護者研修会 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う ○作業学習 この取り組みの様子から、より実社会に即したスキルを学べるように進め方について検証する
11	○作業学習 報告「終わりました」 計数（紙を数える・10の束） 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用するなどの工夫 一斉・個別指導のなかで指示理解力を高める ○学園祭営業 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受	○保護者研修会 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修をとおして、企業就労および福祉就労のイメージを具体化していく	○保護者研修会 前年度の卒業生の様子を1分程度にまとめ上映する場面に応じたコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する ○作業学習 この取り組みの様子から、より実社会に即したスキルを学べるように進め方について検証する
12	○作業学習 報告「終わりました」 計数（紙を数える・10の束） 丁合い・封入 生徒の能力に応じて、補助具を利用するなどの工夫 一斉・個別指導のなかで指示理解力を高める ○第1回校内実習 卒業生の働いている様子を映像で見て、労働についての知識を得ると共に自身の働く姿を想像し、作業意欲の向上 正確な作業、報告・伝達の徹底	○三者面談 進路の方向性が具体化しているかの確認 作業学習・校内実習の課題共有 地域の情報収集について進捗確認とその活用	○三者面談 進路指導における情報提供 ○校内実習で生徒の個性把握 作業学習で検証した進め方がどの様に活かされるか否かの再検証 ○第3回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会
1	○作業学習 個人の作業能力の強化 作業速度の向上 ○タイムカード練習開始（卒業まで） 職場実習・就労を意識して、出退勤のシステムを覚える	○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく	○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する
2	○スキルアップトレーニングカリキュラム 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 個人の能力把握、挨拶・報告・連絡・相談の徹底、指示理解や手順の順守等について確認 休み時間の過ごし方の指導	○保護者研修会 今年度実施した研修会のまとめ OB会（卒業生およびその保護者の会）の存在について ○三者面談 親の会での活動など 進路の方向性の決定	○保護者研修会 ○三者面談 進路指導における情報提供
3	○スキルアップトレーニングカリキュラム 2月活動内容と同様 ○1年次のまとめ 働くということや生活面における挨拶・礼儀や身だしなみなどについて再確認を行い、次年度につなげる	○1年次のまとめ 職業教育を実践してきた1年間を振り返り、その費やした時間から得た成果を確認する さらには、次年度に繋げる目標が到達点から逆算であることを再認識する	○第4回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会

- 《活動目標》
- 自立心・向上心・責任感を身につける。
 - 希望する進路の方向性決定。
 - 保護者に対して適切な情報提供をし、職場実習に向けての準備をしていく。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○作業学習 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方を学ぶ 役割分担の把握 周囲への気配りのあり方について学ぶ 必要に応じて、進路指導部が立ち会い、より実社会に即した職業スキルやマナーについて学ぶ ○卒業生の進路先確認 先輩の進路先を確認することで、自己目標をより具体化していく 何が必要であるかを確認する機会とする	○個人面談・保護者会 生徒の状況を作業学習・生活面からアセスメントし、情報共有する 就労に向けた具体的準備の始まり ○行政・法人主催の説明会への参加 どのような制度があって、どのようなサービスを受けることができるか確認する ○合同保護者研修会（学園全体） 1 年体験した職業教育で得た社会性・職業スキルを、数多くの同胞と共に確認し、新たな生活の指針とする	○各地域行政機関との情報交換 福祉事業所の充足状況や新規設立などに関する情報収集を兼ねる ○実習先職場開拓 ○第 1 回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会 ○合同保護者研修会（学園全体） 1 年体験した学園生活をさらに前向きなものとしていけるよう、基本としている 明るい挨拶を受付で実践する
5	○第 2 回校内実習 職場実習に向けて、社会人として必要な体力を身につけ、心構えやマナーを学ぶ 個々の課題の確認、克服に努める スピードを意識して作業を行う 報告、相談、伝達する力をつける 状況判断力を身につける ○農業従事研修（山梨・チロル学園） 障がい程度中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をする（3泊4日） 除草作業・さくらんぼ収穫・ニラの苗植えなど	○保護者研修会 職場実習全般についての理解を深めさせると共に保護者としての心構えを持つ ○行政・法人主催の説明会への参加 どのような制度があって、どのようなサービスを受けることができるか確認する ○農業従事研修 この研修で得たことを確認し、家庭生活と異なる事象に対して、社会生活をイメージする	○保護者研修会 職場実習全般に関わる情報提供を行い、後期には本格化する実社会における進路活動に向けての心構えを伝える ○各地域行政機関との情報交換 福祉事業所の充足状況や新規設立などに関する情報収集を兼ねる ○実習先職場開拓 学校生活から鑑みる職域の新規開拓および卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う
6	○作業学習 校内実習での課題克服 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方を反復学習 ○職場体験実習事前指導 挨拶、返事を含めた基本的な事柄をはじめ、姿勢や目線を合わせることで、さらには簡単な質問に堂々と答え、分からないことには「分かりません」と言える勇気など面接で役立つスキルアップを行い、意識する	○保護者研修会 卒業生の保護者を招いてディスカッションをとおして、就労に向けての意識の向上を図る さまざまなタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る	○保護者研修会 疑問点への対応 企業就労・福祉就労 愛の（療育）手帳・・・知的障がい 精神障がい者保険福祉手帳・・・発達障がいなど ○実習先職場開拓 学校生活から鑑みる職域の新規開拓および卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う
7	○作業学習 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方 指示レベルを高める 残業を入れる ○職場体験実習事前指導 電話による連絡・報告練習 挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識	○三者面談 職場体験実習に向けて、生徒自身も学んでいること(電話による連絡・報告練習/挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識)を確認し、家庭で準備していくことを知る 校内実習などにおける課題克服に向けて夏休み中の過ごし方に配慮していく 夏季休暇中に福祉事業所での体験活用	○実習先職場開拓 学校生活から鑑みる職域の新規開拓および卒業生がお世話になっている事業所への打診を行う ○三者面談 必要に応じた情報提供 ○第 2 回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会
9	○チャレンジショップにおけるインターンシップ開始（9月～2月末） ショップにおける業務に従事することによって、働く経験を積み重ねる ○第 3 回校内実習 通常の作業実習に加え、実習先の課題を分析し、それに対するシミュレーション訓練を取り入れる ○職場体験実習事前指導 挨拶、返事を含めた基本的な面接対応練習 電話による連絡・報告練習 挨拶・返事・身だしなみ・時間の意識	○進路説明会 職場体験実習に向けての情報収集 職場実習日誌の記入から、事業所の方との関わりについて学ぶ 職場実習におけるルールの確認 進路希望調査①記入に関する留意事項の確認 職場実習費の意味合いを知り、定着支援の必要性を感じる ○チャレンジショップにおけるインターンシップ開始（9月～2月末） 職場体験実習とは別に、本校独自のインターンシップのあり方を知り、ショップが保護者の為のお店でもある意識を高めていく ○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演から学ぶ	○実習先職場開拓 ○進路説明会 就労までの手順説明 保護者への情報提供 進路希望調査①の記入説明 実習費の必要性について、データを提示しながら説明する ○実習調整 クラスと生徒情報・進路先情報を共有し、生徒の個性と職場の環境や業務内容などのマッチングをさせていく ○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○職場体験実習（順次） 職場実習詳細打ち合わせ（進路担当・クラス担任） 事前面接・通勤トレーニング 企業もしくは福祉事業所における職場体験実習をとおし、現場での作業を体験させると共に就労に向けての課題を明確なものとしていく 職場実習終了の電話報告（毎日） 職場実習日誌の記入 終了後、実習礼状の送付 ○作業学習 報告・連絡の徹底 計数・丁合い・封入・はさみ、のりの使い方 職場体験実習の事前・事後指導を意図した取り組みとしていく	○保護者研修会 外部講師（企業・福祉事業所・行政の担当者など）を招いての講演をとおして社会状況を知る 個で役立てることは直ぐに行動を起こせるようにする ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 クラスと生徒情報・進路先情報を共有し、生徒の個性と職場の環境や業務内容などのマッチングをさせていく ○保護者研修会 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う ○職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う 家庭への連絡を必要に応じて行い実生活に活かすよう促す
11	○職場体験実習（順次） 10 月活動内容と同様 ○作業学習 10 月活動内容と同様 ○学園祭営業 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受	○保護者研修会 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修をとおして、企業就労及び福祉就労のイメージを具体化していく ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 ○保護者研修会 前年度の卒業生の様子を 1 分程度にまとめ上映する場面に応じたコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する ○職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行い実生活に活かすよう促す
12	○職場体験実習（順次） 10 月活動内容と同様 ○作業学習 10 月活動内容と同様	○三者面談 体験職場実習での反省をもとに今後の課題を明確にする これから実習に取り組む場合には、事前の確認を行う ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 ○保護者研修会 ○職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う ○第 3 回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会
1	○職場体験実習（順次） 10 月活動内容と同様 ○作業学習 10 月活動内容と同様	○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 ○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する ○職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う
2	○職場体験実習（順次） 10 月活動内容と同様 ○スキルアップトレーニングカリキュラム 職場体験実習の反省を活かし、課題に取り組む 休憩時間の過ごし方について確認 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り 報告・連絡・ミスへの対処	○保護者研修会 今年度実施した研修会のまとめ OB 会（卒業生及びその保護者の会）の存在について ○三者面談 2 年次の実習における課題の確認 3 年次の職場実習について 余暇の過ごし方（公共施設の利用など）について ○職場実習での家庭としての支援 10 月の活動内容と同様	○実習先職場開拓 ○職場体験実習フォロー支援 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う ○保護者研修会 手帳更新や次年度行う重度判定について知らせる 詳しくは、次年度再度行うことを強調
3	○職場体験実習（順次） 10 月活動内容と同様 ○スキルアップトレーニングカリキュラム 2 月活動内容と同様 ○2 年次のまとめ 2 年次の振り返りを行い、3 年次の職場実習への意識づけから自覚していく	○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 ○体験職場実習フォロー 随時巡回指導を行う 実習終了時に振り返りを行う ○第 4 回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会

《活動目標》 ○ 目標設定した進路に向け、スキルを高めていく。

○ 労働の意味を理解し、職業人となる自覚を持たせる。

○ 保護者に対して適切な情報提供をし、就労（企業・福祉）に向けた準備をしていく。

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
4	○作業学習 報告・連絡・相談の徹底 特に相談が難しいので反復練習に取り組む ○第4回校内実習 職場実習に備えて意識づけを行う 労働習慣の修得度を確認する ○卒業生の進路先確認 先輩の進路先を確認することで、自己目標をより具体化していく 何が必要であるかを確認する機会とする	○個人面談・進路説明会 生徒の状況をアセスメントし、情報共有する 就労決定に向けた職場実習への意識を高める ○行政・法人主催の説明会への参加 ○卒業生の進路先確認 自身の子どもの社会自立をイメージする ○合同保護者研修会（学園全体） 1年体験した職業教育で得た社会性・職業スキルを確認し、新たな生活の指針とする	○実習先職場開拓 ○行政・法人主催の説明会への参加 ○各地域行政機関との情報交換 ○第1回東京都就業促進研究協議会 多摩地区拡大ブロック会 ○合同保護者研修会（学園全体） 1年体験した学園生活を更に前向きなものとしていけるよう、基本としている明るい挨拶を受付で実践する
5	○職場実習準備 身だしなみの再確認 時間の管理 交通機関の利用 電話応対 職場実習の記入 ○作業学習 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り さまざまな作業種への対応	○保護者研修会 就労に向けての流れを再確認し、保護者として職場実習への心構えを持つ 療育手帳の成人更新・重度判定に関する細かな手続きについて理解する ○行政・法人主催の説明会への参加 時の流れと共に変化していく精度については、常に情報収集し学園と共有していく意識を持つ	○実習先職場開拓 ○行政・法人主催の説明会への参加 ○各地域行政機関との情報交換 ○実習調整・実習日程調整 クラスと情報交換をし、2年次の実習を踏まえて3年次の実習先を調整する その際、課題に関する進捗も必ず確認し事業所の方に伝達していく
6	○作業学習 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り さまざまな作業種への対応 ○就労決定に向けた職場実習開始 職場実習詳細打ち合わせ（進路担当およびクラス担任） 事前面接・通動トレーニング 企業もしくは福祉事業所における職場体験実習をとおし、現場での作業を体験させると共に就労に向けての課題を明確なものとしていく 職場実習終了の電話報告（毎日） 職場実習日誌の記入 終了後、実習礼状の送付	○保護者研修会 卒業生の保護者を招いてディスカッションをとおして就労に向けてのイメージをつかむ さまざまなタイプの先輩保護者の実践を聞き取り、個に即したヒントを得る ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○実習先職場開拓 ○職場実習フォロー支援 内定をいただけるように企業・家庭両社への緊密な連絡を心がける 巡回指導の徹底 内定がいただけない場合は、すぐに次の実習先の検討・開拓を始める ○保護者研修会 疑問点への対応 企業就労・福祉就労 愛の（療育）手帳・・・知的障がい 精神障がい者保険福祉手帳・・・発達障がいなど
7	○作業学習 報告・連絡・相談 丁合い・封入・封緘・ラベル貼り さまざまな作業種への対応 ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 ○農業従事研修（山梨・チロル学園）障がい程度 中度・重度の生徒を対象として、農業分野での職場体験をする（3泊4日）	○三者面談 生徒の進路活動状況に応じた面談とする ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入 ○農業従事研修 社会性・職業スキルの向上を実感していく	○実習先職場開拓 ○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様 ○ハローワークへの求職登録・知的障がい者の重度判定申請 ○第2回東京都就業促進研究協議会 多摩地区拡大ブロック会
9	○作業学習 内定者は職場実習での弱点強化 未定者 職場実習に向けての課題克服 基本的な職業スキルの欠落があれば復習する 新たに事業所より提示された仕事の進め方があればその流れのとおりに進めていけるよう、可能な限り同様な環境のもと反復演習し体得する ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 更に同期で表面化している、問題行動に関して我がこととして捉えることで、卒業後、役立ていけるようなスキルを身につけていく	○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入 ○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演から学ぶ	○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様 ○求人票依頼・選考試験に向けて（9/15以降） ○合同保護者研修会（学園全体） 外部講師の講演より、新しい物の見方、考え方を吸収し、進路活動に役立てていく この講師については、教育センターと連携して今必要な情報提供ができる方を探していく

月	指 導 内 容	留 意 事 項	そ の 他
10	○作業学習 内定者は職場実習での弱点強化 未定者は職場実習に向けての課題克服 ○就労決定に向けた職場実習 職場実習詳細打ち合わせ（進路担当・クラス担任） 事前面接・通動トレーニング 企業もしくは福祉事業所における職場体験実習をとおし、現場での作業を体験させると共に就労に向けての課題を明確なものとしていく 職場実習終了の電話報告（毎日） 職場実習日誌 終了後、実習礼状の送付	○保護者研修会 外部講師（企業・福祉事業所・行政の担当者など）を招いての講演を聞き、社会の状況を知る ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○保護者研修会 進路指導に関する情報提供 企業・福祉・行政の方を招いて、現状に即した講演から、知識の整理を行う ○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様 ○求人票依頼・選考試験に向けて（順次）
11	○作業学習 内定者は職場実習での弱点強化 未定者は職場実習に向けての課題克服 ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 ○学園祭営業 営業事前練習販売 挨拶・言葉遣い 金銭授受	○保護者研修会 前年度卒業生の就労の様子ビデオ研修企業就労および福祉就労のイメージを具体化していく ○職場実習での家庭としての支援 職場実習先の情報を把握する 実習先との連携・協力 生徒の家庭での様子について留意する 職場実習の記入	○保護者研修会 前年度の卒業生の様子を1分程度にまとめ上映する場面に 応じたコメントを加えることで、強いインパクトを与えられるよう留意する ○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様 ○求人票依頼・選考試験に向けて（順次）
12	○作業学習 内定者は職場実習での弱点強化 未定者は職場実習に向けての課題克服 ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 進路未決定者についてはピンポイントの教科指導を行うことで、自信をつけていく 手順などで迷うケースが多いため、どのように行うかではなく、なにを作り上げていくかを具体的に知らせ理解を高める	○三者面談 進路先と保護者の付き合い方 未決定者への配慮 ○職場実習での家庭としての支援 6月活動内容と同様 ○障害福祉サービス受給者証申請（福祉就労）	○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様 ○求人票依頼・選考試験に向けて（順次） ○障がい福祉サービス受給者証申請の情報提供（福祉就労） ○第3回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会
1	○作業学習 内定者は職場実習での弱点強化 未定者は12月のカリキュラムを継続する ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 ○金銭について（給与等） 給与をいただくこと、またその使い道などについて考える	○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による、教育現場に即した講演内容から活用できることを吸収していく ○職場実習での家庭としての支援 6月活動内容と同様	○合同保護者研修会（学園全体） 内部講師による講演内容から、進路指導に役立てることを整理する ○求人票依頼・選考試験に向けて（順次） ○職場実習フォロー支援 6月活動内容と同様
2	○スキルアップトレーニングカリキュラム 作業学習のまとめ ○就労決定に向けた職場実習 6月活動内容と同様 ○内定先ご挨拶 内定先にご挨拶に伺い、4月からの入社・入所に向けての心構えを持たせる	○内定先ご挨拶 内定先にご挨拶に伺い、家庭の協力体制を示し、4月以降良好な関係が築けるようにしていく ○保護者研修会 今年度実施した研修会のまとめ OB会（卒業生およびその保護者の会）の存在について療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳の更新 障がい福祉サービスの利用について 企業・福祉事業所との付き合い方 余暇の過ごし方 卒業後も、学園とは連携していることを再確認し、卒業後の定着に向け連携していくことを確認	○内定先ご挨拶（生徒・保護者含む）内定先と生徒・保護者の良好な関係が気づけるように努める （このタイミングで、契約を交わすことが多い） ○保護者研修会 卒業後も、在学時同様職場定着フォロー支援を展開していることを強調し、何か変化があったときには、嬉しいことでも、困ったことでも連絡できる環境であることを強調する
3	○内定先ご挨拶 内定先にご挨拶に伺い、4月からの入社・入所に向けての心構えを持たせる ○スキルアップトレーニングカリキュラム 作業学習のまとめ ○3年間のまとめ 社会に向けての心得 企業への入社、福祉事業所への入所に向けた気持ち作り、意欲の向上を目指す	○内定先ご挨拶 内定先にご挨拶に伺い、家庭の協力体制を示し、4月以降良好な関係が築けるようにしていく ○障がい福祉サービス事業所との利用契約 受給者証の発行手続きの進捗確認 事業所との契約	○内定先ご挨拶（生徒・保護者含む）内定先と生徒・保護者の良好な関係が気づけるように努める ○入社（所）日／入社（所）式などの確認 ○第4回東京都就業促進研究協議会多摩地区拡大ブロック会

